



\* 0007783000 \*

0007783-000

特 2 1 7 - 8 2 8

警察執務書式

新潟県警察練習所学友会

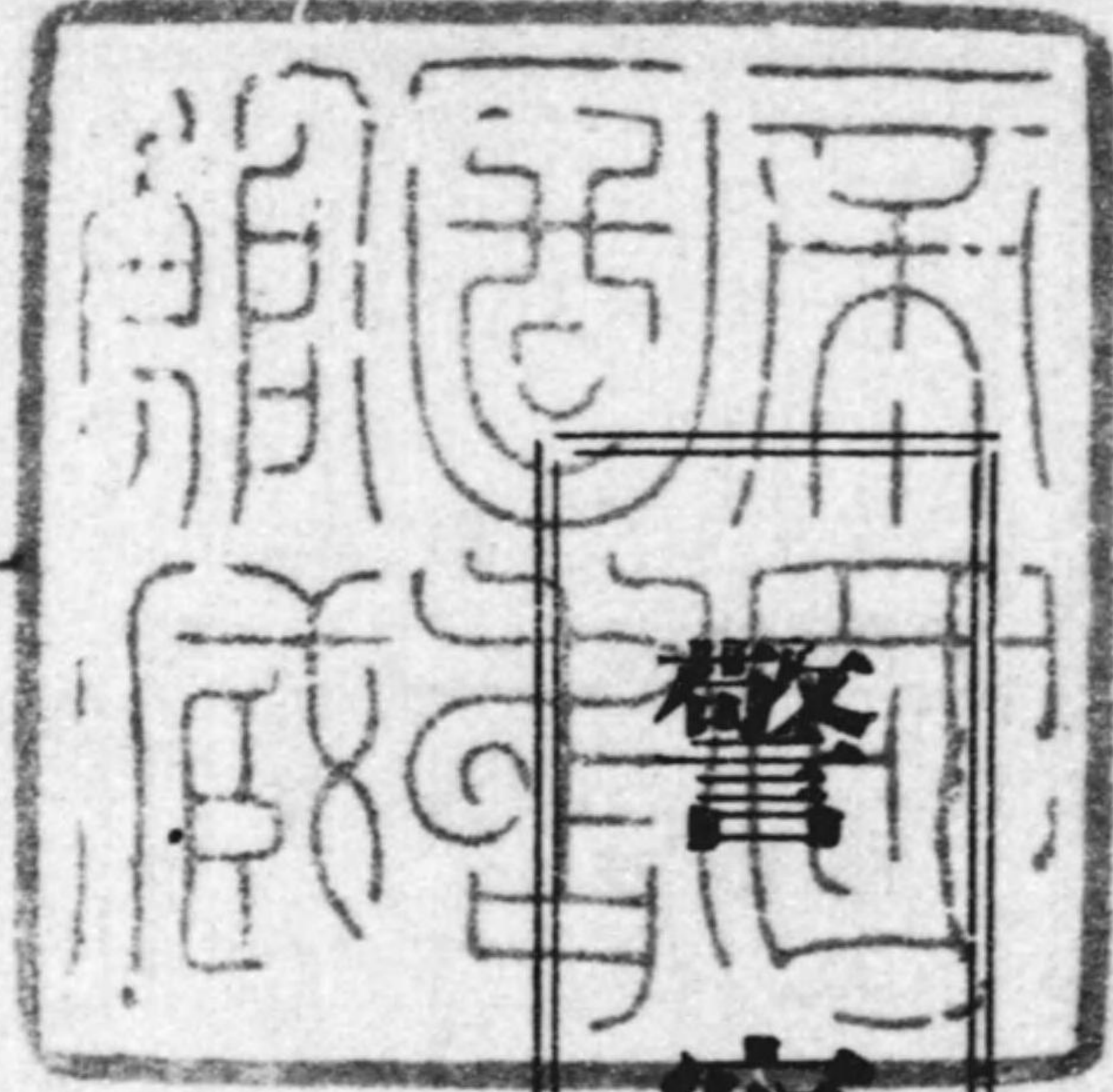
昭和 1 4

ABH



特 217

828



警察執務書式





# 警察執務書式目次

第一章	緒言	一
第二章	執務文書ノ意義	二
第三章	執務文書ノ種類	二
第四章	文書處理ノ要領	三
第一節	執務上ノ心得	三
第二節	文書作成上ノ注意	六
第三節	文書ノ様式	八
第二編	行政文書	
第一章	報告書	一
第一節	注意報告	一
第二節	注意報告ノ意義	一
第三章	警察使命ト注意報	二
第四章	警察署長ト注意報告	二
第四	注意報告ノ方法	三





第五	注意報告ノ效果	一四
第六	注意報告事項	一四
第七	注意報告書ノ作成	一七
第八	注意報告文例	一八
一、	思想容疑者發見ニ關スル件	一八
二、	政談演說會開催計畫ノ件	一九
三、	篤行者ニ付報告	一九
四、	傳染病容疑者發見ノ件	二〇
五、	浮浪者ニ關スル件	二一
六、	時局講演會開催ニ關スル件	二二
第二節	事故報告	二二
第一款	事故報告ノ意義及種類	二二
第二款	事故報告上ノ注意	二三
第三款	事故報告文例	二三
第一款	出火報告	二四
一、	出火消止ノ件	二四
二、	出火報告	二六
三、	放火ノ疑アル火災事件即報	二七
四、	火災報告様式	二八

五、	災害取調表	二九
第二	水害報告	三四
第三	雪害事故報告	三五
第四	風害報告	三六
第五	鐵道事故報告	三七
第六	自動車事故報告	三九
第七	工場災害事故報告	四五
第八	電氣事故報告	四六
第九	人命救助ニ關スル件	四七
第十	中毒者報告ノ件	五〇
第十一	變死傷者事件取扱	五一
第三節	定期報告	五六
第一款	定期報告上ノ注意	五六
第二款	統計	五七
第二章	復命書	五八
第一節	復命書ノ意義	五八
第二節	復命書ノ種類	五九
第三節	復命書作成上ノ注意	五九
第一	營業警察ニ關スルモノ	五九



第二	許可認可願届出ニ關スル事實調査復命ニ對スルモノ	六三
第三	身元調査	六四
第四	其他ノ調査復命	六六
第四節	復命書作成上ノ文例	六六
第一款	營業願出ニ對スル調査復命	六六
一、料理屋營業願出ニ對スル調査復命	六七	
二、宿屋營業許可願出ニ對スル調査復命	六九	
三、カフェ營業許可願出ニ對スル調査復命	七二	
四、「カフェ」「バー」營業所工事落成検査復命	七五	
五、理髮營業許可願出ニ對スル調査復命	七六	
六、結髮營業許可願出ニ對スル調査復命	七七	
七、鑛泉浴場營業許可願出ニ對スル調査復命	七八	
八、清涼飲料水營業ニ對スル調査復命	七九	
九、氷雪營業願出ニ對スル調査復命	八〇	
十、牛乳營業者願届ニ對スル調査復命	八一	
十一、食肉營業許可願出ニ對スル調査復命	八五	
十二、屠畜營業許可願出ニ對スル調査復命	八六	
十三、古物商營業免許願出ニ對スル調査復命	八六	
十四、浴場營業許可願出ニ對スル調査復命	八八	

第二款 身元及事實調査復命

一、假設興行許可願ニ關スル件復命	八八
二、山野火入許可願ニ關スル件復命	八九
三、遊技場開設認可願ニ對スル調査復命	九二
四、煙筒建設許可願ニ關スル調査復命	九三
五、勞働者災害扶助法適用届ニ關スル調査復命	九四
六、景品提供届出ニ關スル調査復命	九四
七、射撃場設置願ニ關スル調査復命	九五
八、飲用井泉新設届出ニ對スル調査復命	九六
九、自家用屠殺届出ニ關スル調査復命	九七
十、切迫屠殺届出ニ關スル調査復命	九八
十一、診療所開設届出ニ關スル調査復命	九八
十二、傳染病豫防消毒	一〇〇
傳染病患者家消毒狀況報告	一〇七
傳染病系統其他調査方ノ件報告	一〇九
傳染病患者自宅治療願出ニ對スル調査復命	一一一
十三、精神病患者監置願出ニ關スル調査方ノ件	一一二
十四、代用精神病院入院許可申請ニ對スル調査方ノ件	一二四
十五、狩獵免狀下附願ニ對スル調査方ノ件復命	一二六



十六、銃砲火藥類	一二九
(一) 火藥類讓受許可申請ニ對スル調査方ノ件復命	一三〇
(二) 火藥類使用許可申請様式	一三四
(三) 有害鳥獸驅除願	一三四
(四) 火藥類讓受許可申請ニ對スル調査方ノ件復命	一三六
十七、煙火打揚許可願ニ關スル調査復命	一三七
十八、工場設置許可願ニ關スル調査復命	一四〇
十九、原動機設置許可願ニ關スル調査復命	一四三
二十、汽罐設置許可願ニ關スル調査復命	一四四
二十一、市街地建築物法	一四六
(一) 建築線指定申請願出ニ對スル調査復命	一四六
(二) 建築届出ニ對スル調査復命	一四六
二十二、營利職業紹介事業許可願出ニ對スル調査復命	一四七
二十三、遊藝鑑札下附願ニ關スル調査復命	一四九
二十四、代害人願出ニ關スル調査復命	一四九
二十五、寄附金募集許可願ニ對スル調査復命	一五〇
二十六、慈善行商許可願ニ對スル調査復命	一五〇
二十七、印判職願出ニ關スル調査復命	一五一
二十八、醫業類似行爲届出ニ關スル調査復命	一五一

二十九、鍼術試驗出願ニ關スル調査復命	一五二
三十、産婆試驗願出ニ對スル調査復命	一五四
三十一、醫師免許證下附申請ニ對スル調査復命	一五五
三十二、按摩術免許鑑札下附願ニ對スル調査復命	一五七
三十三、看護婦免許申請ニ對スル調査方ノ件復命	一五八
三十四、消防組員ノ身元調査復命	一六二
三十五、理髮試驗願出ニ對スル調査復命	一六四
三十六、理髮従事者届出ニ對スル調査復命	一六五
第三章 口頭受理	一六六
第四章 電話取扱	一六九
第五章 管區事務	一七三
第一節 管區日誌ノ記載方	一七三
第二節 拾得物取扱	一七七
第三節 管區執行事務統計表	一七八

第三編 司法文書

第一章 司法警察文書ノ意義	一七九
第一節 司法警察文書ノ一般的要件	一八〇
第二節 司法警察官吏ノ書類作成要件	一八四



第三節 司法警察官吏ノ文書作成上ノ注意 …… 一八七

第二章 通常捜査書類 …… 一八九

第一節 犯罪被害届ノ受理 …… 一八九

一、窃盜被害申告書 …… 一八九

二、犯罪ノ即報 …… 一九一

第二節 捜査報告書 …… 一九二

一、空米賭博ノ風評ニ關スル件 …… 一九二

二、盜難事件捜査報告書 …… 一九三

三、窃盜事件捜査報告 …… 一九四

四、捜査見分報告書 …… 一九五

五、實況見分書 …… 一九六

第三節 變死体報告 …… 二〇一

一、他殺ノ疑アル變死事件發生ノ件報告 …… 二〇二

二、變死者檢視調書 …… 二〇三

第四節 其他ノ司法關係書類 …… 二〇五

第一節 始末書 …… 二〇五

(二)(一) 始末書(被害者及被疑者以外ノ者ノ提出セルモノ) …… 二〇五

被害始末書 …… 二〇六

第二節 任意授受及假還付請書 …… 二〇七

(二)(一) 任意授受書 …… 二〇七

保管(假還付)請書 …… 二〇八

第五節 犯罪報告書 …… 二〇九

(二)(一) 犯罪報告書文例 …… 二一〇

二ツ以上ノ犯罪アル場合 …… 二一〇

第六節 違警罪報告 …… 二一三

報告書(取締法令違反文例) …… 二一四

報告書(警察犯處罰令違反文例) …… 二一五

違反文例 …… 二一六

第三章 強制捜査書類 …… 二一九

第一節 現行犯人ヲ逮捕スル場合及書類作成上注意スベキ事項 …… 二一九

第一 現行犯人ヲ逮捕シ得ル場合 …… 二一九

第二 輕キ罪ノ現行犯人逮捕ノ條件 …… 二一九

第三 準現行犯人逮捕ノ場合 …… 二二〇

第四 逮捕手續書及逮捕願末書作成上ノ注意 …… 二二一

第五 作成文書ノ文例 …… 二二一

(二)(一) 窃盜現行犯人逮捕ノ手續書 …… 二二二

窃盜準現行犯人逮捕願末書 …… 二二三



第四章 素行調書作成上ノ注意 …………… 一二四

(一) 素行調書文例ノ一 …………… 一二七

(二) 素行調書文例ノ二 …………… 一二九

第四編 身分上文書ノ文例

一、具申書ノ一 …………… 一三二

二、具申書ノ二 …………… 一三一

三、巡查名簿異動届 …………… 一三二

四、宿 所 届 …………… 一三三

五、勤續證下付願 …………… 一三三

六、休 暇 願 …………… 一三四

七、病氣缺勤届 …………… 一三四

八、看護歸省願 …………… 一三五

九、忌 引 願 …………… 一三五

十、旅 行 願 …………… 一三六

十一、醫療申告書 …………… 一三六

十二、無稅自轉車鑑札下附願 …………… 一三七

十三、證 明 願 …………… 一三七

附 錄 之 部

一、警察報告例目 …………… 二四一

二、管區事務成績表 …………… 二五三



# 第一編 總論

## 第一章 緒言

執務書式トハ新任警察官吏ガ其ノ職務上各般ノ執務ニ關スル文書作成上ノ圓滑ヲ期セシメンガ爲ニ其ノ文例又ハ法令ノ根據ヲ示シテ之ニ習熟セシメ職務遂行上ノ完璧ヲ期セントスルヲ目的トスルモノデアアル。凡ソ如何ナル職業モ一度轉職ナリ新ニ就職シタ場合ニ於テハ至極簡單ナ、一仕事スラ思案投首テ不要領ニ終ル事ハ誰シモ肯定シ得ル事實デアアル。而シテ不要領作ラモ之ヲ爲シ得ルハ良好ナル成績ト言フベク、全々其ノ仕事ニ手ヲ付ケ得サル場合ニ遭遇スル事ハ敢テ珍ラシイコトデハナイノデアアル。殊ニ警察事務ハ實力行使ト事務處理ノ兩方面ニ亘リ巷間説ヘラル、ガ如ク「警察官ハ容易ナ職業デアリ藁人形モ衣裳カラデ只何人モ制服ヲ着用スレバ仕事ハ自然ニ出來ル」ト言フガ如キ簡單ナモノデハナイノデアツテ、如斯見方ハ一見警察行政トシテ各種反社會性ノ未然防止、規則違犯ノ發見闘争者ノ檢束、傳染病患家消毒、交通整理犯人ノ搜查檢擧ト言フカ如キ外部的事務ニ對シ皮相ノ觀察ヲ爲シタル謬見ニシテ其ノ反面ニ於テ警察官ガ机上ニ於ケル事務ノ之ニ附隨スル事ヲ一般社會人ハ毛頭念頭ニ置カス前述ノ如ク制服ヲ着用セバ自然ニ仕事ハ出來ル事ト警察ノ職務ヲ皮相ニ憶斷セラルルハ甚ダ遺憾トスル次第デアアル。警察ノ職務タルヤ前述ノ如ク内外兩方面ニ亘ル事務ノ萬全ヲ期スルニ於テ始メテ其ノ目的ヲ達シ得ラル、ノデアアル。斯様ナ見地ヨリシテ此ノ教習期間内ニ於テ其ノ執務書式ノ一班ヲ學ブモノデアアルガ、其ノ與ヘ



ラレタル時間ハ極メテ僅少デアル。尤モ練習所卒業後尙六ヶ月ノ實務練習期間ヲ置カレテ訓練セラレルノデアルガ、事實上欠員其他事務幅狭ノ爲メ眞ノ實務訓練ヲ施サス一般古參巡查ト同様否ヨリ以上ニ警察事務ニ従事セシメテ居ルヤノ現状ニアルノデアアル。

從ツテ其ノ結果ニ付テハ思ハシカラサルモノモアルノデアアルガ只障碍蹉跌トシテ表面化シナイデ警察ト言フ地味ナ仕事ノ蔭ニ隠レテ急速ニ顯ハレスシテ事務ノ進涉處分ノ適正ヲ期スル能ハス事務ノ涉滞ヲ來シテ居ルニ非スヤト認メラル實情ニアルノデアアル。

練習所ヲ卒業スレバ皆第一線ニ立ツテ華々シイ活動ヲ爲サムト空想ヲ抱イテ居ルノデアアルガ、新任巡查ニシテ執務書式ニ通曉セサルガ爲ニ一度執務スルニ一枚ノ犯罪報告スラ満足ニ作成爲シ得スシテ訂正ヲ命セラレ又復命書ノ如キハ何度モ反古ニシテ作成シ乍ラ尙且訂正セシメラル、ガ如キ事ハ決シテ少クナイノデアアル。

勿論之ガ良否ハ其ノ巡查ノ性質巧拙等ニモ依ルコト大ナルモノアリトハ雖モ練習所ニ於テ充分其ノ準備ヲ整ヘテ置ク必要ノアル事ハ申ス迄モナイコトデアアル。

### 第二章 執務文書ノ意義

警察上ノ執務文書トハ警察官吏ガ職務上作成スル官文書ヲ謂フ

### 第三章 執務文書ノ種類

執務文書ハ行政警察上ニ於テ作成スル行政文書ト司法警察上ニ於テ作成スル司法文書ノ二ニ分類スルコトヲ得。

而シテ行政文書ハ之ヲ注意報告、事故報告、定期報告、復命書等ニ分類セラレ司法警察文書ハ刑事訴訟法司法警察職務規範又ハ司法警察執務細則等ノ規定ニ基キ作成スル書類デアアル。

### 第四章 文書處理ノ要領

#### 第一節 執務上ノ心得

##### 一、事務ハ敏速ニ處理スルコト

警察事務ハ總テ敏速ヲ尊ブ故ニ其ノ日ノ事務ハ即日處理シ即時處理スベキモノハ時ヲ移サズ處理スヘキデアアル。其ノ日ノ事務ハ其ノ日ニ處理スルト言フノハ一切ノ事務ヲ必ズ即時完結セヨト言フノデハナク其ノ日ニ片付ケ得ル事務ハ必ズ即日處理セヨト言フノデアアル。

警察署ノ事務ノ實際ヲ見テモ願届出ニ對シ事實調査、身元調査ノ爲メ相當ノ日數ヲ要シソノ事務ヲ其ノ日ノ中ニ完結スルコトハ困難ニシテ亦望ム所デハナイノデ唯其ノ日ニ運ビ得ル事柄ハ必ズ之ガ取運ビヲ爲シ又其ノ日ニ處理スヘキ事柄ハ必ズ完結シ常ニ來ルヘキ勤務ニ餘猶ヲ與フル様、換言スレバ仕事ニ追ハレズ何時モ仕事ヲ追ヒカケル様心掛クルコトガ肝要デアアル。又事故報告、注意報告等即時處理スヘキモノハ機ヲ逸セズ報告シ警察上ノ參考ニ供スベキデアアル。

然ルニ新任ノ中ハ一通ノ報告復命ヲ作成スルニモ相當困難ナル爲メ其ノ指導ヲ先輩ニ乞フコトヲ苦痛ト



シ後廻シトシ又稍々通曉スルニ於テハ何時デモ出來ルト机ノ抽斗ニ仕舞ヒ込ミ其ノ處理ヲ遷延スル等終始事務ニ追ハレ勝トナリ常ニ不愉快ノ勤務ヲシテ居ルモノガ多ク、又折角ノ報告ヲシテ無價値ニ終ラシムルコトモアルノデアル。

#### 二、調査ノ周密正確ヲ期スルコト

警察事務ハ敏速ヲ尊ブト同時ニ正確デナクテハナラナイノデアル。如何ニ敏速ニ處理スルモ法規ニ違ヒ又其ノ内容不正確ナルニ於テハ處分ハ違法ニシテ内容不正確ナル報告等ハ何等價値ナキモノトアルノデアル。

又調査ノ周密ヲ欠キ材料ニ乏シクシテ報告書作成ニ當リ運筆スル能ハサルニ逢着スルコトモアルノデアル故ニ其ノ調査ハ周密ニシテ正確ナル材料ヲ得ルニ努メナケレバナラナイノデアル。

#### 三、研究ヲ怠ラザルコト

事務能率ヲ増進シ且ツ正確ヲ期スルニハ常ニ之ガ研究ト工夫ヲ爲サナクテハナラナイノデアル。而シテ其ノ研究ハ前例先輩ニ習フコトハ勿論デアアルガ克ク法規ヲ研究シ根據ヲ確メ自信アル勤務ヲ爲スヘキデアアル。

然ルニ動モスレバ新任巡查ハ警察事情及法規ニ通ゼズ勤務モ亦相當激務ナル爲メ前例第一主義ニヨリ處理シツ、アルモノガアルノデアアルガ時ニ危険ナルコトアリ充分注意ヲ要スルノデアアル。

#### 四、不斷ノ思考

勤務ニ忠實ナルモノハ始終何事カヲ考ヘツ、アリ。而シテ其處ニ良キ研究ト工夫トヲ遂ゲ居ラレルノデアアル。念フニ人ノ頭腦ノ善惡ハ多少ノ相違アルモ結局事物ニ對スル熱心ト注意トノ程度如何ニヨリ決セラル、モノデアアル。

金言ニ「出ル時ハ爲スヘキコトヲ考ヘ、歸ル時ハ爲シタルコトヲ想ヘ」トアリ。此ノ言ハ吾人ニ對シ寔ニ良キ教訓ヲ與ヘタモノト言ハナケレバナラナイ。吾人警察官ハ出勤ノ際今日ノ爲スヘキヲ考ヘ退署シテ今日ノ爲シタルコトヲ想ヒ、成功ヲ喜ヒ失敗ヲ悔ヒテ改善スル様不斷ノ思考ヲ怠ラサル様心掛クベキデアアル。

#### 五、未決文書ニ對スル整理整頓

多數ノ未決書類ヲ亂雜ニ爲シ或ハ一括シテ仕舞ヒ込ミ之ニ注意ヲ拂ハサル時ハ報告ノ期限ヲ遅レ或ハ處分ヲ遷延スルニ至ルノデアアル。

受持巡查ノ報告復命遷延ニヨリ其ノ材料纏ラス爲ニ警察署ニ於テハ統計ノ作成、執行務計畫警察部ヘノ申報犯罪事件ノ送致等ニ大ナル支障ヲ來シ責任ヲ問ハル、モノ等屢々アルノデアアルガ、是等ハ其受持巡查ノ怠慢ニモ依ルコト論ヲ俟タサルコロナルモ、一面未決書類ニ對スル整理整頓ヲ爲サマルニ起因スルモノニシテ其ノ整理整頓ニ意ヲ用ヒツ、アルモノハ執務能率優レルハ事實ニ徴シ明カナリ。實ニ「整頓ハ事務能率ノパロメーター」デアアルト言フモ敢テ過言デハナイ。充分整頓ニ留意ヲ望ム次第デアアル。固ヨリ多クノ書類ニ對シ其ノ報告期限等ヲ一々腦裡ニ收メ置クコト困難ナレバ未決書類ハ一定ノ書類挾ニ挾ミ置キ「毎朝一覽」「火急處理」「至急處理」等ト明記シ毎日之ヲ見ルコト、シ既決書類ハ直チニ取外シ既決書類挾ニ入レ又ハ當該書類綴ニ編綴スル等絶對ニ混同シ置クガ如キコトナキ様取扱ハ、大體ニ於テ間違ヒナカラン。

#### 六、執務上ノ書類ハ全部讀了スルコト

執務ニ關スル令達訓令等ヲ接受シタルトキハ必ズ克ク讀了スルコトガ肝要デアアル。然ルニ之ヲ接受シテモ唯其ノ件名ノミヲ讀ミ或ハ内容ヲ熟讀セスシテ直ニ關係ナシトシテ放置スルモノ往々ニシテアルノデ



アルガ、是等文書ハ一言一句モ残サズ讀了スルコトニ平素心掛ケ訓令々達ニ示サレタ主旨ヲ了得シ(至急報告、措置、何月何日迄報告、該當アラバ報告、折返シ報告)訓令達ノ趣旨ニ副フベク注意スヘキデアル。口頭下命アリタルモノ其他ノ口頭受理ハ必ず文書ニ認メ置キ處理スルコト

口頭下命其ノ他ノ受理ハ往々ニシテ忘却シ思ハザル失策ヲ招クコトアリ。口頭下命、傳言、依頼、電話接受等ノ場合ハ必ず文書ニ認メ處理スルニ努メナケレバナラナイ。警察ノ如キ變化多キ事務ニ従事スルモノハ特ニコノ記載主義ガ肝要デアアル。

### 第二節 文書作成上ノ注意

- 一、文書ノ標題ヲ書クコト  
文書ノ標題ヲ書クコトハ一見其ノ文書ノ内容ヲシテ識別シ得ルノ便益アリ。故ニ其ノ標題ハ新聞ノ標題ヲ見ルガ如ク極メテ具体的ナルコトヲ要スルノデアアル。例ヘバ「衛生ニ關スル件」ヨリモ「腸チブス疑似患者發生ノ件」「下宿營業ニ關スル件」ヨリモ「モグリ下宿屋取締要望ノ件」等ノ如ク標題ニヨリ其ノ報告内容ヲ判別シ得ル様ニ心掛クベキデアアル。
- 二、文書構成ノ三要素ニ注意スルコト  
文書作成ニ際シテハ
  - 1、事實發生ノ時
  - 2、同 場 所
  - 3、事 項

(原因、狀況、結果、關係シタル人)

ヲ必ず具備セシムルガ肝要デアアル。

三、文飾ヲ用ヒザルコト  
報告書、復令書ハ美文ニ非ラザルヲ以テ文飾ヲ避ケ至ツテ平易簡明ニ記載シ且ツ冗長ニ亘ラズ事實有ノ儘ヲ表明スル様留意シ形容等ノ美文ヲ連ネルコトニヨツテ事實ノ真相ヲ破壊スルガ如キコトナキ様注意シナケレバナラナイ。

四、文字ハ明確ナルコトヲ要ス

文字ハ楷書又ハ行書ヲ以テ明瞭ニ認メ達筆ナリト雖判讀ヲ要スルガ如キ記載ヲ爲サザル様注意スベキデアアル。

五、誤字、脱字、當字等ヲ用ヒ又假名ノ使用ヲ誤ラザルコト

誤字、脱字等ヲ用ヒザル様注意スベキハ勿論、當字ヲ用フルガ如キ不見識ナキ様不明ノ文字ハ辭書ニヨリ之ヲ確メ修學ノ一トモナスベキデアアル。又方言ヤ土地ノ訛リヨリ文字ノ使用ヲ誤ルモノヲ見受ケラル如斯モノハ相當注意シナケレバナラナイ。

六、文字ヲ改竄シ又ハ挿入シタルトキハ其ノ上欄ニ其旨記入シ改竄挿入ノ個所ニ認印スルコト

此際改竄挿入ケ所ヲ不体裁ニ涉ラサル様注意ヲ要ス。

七、規定ノ用紙アルモノハ必ず之ヲ使用スルコト

八、二枚以上ニ亘ルモノハ必ず可成強靱ナル細キ紙撚ヲ以テ結び目ヲ裏面ニシテ編綴シ折目ヲ付ケルコト  
此際紙ニ大小アルモノハ必ず綴代ト紙ノ下部ヲ揃へ且ツダラシナキ緩太ナル紙撚ヲ使用セザル様注意ヲ要ス。



九、認印ヲ落サザル様注意シ規定アル司法書類ニ非ラスト雖二枚以上ノ場合ハ契印スルコト  
一〇、非常ニ長文ニシテ複雑ナル記述ヲ爲ス場合ハ何々ノ件左記ノ通りトシ

- 一、何々
- 二、何々
- 三、何々

ト項目ヲ分チ列記スル方法ガ文書ヲ作成シ易キノミナラズ讀ム人ヲシテ意味ヲ了得セシムルノ利益アリ

- 一一、地理的關係アルモノハ必要ニ應ジ略圖ヲ添付スルコト
- 一二、一旦報告セル事項ニシテ未結果ノモノハ更ニ結果ヲ報告シ其ノ事件ノ顛末ヲ明カニスルコト
- 一三、文書作成ニ際シテハ尙ホ各項ノ位置ヲ注意シ不体等ニ涉ラサル様スルコト

### 第三節 文書ノ様式

#### 一、行政警察文書

行政警察文書ニハ一定様式ノ定ガアルモノト然ラザルモノガアル

(一) 様式ノ定メナキモノ

行政警察文書ニシテ特ニ様式ノ定メナキモノハ文書ノ内容ニ依リ適宜半野紙又ハ全野紙ヲ用ヒテ大要左ノ如ク記載スベキデアル。

(1) 内容簡單ナル場合

昭和何年何月何日

第何管區受持  
巡查 氏

名 ④

何警察署長

(警部) 何

某 殿

所在調査ニ關スル件復命

本籍 何 縣 何 郡 何 町 何 番 地

戸主 何業

何

生 年 月 日 某

本年何月何日第何號御下命ニ依リ右者ノ所在ヲ調査候處何月何日ヨリ受持區内何町何番地何々商何某方ニ雇人トシテ居住致居候條此段及復命候也

(2) 内容複雑ナル場合

昭和何年何月何日

第何管區受持  
巡查 何

某 ④

何々警察署長

地方警視 何

某 殿

身元調査ニ關スル件復命

本籍 何 縣 何 郡 何 町 何 番 地  
住所 何 縣 何 郡 何 町 何 番 地



戸主

何業

何

生年月日 某

何月何日附何號ヲ以テ右者ニ對スル首題ノ件依命調査スルニ左記ノ通りニ有之候條此段及復命候也

記

一、本籍、住所、職業、氏名、年齢  
別紙

記載ノ通り相違ナシ

二、性質素行

本人ハ性質粗暴口論ヲ好ミ「喧嘩安」ト綽名ヲ附セラレ居ル者ナリ且懶惰無恥ノ者ニシテ其ノ妻ヲ強ヘテ轉々酌婦稼業ヲ爲サシメ之ニ依リ酒色ニ耽リ居ル者ナリ

三、前科ノ有無

本籍地ニ非ザルニ付詳細不明ナルモ昭和何年何月何日何々裁判所ニ於テ賭博罪ニ依リ罰金何圓ニ處セラレタルコトヲ豫テ本人ニ於テ自供シタルコトアル者ナリ

四、其他參考事項

本人ハ家主何某ノ言ニ依レバ本月何日頃外出シタル儘未ダ歸宅セス且妻ノ雇ハレ先明カナラザル爲詳細不明ナリ

以上ノ如ク様式ノ定メナキモノハ文書ノ内容ニ依リ適宜半罫紙又ハ全罫紙ニ先ツ初行ニ年月日

作成者ノ官職氏名

宛名人ノ官職氏名

次ニ文書ノ標題(件名)ト順次各行ニ記載シ次ニ本文ニ移ルヲ例トス

(二) 様式ノ定メアルモノ

行政警察文書ニハ一定様式ノ定アルモノガ多イ之等ノ文書ハ必ず定メラレタ用紙ヲ使用シ規定ノ様式ニ依リ作成スベキデアル。

二、司法警察文書(司法書類)

司法警察文書ハ前述ノ如ク警察官吏ガ司法警察上作成シ又ハ取扱フ文書デアツテ刑事訴訟法、司法警察職務規範等ノ規定ニ依ルベキデアル。而シテ其ノ種類ハ極メテ多ク又司法警察官タル警部補以上ニ於テ作成シ又ハ取扱フモノデアアルガ捜査報告書、逮捕手續書、逮捕顛末書等ハ司法警察吏トシテ巡査ガ作成スルノデアアル。

# 第二編 行政文書

## 第一章 報告書

### 第一節 注意報告

第一、注意報告ノ意義



警察官吏ハ常に周到ナル注意ヲ以テ警察上必要ナル諸般ノ事項ノ發見ニ努メネバナラス。而シテ發見シタル事項ニ對シテハ其ノ性質ニ依リ保護シ指導シ又ハ警戒スル等發見者ニ於テ必要ナル處置ヲ爲シ以テ警察目的ノ達成ニ努ムベキデアルガ尙發見事項ニシテ本署ニ於テ處理ヲ要スル事項又ハ一般警察上ノ參考トナルベキ事項ナルトキハ勿論尙モ上司ノ參考ト爲スニ足ルモノト思料シタルトキハ警察ニ關係アリト否トニ拘ラズ速ニ之ヲ署長ニ報告スベキデアリ此ノ報告ヲ注意報告ト謂フ。(巡查服務規程第八條)

第二、警察ノ使命ト注意報

行政警察規則第一條ニハ「行政警察ノ趣旨タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ」トシ第四條ニハ「行政警察ノ力及ハスシテ法律ニ背クモノアルトキ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス」ト明言シテ居ルノデアツテ既ニ發生シタ危害ハ之ヲ芟除撲滅スルハ言フ俟タス一面社會的の危害ヲ未然ニ豫防排除シ以テ治安ノ維持ニ努メ社會ノ康寧ヲ確保スルコトガ警察ノ使命デアル。而シテ其ノ目的ヲ達セムトセハ川路大警視ノ所謂「形ナキニ見、聲ナキニ聞ク」ヲ信條ニ勤務中ハ勿論私生活ニ於テモ視聽ヲ廣クシ社會ノ事象ハ細大トナク最モ周到ナル視察ヲ遂ゲ其間ニ端緒ヲ得ルニ努メ見聞シタル事項ハ細大トナク敏速正確ニ報告スヘキデアル。

從來注意報告ニ依リ當ニ迷宮ニ入ラムトシタ大事件ノ端緒ヲ得テ解決シ不良分子ノ騷擾的陰謀ヲ未然ニ防止シ或ハ多衆集合シテ陳情請願ヲ爲サムトスルヲ豫メ適當ナル方策ヲ講ジ或ハ取締上法規ノ欠點不備杜撰ヲ指摘シテ之ガ改正ノ機運ヲ作ラシメ或ハ部内經濟界ノ趨向等ニヨリ管内民衆ノ生活狀況ヲ知ル等其ノ効果ノ實例枚擧ニ追ガナイノデアル。

第三、警察署長ト注意報告

警察署長ハ署長室ニ收マリ極メテ晏如タルガ如キモ一警察署ノ首長ニシテ身体ニ於ケル腦漿ノ如ク部下巡查ヲ末梢神經トシ部下ヨリ得タル注意報告ニヨリ適當ニ判斷シ是ヲ手足タル部下ニ命令シ以テ警察ノ機能ヲ全フスルニアル重責ニアルモノニシテ身体ハ靜止スル如キモ頭腦ハ實ニ不眠不休デアル。

「只見れば何の苦もなき水鳥の足にひまなき我が思ひかな」ト謂フ古歌ガアルガ警察署長ノ地位ハ實ニ此ノ歌ノ通りデアル。從ツテ吾人ハコノ署長ヲ中心トシ手足トシテ忠實勤勉其職務ニ服サザル可ラス特ニ外勤巡查ハ末梢神經トシテ受持區域内百般ノ事象ハ宛ラ掌中ヲ見ルガ如ク徹底シタル視察ヲ爲シ警察上參考トナルヘキ事項ハ細大トナク署長ニ報告シ署長ヲシテ管内ノ事情ニ精通セシメ以テ適切妥當ナル警察行政ノ執行ヲ爲サシムベキ重大ナ責任ヲ有スルノデアル。

然ルニ往々ニシテ視聽ノ敏活ヲ欠キ又重要ナル報告材料ヲ聞知シ乍ラ「斯様ナ微細ナル事案ハ報告スルモ大人氣ナシ」トシ又「巡查ノ耳へ這入ル位ナラバ署長モ充分聞込ミ居ルコトナラム」ト自己一分ニ於テ取捨撰擇シ或ハ其ノ勞ヲ惜ミ報告ヲ遷延シテ時期ヲ逸スル如キ例ハ少クナイノデアル。

斯クテハ署長ヲシテ部内ノ全部ニ對シ通セシムルヲ得ス全ク半身不隨症ニ陥ラシムルニ至ルノデアル。署長ヲシテ中風症タラシムルモ然ラサルモ一ニ受持巡查ノ注意ト不注意ニアルノデアル。署長ガ部下ヲ信賴シ「何々方面ハ何々巡查ガ居リ眞ニ安心ダ」ト言フノハ其處ニ配置セラレタモノハ注意頗ル周密ニシテ警察ノ注意報告ヲ懈怠セサル爲メデアル。

如斯注意報告ハ重要ナルモノナルヲ以テ警察署長ハ時々成績優良者ヲ表彰シ成績ノ向上ヲ計リツ、アルノデアルガ之ヲ等閑ニ付スルモノナキニ非ラス時々注意報告ニ關スル訓示ヲ受ケ居ル實狀ニアルハ寔ニ遺憾ノ次第デアル。警察官吏タルモノ充分留意ヲ要スルノデアル。

第四、注意報告ノ方法

注意報告モ緊急ヲ要スル事項ト然ラサルモノトガアリ夫々報告上留意ヲ要ス



一、緊急事項ノ場合

發見シタル事項ニシテ急速報告ヲ要スル場合ハ電話其他ノ方法ヲ以テ即時本署ニ報告スベキデアル。又報告内容ガ種々ノ理由ニ依リ電話報告ヲ不適當トスル場合ニハ直ニ本署ニ出頭シ口頭ヲ以テ直接報告ヲ爲スベキデアル。

若シ報告遅延スルトキハ本署ニ於テモ時機ヲ逸シ適切ナル處置ヲ講スルコトヲ得ス折角ノ注意報告モ其ノ用ヲ爲サザルニ至ル虞ガアルカラ注意スベキデアル。

而シテ電話又ハ口頭ヲ以テ報告ヲ爲シタルトキニ於テモ原則トシテ後刻注意報告書ヲ作成シテ提出スベキデアル。

二、特ニ急ヲ要セザル場合

發見シタル事項ニシテ急速ヲ要セザル場合即チ普通ノ事項ナルトキハ即時電話又ハ口頭ヲ以テ報告スル必要ハナイガ發見後成ルベク速カニ報告書ヲ作成シテ提出スベキデアル。

第五、注意報告ノ效果

注意報告ノ效果ニ關シテハ第三、警察署長ト注意報告ノ項ニ於テ説明セルガ如ク警察署長ガ其ノ管内ニ於ケル警察行政ノ運用ノ資ニ供スルノミナラズ更ニ其ノ報告ニ基キ上級官廳ニ報告シ又新タナル施設計畫ヲ樹テ或ハ改善ヲ計ル等警察目的ノ達成ニ資スルハ勿論政治行政ノ運行ニ對スル改善刷新ノ資料トモナルノデアアル。以テ如何ニ注意報告ガ重要ナルモノデアアルカラ知ルコトガ出來ルノデアアル。

第六、注意報告事項

注意報告ハ前述ノ如ク頗ル廣汎ニ亘リ報告ヲ爲ス事ヲ要スルモノデアリ其ノ資料發見上注意スベキ主ナルモノヲ舉グルバ概ネ左ノ如シ

一、情報(書記室)警察上

(一) 一般政治其ノ他ノ狀勢ニ關スル事項

(二) 各種議員選舉ニ關スル情報

(三) 縣政其他陳情ニ關スル事項

二、特高警察上

(一) 左右政黨ニ關係アル者ノ政治運動ニ關スル事項

(二) 重要ナル時事問題ニ關スル狀況

(三) 請願陳情等ニ關スル狀況

(四) 農漁山村等ニ於ケル特異ノ狀況

(五) 集會及屋外運動ノ特異ノ狀況

(六) 各種宗教ノ抗爭及新ナル布教

(七) 經濟的狀況ニ依ル民心ノ動搖

(八) 工場鑛山地域ニ於ケル部民ノ特異ノ言動

(九) 各種爭議

(十) 要視察人ノ住所異動及其ノ動靜

(十一) 思想上ノ容疑者ヲ發見シタルトキ

(十二) 新聞雜誌其ノ他出版物ノ掲載事項ニ關スル風聞

(十三) 外國人ノ住所異動其ノ他參考事項

(十四) 不穩ビラノ印刷配付貼付等ノ事實



二、司法警察上

- (一) 犯罪ニ關スル風評
- (二) 犯罪ニ關スル不審者
- (三) 犯罪捜査ニ關スル參考トナルベキ事項

三、保安警察上

- (一) 官公吏學校教員神官僧侶其他教導ノ職ニ在ル者ノ品行等ニ關スルコト
- (二) 公有物ノ損壞
- (三) 孝子義僕節婦又ハ不孝不義遊惰ナル者ニ關スル件
- (四) 貧困ニシテ救護ヲ要スル者
- (五) 家庭ノ不和、喧嘩、爭鬪、老幼不具者ノ虐待等ニ關スル件
- (六) 注意スベキ祈禱所行者等ノ行爲
- (七) 投機思惑等ニ關スル件
- (八) 交通其ノ他一般危險ノ箇所
- (九) 精神病者ノ發見及其ノ狀況
- (十) 賭博若ハ風俗ニ關スル風評

四、衛生警察上

- (一) 醫師及產婆等ニ關スル風評
- (二) 不正ニ藥品ノ製造販賣ヲ爲ス虞アルモノ

- (一) 飲食物及各種飲料水ニシテ有害ト認メラル、モノ
- (二) 傳染病ノ疑アル者
- (三) 井水ノ不良ト認メラル、モノ
- (四) 衛生ニ關スル迷信竝ニ其ノ影響
- (五) 以上ハ前述ノ通り注意報告資料ノ發見上注意スベキ主ナルモノヲ列擧スルニ過ギズ注意報告ノ資料タルヤ如何ナル日如何ナル場所ニ於テモ平素ノ視聽ヲ敏活ニシ周匝ナル注意ヲ怠ラサルニ於テハ容易ニ之ヲ發見シ得ラル、ニ付キ充分留意スルト共ニ特ニ社會的衝動ヲ與フヘキ案件ニ對シテハ直チニ其ノ輿論意嚮等ヲ内査シ報告スベキデアル。

第七、注意報告書ノ作成

一、作成上ノ注意

注意報告書ノ作成ニ當リテハ第一編第四章第一節乃至第三節ノ各項ニ留意スルノ外概ネ左記事項ヲ明瞭ニ記載スルヲ要ス。

- (一) 件名
- (二) 發見又ハ聞知ノ日時
- (三) 發見ノ動機及場所
- (四) 被報告者ノ住所氏名生年月日
- (五) 發見又ハ聞知ノ事實
- (六) 其他參考事項



二、記載様式

注意報告書ノ記載様式ニ付テハ特ニ定メテ指定シタル場合ハ其ノ様式ニ依ルベキハ勿論ナルカ様式ノ定ナキ場合ニハ左ノ如ク罫紙ヲ用ヒテ普通報告文書ノ様式ニ依ルベキデアル。而シテ何レノ場合ニ於テモ其ノ報告内容ガ一見判然スルヤウ記載スルコトニ心掛クベキデアル。様式ノ定ナキ場合ノ注意報告書記載例ハ左ノ通り

第八、注意報告文例

(文例ノ一)

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 何

某 ㊦

何々警察署長

警部 何

某 殿

思想容疑者發見ニ關スル件

自稱 本籍

何 縣

何 郡

何 町

何 番地

住所

新潟縣

何 郡

何 町

何 番地

自稱 著述業

何

當 何 年

某

右者何年何月何日肩書地ニ轉入シタル者ニシテ著述業ト稱シ居ルモ學生風ノ男女頻ニ出入シ時ニ

深夜密談シ居ルコト等思想上容疑ノ點有之候條此段及報告候也

追而本人ノ前住地ハ何縣〇〇市〇〇區〇〇町〇〇番地ナリシ趣ニ付本籍地及前住地ニ身元調査

御照會相成度申添候

(文例二)

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 何

某 ㊦

何警察署長

警部 何

某 殿

政談演說會開催計畫ノ件

日本大民黨新潟縣支部ニ於テハ來ル二十五日午後六時ヨリ市内古町通十八番地昭和劇場ニ於テ時局批判演說會ヲ開催ノ豫定ニテ中央ヨリ辯士ノ來援ヲ交渉中ノ趣ニ付此段及注意報告候也

(文例三)

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 氏

名 ㊦

〇〇警察署長

警部

殿

篤行者ニ付報告



新瀧縣何郡何村大字何々番地  
戸主 農 山 村 富 太 郎  
當 五十八年

右者肩書地ニ自作農ヲ營ミ居ル者ニシテ相當資産ヲ有シ居村內ニ於テ信用厚キモノナルガ頗ル敬神ノ念ニ富ミ毎年村社八幡宮ノ祭典費トシテ若干ノ寄附ヲ爲シ來リ又私財ヲ投シテ敬神思想普及ノ爲メ名士ヲ聘シテ講演會ヲ開催スル等思想善導ニ盡ス所アリシカ今秋行ハセラレタル彌彥神社何々門御造營ニ際シ匿名ヲ以テ同社務所ニ宛テ金參千圓ヲ寄附シタル事實有之候條此段及報告候也

(文例四)

昭和何年何月何日

第何管區受持  
巡查 何

某 ㊦

何々警察署長

警部 何

傳染病容疑者發見ノ件

何月何日受持內何々町ニ對シ戸口調査ヲ爲スニ何町氷屋何某ヨリ何町何番地何某方ニハ毎日冷シ氷ヲ需要シ居ル模様ヲ聞知シ更ニ同町某藥種商ニ就テ調査スルニ同様「下熱劑」ヲ毎日ノ如ク購求スル趣キ依ツテ同家方ニ赴キ檢病的ニ戸口査察ヲ爲シ家人ニ病者ノ有無ヲ尋ネタル處答辨ニ當惑ノ模様アリ頗ル不審ニ就キ病狀詳細尋ネタルニ感冒ナリトテ同家ノ妻女何某及長男何某二名發熱

(文例五)

昭和何年何月何日

第何管區受持  
巡查 何

某 ㊦

何々警察署長

地方警視 何

流浪者ニ關スル件報告

自稱 本籍 何縣 何郡 何町 何番地  
住所 何縣 何郡 何町 何番地  
無職 何

年 某 齡

右者昭和何年何月頃ヨリ肩書地ニ居住シ表面〇〇行商ト稱スルモ一向生業ニ就キタル形跡ナク而モ別ニ生活ニ窮セズ相當ノ衣服ヲ着用シ各所ヲ徘徊スル等動不審ニ付内査スルニ時々賭博ノ見張又ハ賭博ノ案內ヲ爲シ又ハ時々青年等ヲ誘惑シテ遊里ニ導キ幫間的所業ヲ爲シ或ハ他人ノ紛爭事件ニ介入シ口利キヲ爲シ利ヲ得ル等地方人ヨリ嫌忌セラレ全ク生業トシテ見ルベキモノナク注意



中ニ付至急前科ノ有無犯人トシテ捜査中ノ者ニ非サルヤ等原籍照會ノ必要有之モノト思料候ニ付  
右及報告候也

(文例六)

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查何

某

新潟警察署長

地方警視何

某殿

時局講演會開催ニ關スル件注意報

東京日日新聞社ニテハ來ル二十六日午後一時ヨリ新潟市白山小學校ニ於テ新發田聯隊區司令部渡  
邊中佐ヲ聘シ支那事變ニ關スル講演會ヲ開催ノ筈ニ有之此段及報告候也

## 第二節 事故報告

### 第一款 事故報告ノ意義及種類

#### 第一、事故報告ノ意義

事故報告トハ天災地變其他人爲ニ依ル警察上ノ事故ヲ報告スルヲ謂フ  
例バ地ニ等ニ依ル鐵道事故、自動車事故、水火災害、傳染病患者發生其他ノ事故ニ際シ受持巡查又ハ之  
ヲ發見セル警察官吏ニ於テ直ニ其ノ真相ヲ調査報告セシメ其ノ發生セル事故ニ對シ警察上速ニ適切妥當  
ナル措置ヲ講スルヲ以テ目的トスルモノナリ。

#### 第二、事故報告ノ種類

事故報告ニハ其ノ事故ノ性質ニ依リ即時報告ヲ必要トスル即報事件ト其他ノ事故報告トノ二種ニ分類ス  
ルコトヲ得ルモノトス。

##### 一、即報事件

即報事件トハ大正二年十一月十九日訓第五百八十三號警察報告例第九條ニ該當スル事件ニシテ同條該  
當事件發生ノ場合ハ勿論其他ノ事故ニ於テモ重要ニシテ即報ヲ要スルト認ムル事故發生シタル場合ハ  
敏速ニ報告シ警察上適切ナル措置ヲ誤ラザルヲ要ス。而シテ事件ノ性質及其ノ緩急ニ應ジ電信、電話  
又ハ熊夫ヲ利用スル等機宜ノ所置ヲ誤ルベカラス。又事案續報ヲ要スルモノハ其ノ必要ニ應ジ追報シ  
結果ヲ知ルノ要アルモノハ事件ノ結末ヲ報告スル等其ノ處理ヲ誤ラサル様注意スヘシ。

尙警察報告例第九條ハ附録ノ部参照スベシ

##### 二、其ノ他ノ報告

事故報告中其他ノ報告トハ前述セル即報事件以外ノ事故發生ニ對シテ其ノ真相ヲ報告スルヲ謂フ。而  
シテ即報事件ニ非サル事故報告ト雖モ速カニ其ノ真相ヲ調査シ報告セサルベカス。又其ノ事案ニシテ  
續報又ハ結果ノ報告ヲ要スルモノハ即報事件同様追報又ハ事件ノ結果ニ付キ報告ヲ爲シ其ノ處理ヲ誤  
ラザル様注意スルヲ要ス。

### 第二款 事故報告上ノ注意

事故報告ニ關シテハ第一編第四章文書處理ノ要領ニ於テ述べタル第一節乃至第三節ニ留意スベキハ當然ナ  
ルモ特ニ

一、調査ハ迅速正確ヲ期スルコト



二、文書構成ノ要素ヲ漏サザル様注意スルコト

- (一) 事故發生ノ日時
- (二) 事故發生ノ場所
- (三) 事故ノ種別
- (四) 事故發生ノ原因
- (五) 事故ノ態様
- (六) 事故ニ依リ生シ又ハ生セントスル結果
- (七) 事故ニ對スル責任者及其他ノ者ノ取り又取ラントスル處置
- (八) 其他參考事項

三、記載様式ニ付テ

事故報告ノ記載様式ハ其ノ様式又ハ報告事項ヲ指示又ハ命令シ居ルモノ多キニ付キ特ニ第一編第四章第一節執務上ノ心得ニ於テ述ベタルガ如ク平素各法令ニ留意研究ノ上事故發生ノ場合ハ迅速正確ニ即報ノ趣旨ニ違ハサル様所定ノ書式ニ基キ報告スベシ

第三款 事故報告文例

第一、出火報告

火災事故ト雖モ小ハボヤ(出火消シ止程度ノモノ)ヨリ大ハ一市一町ヲ一瞬ニシテ烏有ニ歸スルノ大事件アルハ其ノ實例尠カラズ從ツテ其ノ報告モ即報又ハ其ノ他ノ報告ノ二種別ニ區別セララルモノナリ。尙ホ出火事件ノ場合注意スベキ事項ハ

一、人名救助

二、消防指揮

三、盜難防止

四、出火原因調査等ナルモ明治三十九年一月訓第五號ヲ以テ様式報告上左記各號ノ調査方ヲ命シアリ現場ニ臨ム者ハ特ニ留意ヲ要ス

一、出火及鎮火月日時

二、天候風力並其方向

三、出火原因

四、火元住所、職業、氏名

五、火災場所

六、全半焼棟數、戸數並建物、種別、坪數、損害

七、人畜死傷ノ有無

八、消防組員ノ死傷ノ有無若シアリタル場所ハ其ノ狀況

九、消防奏功ノ狀況

十、水利ノ便否

十一、被害家族救護方法及被救助人員

十二、出場組員數

十三、其他參考事項

文例ノ一 出火消止ノ件報告

昭和何年何月何日



第〇管區受持  
巡查 何

某 ㊦

〇〇警察署長  
地方警視 何

某 殿

出火消止ノ件報告

本日午前五時頃市内〇町〇番地玉木八百吉方臺所ヨリ出火シ大事ニ至ラントスルヲ同人妻ハナガ  
發見シ戸主八百吉及隣家原乙次郎等ト協力シ消止メ僅ニ臺所ノ壁板三尺ノ六尺位及天井裏約一坪  
ヲ焦シタルノミニ止マリタルガ其ノ出火ノ原因ハ八百吉妻ハナガ同日午前四時頃ヨリ臺所ノ竈ニ  
於テ飯ヲ炊キ其ノ殘火ヲ仕末セスシテ座敷ニ入り針仕事ヲ爲シ居リタル間ニ竈ノ前ニ置キタル匏  
屑ニ燃ヘ移リ出火シタルモノニシテ損害トシテハ見積ル程度ノモノ無之候條此段及報告候也

文例ノ二 出火報告

昭和何年何月何日

山ノ下駐在所勤務

巡查 何

某 ㊦

沼垂警察署長

警部 何

某 殿

出火報告

新潟市山ノ下千八百五十一番地

日雇業

松

浦

友

當 三十八年 藏

右者方便所ヨリ本日午前零時三十分頃出火シ折柄東南ノ風ニ煽ラレ同家住家一棟及納屋一棟ヲ燒  
失シ午前二時頃火シタルガ其ノ原因ハ火元友造方長男市太郎當十五年ガ午前零時十分頃提灯ヲ携  
ヘ便所ニ赴キ之ヲ置キ忘レテ寢ニ就キタル後ニ便所ノ柱ニ掛ケ置キタル提灯ヨリ燃移リ出火シタ  
ルモノト判明シ損害左記ノ通ニ有之候條此段及報告候也

記

- 一、木造平家建住宅 一棟二十坪 損害 千圓
- 二、木造納屋 一棟五坪 損害 百圓
- 三、家財一切 損害 千圓

追テ本件ニ對シテハ失火事件トシテ司法上ノ書類ハ作成追報ノ豫定ニ付申添候也

文例ノ三 放火ノ疑アル出火事件即報

昭和何年何月何日

〇〇駐在所

巡查 何

某 ㊦

〇〇警察署長

警部 何

某 殿

放火ノ疑アル火災事件即報

新潟縣〇〇郡〇〇村大字〇〇何番地

戸主

農

富

永

當

福 太郎  
五十年

二七



右者方ヨリ本日午前三時十分頃出火シ同人所有住家一棟ヲ燒失シ午前四時鎮火シタルガ其ノ原因ハ火氣ヲ使用セサル既ニ階ヨリ發火シタルモノニシテ放火ノ疑有之候條至急檢證ノ爲メ係官御派遣相成様致度右及急報候也

追テ本職ハ現場ニ於テ捜査中ニ有之候條此段及申添候也

文例ノ四 火災報告様式

警察報告例第二十一號五戸以上ノ火災官林、官公署、學校、社寺、病院、銀行其他重要ノ關係アル家屋ノ火災及戸數ノ多少ニ拘ラズ火災ノ爲死傷アリタルトキハ明治三十九年一月訓第五號出火報告ノ件ニ基キ左記様式ニ依リ即報ト同時ニ各事項取調ベ迅速報告スルコト

出火及鎮火月日	昭和〇〇年〇月〇日午前十一時三十分頃出火
並天候風力	天候曇天ニシテ東方ヨリノ微風アリ
出火原因	蠶灰ノ不始末ヨリ出火ス
火元住所	新潟縣〇〇郡〇〇町大字〇〇何番地
職業氏名	戸主 農業 五十嵐 太蔵 當 五十年
火災場所	右五十嵐太蔵方屋敷内納屋ヨリ出火シ納屋及同人方住家一棟全燒ス

出火報告

第〇管區巡查 何

某

全半燒棟數	一、住家一棟全燒、木造木羽葺平屋建廿五坪 損害見積額 金五百圓
戸數並建物種別、坪數損害	二、納屋一棟全燒木造木羽葺平屋建十坪 損害見積額 金二百圓 三、家財道具其他燒失 損害見積額 合計 金三百圓 合計損害見積額 金壹千圓位
人畜死傷有無	被害者方ノ牝馬一頭燒死ス 損害百五十圓
組員ノ死傷シタルトキハ其ノ狀況	〇〇町消防組第二部消防手何某ハ消防ニ從事中木材ノ倒壞ニ依リ右足背ニ全治迄ニ約一週間ヲ要スル打撲傷ヲ負ヘ目下〇〇町〇〇醫師ノ治療ヲ受ケツツアリ
消防奏功ノ狀況	火災ノ報知ト共ニ〇〇町消防組第一部第二部第三部共直チニ出動シ消防ニ從事シ隣家ハ東西共僅カ石間ノ距離ニアリタルモ之ガ類焼ヲ防止シ得タルモノナリ
水利ノ便否	水源地ハ出火地點ヨリ六十間ヲ隔リテ用水路一本アルノミニシテ水利極メテ不便ノ場所ナリ
救護方法及被救助人員	被害者方家族ハ老人子供ヲ加ヘ十名ナリシモ出火スルヤ老人子供ハ一早ク同町内親戚何某方ニ避難シ更ニ其他ノ家族ニ於テモ鎮火後同家ニ避難シ救助ノ必要ナシ
出場組員數	〇〇町消防組何名〇〇村消防組何名出場セリ
參考事項	火災原場ハ水利不便ナル位置ニシテ相當人家稠密ノ場所ナリシモ〇〇町消防組ノ勇敢ナル活躍ト適切ナル消防ニ依リ類焼ヲ防止シ得タルモノニシテ同消防組ノ行爲タルヲ相當賞スヘキ點アルヲ認メタリ

文例ノ五 災害取調表

本表ハ警察報告例目中臨時報トシテ規定セラレ事故發生後五日以内ニ調査報告スベキモノナリ







- 1、官公署廳舎
- 2、學校、圖書館
- 3、神社佛閣（堂守其他ノ監守者アルモノ）
- 4、教會、説教所ノ類
- 5、公會堂其他公共ノ用ニ供セラル、建物
- 6、銀行、會社、法人等ノ事務所又ハ營業所
- 7、工場
- 8、娛樂場建物
- 9、停車場建物
- 10、病院
- 11、寄宿舎

第三項 非住家

- 1、倉庫、土藏、車庫
- 2、納屋、物置
- 3、税關上屋
- 4、神社佛閣（堂守其他ノ監守者ナキモノ）

第四項 全半燒

- 全半燒ノ區別標準ハ大要左ノ如シ
- 一、可燃性物ヲ主要材料トスル建物

修補（修繕ニテ足ルモノヲ除ク）ニ依リ再使用ニ堪フル程度ノ燒失ヲ半燒再使用ニ堪エサル程度ノ燒失ヲ全燒トス

二、不燃性物ヲ主要材料トスル建物  
 不燃性ノ部分ヲ除キタル他ノ部分（雜作、家具、商品等）ガ三分二以上燒失シタル時ヲ全燒  
 右ニ達セサルヲ半燒トス但シ三分ノ二以下ノ燒失ナルモ罹災ニ依リ建物ガ修補ニ依ルモ再使用ニ堪エサルニ至リタルトキハ全燒トス

三、一世帯ニ屬スル建物數棟ニ亘ル時ハ世帯ノ全半燒ハ其ノ住居ニ充ツル主タル建物ノ全半燒ノ別ニ依ル

第五項 全半壞

全半壞區別標準ハ大要左ノ如シ  
 一、修補（小修繕ニテ足ルモノヲ除ク）ニ依リ使用ニ堪ヘ得ル程度ノ倒潰ヲ半潰使用ニ堪ヘサル程度ノ倒潰ヲ全潰トス

二、一世帯ニ屬スル建物數棟ニ亘ル時ハ世帯ノ全半壞ハ其ノ住居ニ充ツル主タル建物ノ全半壞ノ別ニ依ル

第六項 棟數

棟數ハ獨立セル建物毎ニ計算ス但シ渡廊下等ニ依リ接續スルモノニシテ其ノ主タル梁ノ接續ナキ建物ハ之ヲ各別棟ト看做ス

第七項 損害見積額調査範圍

本表ニ掲クル損害見積額ハ通例左記範圍ニ付キ調査スルコト



道路、橋梁、河川、堤防、上下水道、田畑等損害ハ之ヲ含メサルコト

一、建物

二、家財（官公署會社等ノ什器、什物、工場ノ設備ヲ含ム）

三、商品、在庫品

四、農作物

五、現金、有價證券（有價證券ニシテ再發行可能ノモノヲ除ク）

六、森林

第八項 損害見積ノ算定

一、建物ニ付テハ全焼又ハ全潰ノ場合ハ建坪ニ依リ災害當時ノ時價ヲ標準トシテ計算シ半燒又ハ半潰ノ場合ハ災害前有セシ價格ヨリ災害後殘存セル價格ヲ差引タル差額ヲ掲クルコト

二、家財、商品、在庫品、農作物、有價證券ニ付テハ時價ニ依ルコト

三、森林ニ付テハ災害前有セシ價格ヨリ災害後ニ殘存スル價格ヲ差引タル差額ヲ掲クルコト

第二水害報告

水害アリタルトキハ速カニ現場ニ臨ミ災害ノ防禦及人命ノ救護等ニ努ムルハ勿論敏速ニ其ノ狀況ヲ報告シ減水ヲ待チテ被害ノ狀況ヲ調査シ追報スルヲ要ス

文例一 水害報告即報（電話）

昭和何年何月何日

何々駐在所

巡查 何

某

〇〇警察署長

警部 何

某殿

出水ノ件報告

昨日來ノ豪雨ノタメ〇〇川ハ俄ニ汎濫シ〇町地先堤防欠壞ノ虞アリ猶相當増水ノ見込ナルニ付目下消防組及村民多數出動警戒中ナリ

右及報告候也

追而水害ノ爲多數被害ヲ被リタル場合ニ於テハ第一款出火報告文例ノ五災害取調表ノ様式ニ基

キ調査報告スベシ

第三 雪害事故報告

雪害事故ハ上中越ノ山間部ニ於テハ年々惹起シ其ノ被害タルヤ一夜ニシテ十數名ノ尊キ人命ヲ奪ヒ或ハ住家蓄類ニ莫大ノ損害ヲ與フル等ノ悲惨事アリ。此ノ恐ルヘキ雪害事故タルヤ自然カラ依ル處多シト雖モ最善ノ注意ト努力ヲ爲スニ於テ其ノ被害カラ或程度防止シ得ザルモノニ非ス。本縣ニ於テモ特ニ其ノ被害ヲ未前ニ防止セントスルモノ目的ヲ以テ昭和十三年二月一日縣令第六號除雪規則ヲ制定シ建築物ノ所有者占

有者若ハ管理者ニ危險防止ノ爲ニ必要ナル除雪ヲ命シ併セテ其ノ除雪ニ依リ交通上、火災警防其他積雪ニ依ル被害ノ除却ヲ命スルト共ニ同年同月同日縣令第七號ヲ以テ多衆集合又ハ宿泊ニ供スル建築物ニ對シテハ其ノ建物ガ積雪其他ニ耐ヘ得ルヤ否ノ検査ノ爲ニ特殊建築物取締規則ヲ制定施行セラレタルモ猶豪雪其ノ他ノ爲崩雪、積雪等ノ爲ニ思ハサル災害ヲ惹起スル事例尠シトセス。斯如キ場合受持巡查ハ其ノ狀況即報スルト共ニ人命救助其他遺憾ナキ措置ヲ講セサルヘカラス

尙雪害事故即報ノ文例ヲ示セハ左ノ如シ



文例

即 報

昭和何年何月何日

〇〇駐在  
巡查 何

某 ㊦

〇〇警察署長

警部 何

某 殿

雪害事故ニ關スル件報告

本月何日來降雪ノ爲當地方ハ積雪平地一丈八尺ニ達シ受持内何村大字何々農何某方裏手約二丁ヲ隔ツル高サ百五十米位ノ通稱何々山中腹ヨリ本日午前何時頃大音響ト共ニ巾何十間ニ亘ル大積雪アリテ何某外〇戸ハ一瞬ニシテ其ノ何丈餘ノ大積雪ノ下敷トナリタルヲ知リタル附近住民ハ直チニ警鐘ヲ亂打シ消防組、青年團、在郷軍人團其他全部落民總出動ニテ人命救助ノ爲ニ除雪作業ニ努メ居ルモ何分積雪ニシテ作業意ノ如クナラス附近部落ノ應援ヲ得テ除雪中ナルモ之カ除雪ニ相當時間ヲ要シ〇戸〇〇名ノ救助ハ甚タ疑慮セラレツ、アルノ状態ニ有之候條此段及即報候也  
追テ本職ハ現場ニ於テ救助作業ノ指揮中ニ有之狀況判明次第追報致ス可ク申添候

第四 風害報告

文例 即 報

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 何

某 ㊦

〇〇警察署長

警部 何

某 殿

風害報告ノ件

昨夜來ノ暴風ノ爲メ受持内ノ被害ヲ調査スルニ目下判明ノ分左記ノ通りニ候條此段及報告候也  
記

一、家屋倒潰(住家、非住家其他)

二、電信電話ノ被害

三、其ノ他ノ被害

四、人 蓄 死 傷

五、通信機關及電燈復舊見込

六、其他参考事項

注意 被害多數ニ上リ警察報告例ニ依リ災害調表提出ヲ要スル場合ハ火災ノ際ニ於ケル災害取調表ニ依リ調査報告スルヲ要ス

第五 鐵道事故

鐵道事故(例ハ脱線、衝突、轉覆及其他)ハ一瞬間ニ幾多ノ乗客ノ生命ヲ奪ヒ身體ヲ傷ケ及財産上ニモ多大ノ損害ヲ與フルノミナラズ甲地ト乙地トノ交通上ニ於ケル連絡ヲ杜絶スルモノニシテ平時ハ兎ニ角一朝戰時等ノ場合ニアリテハ國家ノ興廢ニモ關スヘキ重大ナル影響ヲ生スヘキモノナルヲ以テ鐵道官署ニ於テハ常ニ乗務員及保線掛、轉轍手等ニ對シ其ノ責任觀念ヲ養成シツ、アリト雖モ當該係員ノ不注意又ハ往來妨害、犯罪者其他自然力ニ依ル災害等ノ爲メ鐵道事故ノ頻發スルコト往々アリ。故ニ鐵道事故發生ノ場合



ニ際シテハ警察官吏ハ迅速現場ニ臨ミ事故ノ原因ヲ調査シ其狀況ハ左記文例ニ依リ即報シ其ノ原因カ往來妨害犯者ノ行爲又ハ(往來妨害犯ニ就テハ未遂ノ場合ト雖モ)乗客其他人ノ身體生命ニ危害ヲ生ス或ハ脱線等ノ場合ハ電話又ハ態夫ヲ以テ別紙要項ヲ即報シ然ル後詳細調査追報スルヲ要ス

文例 即 報

昭和何年何月何日

第 何 管 區

巡查 氏

名 印

何々警察署長

警部 何

某 殿

鐵道事故報告

一、事故發生ノ日時

二、事故發生ノ場所

(何村何々地内鐵道何々線何々起點何哩何鎖又ハ何々停車場ヲ距ル何町)

三、事故種類

(脱線、衝突、轉覆其他)

四、列車ノ種別

(何驛發何々行客車又ハ貨車何號列車)

五、被害狀況

(事故ノ狀況死傷者ノ有無列車又ハ軌道破損ノ狀況ヲ詳記スルコト)

六、復舊見込

七、救護ノ狀況

八、事故原因及責任者ノ氏名

右之通り事故發生候條此段及報告候也

第六 自動車事故報告

軌近著シク高速度交通機關ノ普及發達ニ伴ヒ反面交通事故モ又増加ノ一途ニアリ之ガ防止對策如何ハ又大ナル社會問題トシテ當局並ニ識者間ニ相當論議研究セラレツ、アルノ狀況ニアリ而シテ自動車事故ノ場合ニハ刑法ニ所謂業務上ノ過失傷害又ハ傷害致死事件ノ伴フ場合尠カラズ故ニ事故發生ノ際ハ最モ慎重迅速ニ而モ周匝緻密ノ態度ヲ以テ現場ニ臨ミ事故ノ大小ヲ問ハス電話其ノ他ノ方法ヲ以テ即報シ之ガ調査ニ當リテハ特ニ左記ノ點留意シ之ガ措置ヲ誤ラサル様スヘシ

記

一、事故發生ノ自動車ハ普通自動車ナルヤ特殊自動車ナルヤ又ハ小型自動車ナルヤ

二、自動車ノ運轉者ハ普通免許ナルヤ、特殊免許ヲ有スル者ナルヤ、小型自動車ノ運轉者ナルヤ

運轉免許ハ左ノ區別ニ從ヘ夫々運轉スルコトヲ得

(一) 普通免許ヲ受ケタル者ハ普通自動車及小型自動車ヲ

(二) 特殊免許ヲ受ケタル者ハ特定種類ノ特殊自動車及小型自動車ヲ

(三) 小型免許ヲ受ケタル者ハ小型自動車ヲ運轉スルコトヲ得ルモノトス

右指定以外ノ自動車ヲ運轉シ事故ヲ發生セルモノニ非サルヤ

三、無免許運轉者ニ非サルヤ



四、法令ニ命ゼラレタル注意義務ヲ怠リタルモノニ非サルヤ  
 五、自動車取締令施行手續第十八條ハ報告様式ヲ示スト共ニ其ノ報告書ニ具備スヘキ取調事項ヲ指示シア  
 リ且ツ轢殺又ハ重傷等特ニ重大事故ノ發生セルノ場合ハ概況ヲ即報シ狀況判明スルニ至リタルトキハ  
 所定ノ様式ニ依リ報告スルト共ニ意見書實況見分書及關係者ノ聽取書ノ寫ヲ添附ノ上報告スヘキヲ命  
 シアリ

文例 自動車事故  
 昭和何年何月何日

第何管區受持  
 巡查 氏

名 〇

何警察署長殿  
 自動車事故報告

イ、時	一、昭和〇〇年〇月〇日午前十時頃
ロ、所	一、新潟市港町二丁目五十三番地
當該事故ノ種別及程度ヲ概示ス	一、過失傷害 一、約三ヶ月ノ治療ヲ要スル骨折及打撲傷害
加害自動車損壞シタルトキハ損害ノ概要	一、新潟市港町二丁目五十三番地 甲種免許運轉者 梶山 一郎 一、新潟縣廳下附一二五號 當三十五年

イ、道路ノ名稱	一、新潟市古町通五番町二十五番地
ロ、歩車道別ノ有無及幅員	一、西蒲原郡内野町 古物商 佐野 佐太郎 當三十年
ハ、單路十字路橋上其他ノ別	一、右足大廳部骨折及腰部打撲傷 ニシテ約三ヶ月ノ治療ヲ要ス
ニ、路線ノ曲直勾配ノ有無	一、事故ノ場所ハ國道〇〇線新潟縣廳前起點ニシテ歩 道車道ノ區別アリ道路幅員ハ車道九間歩道ハ車道 兩側共九尺宛アリ
ホ、道路工事其ノ他障害物ノ有無	一、道路面ニハ勾配ナク車道ハ「アスファルト」敷ニシ テ歩道ハ「コンクリート」敷道路ナリ
ヘ、路面舗裝ノ有無及乾濕	一、事故ノ場所ハ縣廳前仲通ト學校町通及白山前通方 面ニ通ズル三叉路ニシテ中央交通標識ヨリ西北 ニ約五米兩側歩道ト車道トノ間ノ溝ヨリ約五米東 側ニ出テタル地點ナリ
ト、當時ノ交通及四圍ノ狀況	一、當時ハ相當人出多ク交通頻繁ニシテ通行者中ノ一 人タル學校町通三佐藤八郎當二十五年ハ事故發生 ノ際西側歩道ニ居リテ事故發生ノ狀況ヲ現認シ居 レリト云フ
チ、附近人家ノ疎密及天候	一、現場附近西側及東側共商家軒ヲ連ネ居ル場所ナリ 事故當時ハ晴天ニシテ道路面ニハ散水モアケ乾燥 シ居レリ
乗車シ居リタル男女別人員	一、自動車 新潟市古町通五番町醫師枝村三郎當四十年ガ學校 町通り四番町佐野才治方ニ往診ノ歸途車中ニアリ



讓避ノ方法及事故發生ニ對スル影響竝ニ適否

イ、自動車ノ制動裝置 (二輪、四輪ノ別)

ロ、當日運轉前點檢ノ有無

ハ、制動操作ニ移リテヨリ停車迄ノ距離

被受害者ノ過失ノ程度、官能又ハ精神上缺陷ノ有無

イ、原因者進行ノ方向及部位

事故	原因				
	(八)	(七)	(六)	(五)	(四)
事	被害者ノ過失ノ有無	制動機ノ使用ノ有無及	響音器使用ノ有無	讓避方法	被害者ヲ發見シタル距離
事故	有	無	有	有	有
事	無	有	無	無	無

一、當時々速四十五軒ヲ出シ居リタリト云ス

一、運轉者ハ運轉中居眠リヲ爲シ居リ被害者ニ約十五米ノ地點ニ接近シテ漸ク之ヲ發見セリト云フ

一、現場ハ道路幅員廣ク運轉者ガ被害者ノ進行方向ヲ確認シ被害者ノ後方タル車道西側ヲ運轉スルニ於テハ事故ヲ生セシムル虞ナキ狀況ニアリ

一、響音器ハ使用セザリシト云フ

一、運轉者ハ同日午前八時頃車庫ニ於テ車輛點檢セシメ制動裝置ヲ認メシト云ヒ猶事故ノ際ハ全四輪共完力ニアル爲制動裝置ノ後十七米ヲ走リテ停止シ居レリ

一、被害者ハ西側歩道ヨリ東側歩道ニ移ラントシテ西側車道ノ邊ヨリ五米程道路東側ニ向ヒ歩行セルニ前方左側方面ヨリ右側ニ向ヘ疾走シ來ル自動車ヲ認メ一時停止セルニ右後方ヨリ來リタル自動車ニ衝突バサレタルモノニシテ被害者ニ過失ノ點認メ難

イ、被害者佐野佐太郎ハ道路西側タル雜貨商渡邊三三方ヨリ東側ナル菓子屋駒形一三前ニ車道ヲ横切ルベク西側車道ノ邊ヨリ約五米中央交通標識ヨリ西北約五米ノ地點ニ出テ前方ノ自動車ノ通過ヲ待チ

ロ、事故防止ニ關シ執リタル手段及其ノ時機

ハ、被害者ノ態様

ニ、事故ヲ豫見シ又ハ豫見シ得ベカリシ時機ニ於ケル對象タル事物ノ距離

ホ、事故發生ニ至リタル原因竝ニ其ノ狀況詳細

イ、救護ノ措置及方法

ロ、治療費ノ負擔又ハ損害賠償ノ有無及其ノ態度

イ、前日來ノ就業狀況及過勞ノ有無

ロ、睡眠不足又ハ飲酒ノ事實

事故	程度		七 救護ノ狀況	八 法令違反ノ有無	九 運轉者及過失ノ程度
	原	發			
事故	因	生	狀況	有無	者
事故	有	有	有	有	有
事	無	無	無	無	無

一、速度違反、自動車取締令施行細則第二十五條(四ノ十軒)自動車取締令第五十二條及第八十二條

一、音響器使用違反、道路取締令第七條第二十七條

一、運轉者ハ前日午前九時ヨリ午後六時迄ノ間計五回ニ亙リ市內ニ於テ延長三時間ニ亙リ就業シ居ルモ過勞ノ程度ニ非ス

一、昨夜午後九時頃ヨリ同十二時頃迄ノ間市內古町通七番町カフエノ前ニ於テ多量ニ飲酒ノ上午前一時頃歸宅シ就寝シ同日午前六時頃起床セル爲就業中睡眠ニ襲ハレ前日午後六時頃迄ノ間市內古町通スヘキ場所ノ運轉中居眠リヲ生ジ且テ規定外ノ速度ヲ以テ運轉シ且事故ヲ防止シ得ザリシハ重大ナル過失ナリト認ム

一、事故ヲ惹起スル運轉者ハ直ニ自動車ヲ停止シ被害者ヲ附近醫科大學外科ニ搬送スル旨警ヘルモノノ治療代金ハ運轉者ニ於テ負擔スル旨警ヘルモノナリ

一、テ進行スベク東方ニ向ヘ停止シ居リタルモノナリ運轉者ハ前方ヲ注視シ義務ヲ怠リ警笛ヲ鳴ラサズ被害者ヲ左ニ避ケテ運轉スヘキニ之ヲ誤リタルモノニシテ事故防止ニ適切ナクモナリ

一、被害者ハ前方ノ自動車ニ注意ヲ拂ヘ後方ノ自動車ニ氣付カスニ居リタルモノナリト云フ

一、現場ハ三叉路ノ曲角ナリシモ前方約四十米ノ地點ニ於テ西側歩道ヨリ東側歩道ニ向ヘ歩行セントスル人アルヲ發見シ得ベキ場所ナリ

一、事故ノ場所ハ運轉者ガ特ニ注意スベキ場所ナルニモ拘ラズ運轉中居眠リヲ生ジ且テ事故ヲ避ケ得ベキニ之ガ措置ヲ過リタル結果ナリト認ム



ハ、機械器具等ノ故障ノ有無及其ノ程度 運轉者ノ受ケタル處罰及表彰 イ、司法事件トシテ送致ノ有無 ロ、即決處分ノ有無 運轉者ノ資産、收入、家族數及生活ノ程度並ニ其ノ他ノ事情 當事者ノ法規違反又ハ過失ノ點ヨリ考察シタル行政處分ノ要否			
一〇 参考事項			
(一)	(二)	(三)	(四)
乗客及傍觀者ノ陳述ノ大要 一、乗客枝村三郎ノ証言ニ依リ運轉者ノ運轉中ノ居眠リ又ハ時速四十五軒ハ明ナリ 傍觀者佐藤八郎ノ証言ニ依リ被害者ノ位置態樣及運轉者ノ自動車運轉方向等明ナリ	從來ノ處罰行政處分 一、從來處罰及行政上ノ處分ヲ受ケタル事ナシ 一、自動車協會其他ヨリ表彰セラレタコトナシ	司法上ノ措置 一、業務上ノ過失傷害罪トシテ報告ノ豫定	家庭ノ狀況 一、運轉者ハ住家一棟時價五百圓位ヲ有シ且ツ收入トシテハ今村自動車店ヨリ月給四十五圓受ケ居ルノ外其他家族收入ナシ 一、家族ハ妻 花子 當 二十五年 長男 一郎 當 七才 二男 定治 當 四才 ノ計四名暮シニシテ下層ノ生活ヲナシ居ルモ目下生活ニ不自由ナシ 被疑者ハ前夜飲酒ノ度ヲ過シ爲ニ運轉者トシテ最モ注意ヲ要スヘキ交通標識設置セラレ居ル市街地三叉路ニ於テ自動車ノ最高速度ヲ越シテ運轉中居眠リナシ且ツ事故ヲ未前ニ防止シ得ヘキ道路幅員アルニ其ノ運轉中過リ事故ヲ生ジタルモノニシテ相當ニ處分可然モノト認メラル
一一 行政處分ニ關スル意見			

第七 工場災害事故報告

記

- 一、工場ノ名稱、所在地内工業主又ハ工場管理人ノ氏名
- 二、事業ノ種類
- 三、災害其他ノ事故發生ニ關シ

- (一) 日時
- (二) 場所
- (三) 原因
- (四) 災害事故ノ狀況
- 四、災害ノ生シタル建設物又ハ設備ノ種類、構造及材料其他
- 五、火災ニアリテハ避難及豫防ノ施設アリシヤ否ヤ其ノ概要
- 六、死傷者

死傷別	死亡ノ原因、負傷ノ部位、症狀	職名	雇入年月日	男別	住	所	氏名	年令

- 七、故意又ハ過失ノ責任ヲ負フベキモノアルトキハ其氏名
- 八、其他警察上ノ参考事項



参考

- 一、工場法施行規則第二十五條並第二十六條ニヨリ工業主ヨリ報告スベキハ勿論ナルモ災害事故發生ノ場合ハ直チニ調査報告ヲ要ス
- 二、本件ニ關シテハ大正六年十二月訓第八六五號並ニ昭和四年十二月保第九三八五號工場ノ災害事故報告ニ關スル件(參照保二九五頁)

第八 電氣事故報告

昭和何年何月何日

警察署名(管區名)

電氣事業事故報告

電氣事業會社名	
事故種類	
事故發生日時	
事故發生場所	
事故原因	
停電區域	
死傷	

其他ノ被害	
會社ノ措置	
備考	

参考

- 一、大正十一年二月保發第一二三五五號電氣事故報告ノ件參照(保二二八頁)
- 二、記載様式ハ同凡例參照ノ事
- 三、備考欄ニハ警察ノ措置其他參考トナルヘキ事項ヲ記載ノコト

第九 人命救助

凡ソ警察職務ハ單ニ人ノ非違ヲ摘發スルニ止マラスシテ人ノ善行ヲ發見シタルトキハ之ヲ表彰シ益々人道ノ最善美ヲ助長セシムルノ方法ヲ執ラサルベカラズ從ツテ若シ自己ノ危險ヲ顧ミズ人命ヲ救助シタル者アリタル場合ノ如キハ漏ナク之ヲ報告シ賞與又ハ褒章ヲ受ケシムルノ手續ヲ爲スヲ要ス  
追テ褒章又ハ賞與上申ニ關スル法令根據左ノ如シ

記

- 一、褒章條例 明治十四年十二月七日太政官布告第六十三號
- 二、褒章條例 取扱手續明治二十七年一月六日閣令第一號
- 三、警察賞與規則 明治三十二年十月十日勅令第四百二號



四、警察賞與規則施行細則 明治四十三年十二月內務省令第三十二號  
 五、警察賞與規則施行手續 明治四十四年二月訓第九十四號  
 文例 人命救助  
 昭和何年何月何日

第何管區勤務

某 ㊦

新潟警察署長

地方警視 何 某 殿

人命救助ニ關スル件報告

一、被救助者 新潟市沼垂町大字長峰三番地

平民 日雇 戶主 野 內 佐 吉

當 五十五年

一、救助者 新潟市沼垂町大字西片原八十七番地

漁業 戶主 高 山 要 吉

當 四十二年

新潟市沼垂町大字西横町九十番地

漁業 戶主 渡 邊 要 次 郎

當 四十年

一、遭難ノ場所

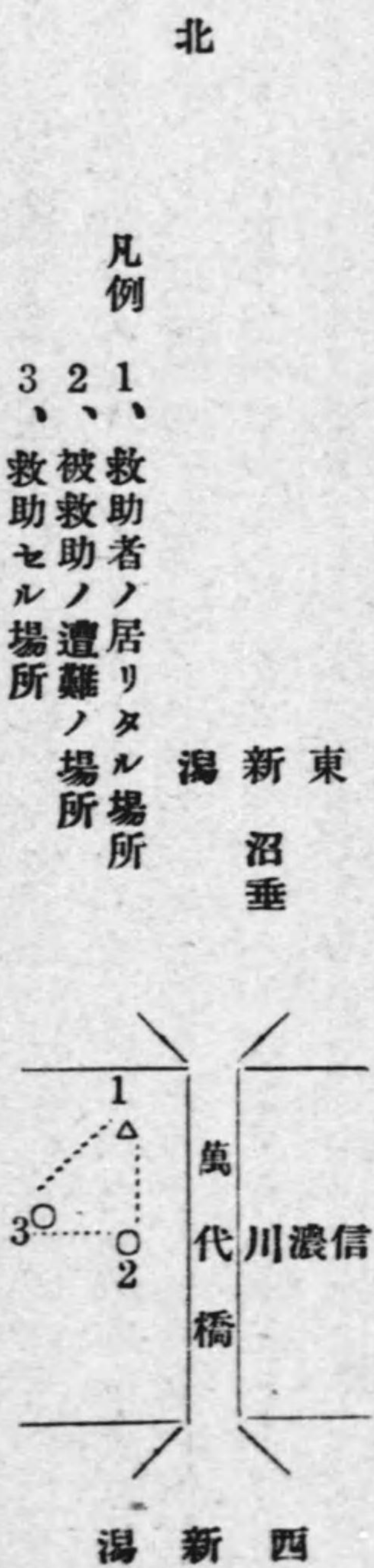
新潟市下大川前通地先信濃川中央萬代橋下手約二百間ノ場所

二、救助當時ノ模様

右被救助者野口佐吉ハ昭和〇年〇〇月〇〇日午前七時頃沼垂町ヨリ長船ニ酒樽一斗入十七箇ヲ積載シ新潟市下大川前ニ向ヘテ信濃川ヲ横切り航漕中誤テ河中ニ轉落シ大聲救助ヲ求メ將ニ溺死セムトスルヲ救助者高山要吉、渡邊要次郎ノ兩名ハ偶右信濃川岸沼垂地先ニ於テ漁業中之ヲ目撃スルヤ直ニ協力附近ニ繋留セル小舟ニテ漕キ出ス事約八十間餘同所ハ河岸ヨリ約八十間水深約十五尺ニシテ折柄一昨夜來ノ降雨ニテ出水急激ニシテ且ツ東南ノ風強ク小舟ノ漕行甚タ危険ナルヲ侵シテ必死トナリ遭難箇所ノ下流約二十間ノ個所ニ於テ難ナク之ヲ救助シ一面流レ行ク船體及積荷ヲモ無事拾收スルヲ得タルモノナリ

三、被救助者トノ親戚關係ノ有無

被救助者ト救助者トハ全ク他人ニシテ親族、同居、雇人等ノ關係ナシ。以上ノ如クニシテ救助者高山要吉外一名ノ行爲ハ危急存亡ノ場合ニ當リ能ク自己ノ危難ヲ侵シ勇敢敏捷之ヲ救助ノ目的ヲ達シタルモノニシテ其所爲實ニ一般ノ鑑範タルヘキモノト認メラレ候條御詮議ノ上賞與上申ノ手續相成様致度別紙現場略圖相添此段及報告候也





第十 中毒者報告

中毒患者或ハ其ノ死者アリタルトキハ醫師ハ大正十四年四月新潟縣令第十一號中毒患者届出規則ニ基キ届出ノ義務アリ。猶醫師ガ藥物其他ノ中毒ノ爲ニ死亡セルヲ檢案セル場合ニ其ノ檢案後二十四時間以内ニ所轄警察署ニ届出ヲ爲サザル場合ニ於テハ醫師法施行規則第八條違反トシテ同則第十六條ニ依リ五十圓以下ノ罰金ニ處セラレ、ノ規定アルモ單ナル中毒ノ場合ハ罰則ノ規定ナキノ故ヲ以テ醫師ニシテ之ノ届出ノ義務ヲ怠ルモノアルニ付キ受持巡查ハ中毒患者アリタル事ヲ知りタル場合ハ左記文例ニ依リ直ニ報告スルヲ要ス

文例

中毒(死者)患者發生報告

一、患者住所、氏名、年齢、職業

何市何町何番地

何職

何

當何年 某

二、診斷又ハ檢案シタル醫師ノ住所、氏名

何市何町何番地

醫師

何

某

三、中毒年月日

昭和十二年十二月二十日午後十一時頃ト推定

四、中毒物ノ名稱

カルモチン

五、中毒ノ原因症狀及其經過

中毒者ハ本年六月頃ヨリ胸ノ病ヲ患ヒ醫療ヲ受ケ居タルモノナルガ經過良好ナラス悲觀シ居タルモノニシテ本日午前十時頃ニ至ルモ起床セス、家人ニ於テ不審ヲ抱キ寢室ヲ見タルニ枕元ニ「カルモチン」五十錠入りノ空箱一ケアリ本人ハ昏睡状態ニ陥リアリ。直チニ主治醫新潟市學校町何々ヲ呼ビ診斷ヲ受ケタルニ「カルモチン」中毒ト判明注射等應急措置ヲ爲シタルモ豫後計リ難キ狀況ニアリ

六、其他參考事項

中毒者ハ昨日午後三時頃晴天ナリシヲ以テ散歩ニ出テタルガ其際何レヨリカ「カルモチン」ヲ買求メ來ルモノト認メラル

右及報告候也

參考

藥品關係ニ付キ營業者ニ違反ナキヤ調査ヲ要ス

第十一 變死傷者取扱

變死傷者トハ老衰疾病等コ因ル自然的死亡ニ非スシテ自殺、他殺ノ異狀ナル死亡者及原因不明ノ重傷者ヲ謂フノデアル。變死傷者ハ其ノ原因犯罪ニ關係アル場合頗ル多ク且ツ變死者ニシテ犯罪ニ關係アルコト明瞭ナル場合ニ於テハ刑事訴訟法第八十二條司法警察職務規範第四十七條ニ基キ司法檢視又ハ檢證ガ行ハル、モノナルモ其ノ變死ニシテ犯罪ニ關係アルヤ否不明ニシテ且ツ變死傷ノ原因明カナラサルカ若ハ犯罪ニ關係ナキコト明カナル場合ニ於テハ昭和十年二月訓第百二十五號行政檢視規則ニ基キ所轄警察署長又ハ其ノ代理官ニ於テ行政檢視ヲ行フモノナリ。而シテ受持巡查ハ變死者又ハ變死ノ疑アル屍体アルヲ知リタ



ルトキハ速カニ上司ニ報告シ其ノ取扱ニ付キ指導ヲ受ケザルベカラズ。而シテ現場ニ急行シタル上ハ直ニ現場ノ保存ヲ爲シ檢視官ノ來着ヲ待ツベキデアルガ此ノ際特ニ注意ヲ要スルハ已ム得サル場合ノ外近親者又ハ土地ノ管理者等ニ能ク注意シ現場ヲ絕對ニ變更セシメサル様爲スベシ。屍体ノ姿勢、創傷ノ狀況其他ノ變徵及着衣、遺書、携帶品又ハ四圍ノ事物ハ其ノ儘保存スベキデアル。若シ警察官吏ノ指揮ナキニ拘ラス其ノ屍体ノ現場ヲ變更シタルトキハ警察犯處罰令第二條第十號ニ依リ處罰セラルベク（此ノ規定アルモ常識的ニ判斷ヲ要ス）又變死体ノ附近ニハ衆人蟻集スルヲ例トスレバ之ヲ衆目ニ曝スガ如キコトナキ様特ニ注意ヲ要シ變死者ノ屍体ニシテ其ノ原因ニ犯罪關係ナキ場合ハ引取人ニ引渡シ引取人ナキ場合ハ行旅死亡人トシテ取扱フベキナリ。

昭和何年何月何日

何々駐在

何

某

何々警察署長

警部 何

某殿

變死届出ノ件

何郡何村何字何番地

戸主 職業

何

當何年某

右者自宅物置ニ階ニ於テ縊死ヲ遂ケ居タルヲ本日午前五時頃家人ガ發見シタル旨本日午前何時何十分届出有之候條至急檢視官御派遣相成度此段及報告候也  
追テ本職ハ直ニ現場ニ出張致ス可ク申添ヘ候

變死傷者檢視調書

變死傷者住所 身分職業 氏名年齢	新瀉市古町通三番町十番地 戸主 爲吉 父 甲 野 爲 市 明治九年十月二十日生
變死場所	自宅臺所
同上發見場所 及其年月日時	昭和十三年十二月十二日午前五時頃變死場所ニ於テ發見
同上檢視場所	變死場所ニ同シ
變死月日時	十二月十二日午前一時頃ト推定
檢視月日時	十二月十二日午前十時
發見者氏名	變死者妻 甲 野 オ ッ
親族及關係人 氏名	
市町村吏員	

品帶携及衣着相人齡年別ノ女男

(身元不明ノ場合此處ヘ記載スヘキモノナリ又身元不明ノ場合ハ指紋採取ヲ要ス)

死形創傷ノ狀況  
及場所ノ地形方位  
發見當時ニ於ケル實況及致死

一、本職出張ノ際ハ死体六疊ノ寢室ニ頭部ヲ北ニシ蒲團ノ中ニ仰臥セシメアリタリ  
二、蒲團ヲ排シ着衣木綿縮入同單衣黒木綿兵兒帶、白メリヤス襯衣白木綿襪ヲ脱セシメ檢視スヘシ  
顔面蒼白、瞳孔散大、口腔鼻口ヨリ少量ノ粘液ヲ漏シ上下兩門齒間ハ僅カニ開キ舌端ヲ顯ハシタリ。眼瞼内及口腔内粘膜ヲ檢スルニ縊血點ヲ認メラレ且異物ノ存在ナシ。  
頸部ヲ檢スルニ咽喉骨上部ヨリ後頭部ニ斜走後頭部ニ於テ自然ニ消失セル索溝アリ縊死ニ使用セリト言フ麻繩ト合致スルヲ認ム



ノ原因ト認ムハ  
キ物件其ノ他ノ  
証明ニヨリ犯罪  
ニ原因セサル變  
死ト認メ得ラル  
ノコトノ要領ヲ  
斷定セル始末ヲ  
記ス

屍斑ハ大腿部ヨリ下ニ著明ニシテ暗赤色ヲ呈シ背部ニモ僅カニ顯ハレタリ  
肛門ハ多開シ少量ノ脱糞アリ陰莖ヨリハ粘液ヲ瀉スノ外何等ノ創傷ヲ認メス  
死後強直ハ全身ニ及ビ死後十時間位經過セルモノナラム  
三、發見者妻オツノ陳述ニ依レバ臺所ノ梁ニ麻繩ヲ以テ掛リ居タリト言フ該所ヲ檢スレバ床上十  
尺ノ箇所ニハ梁現ハレ居リ之ニ繩ヲ掛ケタル痕跡アリ。尙ホ使用ノ麻繩ト炬燵槽ハ其處ニアリ  
タリ  
四、妻オツ及長男爲吉ノ陳述ニ依レバ變死者ハ昨年ヨリ中風症ヲ患ヒ本年二月頃ヨリ多少精神ニ  
異狀ヲ來シタリト言フ  
以上屍体ノ實況醫師ノ檢案並ニ關係者ノ陳述及附近ニ於テ内偵シタル結果ニ依ルモ他殺ノ疑ナ  
ク病苦ヨリ精神ニ異狀ヲ呈シ自殺セルモノト認ム

五四

右夕通檢死ヲ遂ゲ屍体ハ長男爲吉ニ引渡シタリ

昭和十三年十二月十二日

新潟警察署長代理  
巡查 何

某 ㊟

陳述書

新潟市古町通三番町十番地

變死者 爲市妻

甲 野

當六十年  
ツ

右者夫爲市變死事件ニ關シ本職ニ對シ左ノ陳述ヲ爲シタリ

一、何々  
二、何々

三、何々

右陳述ヲ錄取ス

昭和年月日

於陳述者宅

新潟警察署長代理

巡查 何

某 ㊟

(注意)

陳述書ハナルベク關係者ノ多クヨリ聽取シ作成シ置クヲ可トス

領收書

一、死体 壹個 並ニ所持品  
但 縊死者甲野爲市ノ分

右正ニ領收候也

昭和十三年十二月十三日

甲 野 爲 吉 ㊟

新潟警察署長殿

五五



變死傷者報告		第 月 日	管區巡查
檢視官氏名	年 月 日	變死傷原因	故意殺過失殺災害死傷ト 變死傷ト認定スヘキ 狀況
年 月 日	年 月 日	變死傷原因	要
變死傷發見時	變死傷原因	變死傷者本籍	住所氏名生年
變死傷原因	變死傷原因	變死傷者本籍	月 日 職 業

第三節 定期報告

定期報告トハ隨時報告ヲ命セララルモノヲ除キ豫メ訓令達等ニ依リ定期ニ報告ヲ命セラレアルモノニシテ旬報、月報、半年報告、年報等ヲ云フ。

第一款 定期報告上ノ注意

定期報告ヲ爲スニ付テモ第一編總論第四章文書處理ノ要領下ニ於テ述ベタル各號ニ留意セサルベカラザルハ勿論ナルモ定期報告ハ其ノ大部分ガ統計ニ屬スルモノナルガ故ニ左ノ點特ニ注意スベキデアアル。

一、内容ノ正確ヲ期スルコト  
統計ノ内容不正確ナルニ於テハ何等ノ價値ナキモノニシテ單ニ數字ノ羅列ニ過キズ統計トシテノ用ヲ爲

サザルハ今更贊言ヲ要セサル處デアアル

二、報告期限ヲ確守スルコト

定期報告ハ順序ヲ追ツテ上級官廳ニ報告ヲ要スルモノアリ然ルニ一受持巡查ノ報告期日ノ怠慢ヨリシテ一警察署ノ統計係ハ其ノ集計ヲ爲ス能ハス大ナル支障ヲ來スコト往々アリ斯ノ如キ事ナキ様報告期日ノ確守ヲ要ス

猶警察報告例ニ定ムル報告例目ハ附録ノ部ヲ參照スベシ

第二款 統計

定期報告ノ統計ニ關聯シ統計ニツキ一言シヨウ

第一、統計及其効用

統計ハ合法的大數觀察ニヨツテ各種ノ現象中ニ存スル法則ヲ發見スルヲ以テ目的トスルモノデアアル。社會ノ現象ハ千体萬象ニシテ如何ナル科學者ト雖モ社會ニ對スル觀念ハ空漠散漫ノモノタルヲ免レナイノデアアルガ統計ニヨツテ之ヲ觀察スルトキハ自ラ明瞭トナリ初メテ正確ナル知識ヲ得ラル、ノデアアル何トナレバ統計ハ社會ノ現象ヲ數量デ示シ若ハ平均ヲ示シ又ハ圖表ニ簡單明瞭ニ示スモノデアアルカラデアアル。例ヘハ火災多キ季節ニ其火災ト原因又犯罪ノ種類犯罪ノ數ヲ明カニシナケレバ火防犯罪防止ヲ行フコトヲ得ナイガ統計ニヨリ之ヲ明カニスルコトヲ得ルノデアアル

第二、大數觀察

人間社會ニ於ケル諸般ノ現象ヲ觀察シ其結果トシテ一定ノ法則ヲ發見セムトスルニハ大數觀察即チ多數物觀察ノ方法ニヨラナケレバナライノデアアル。元來統計ハ大數觀察ノ結果トシテ生レタ數字デアアルカラデアアル。故ニ大數觀察ナクシテ統計ナシト云フ



コトが出来ル。

大數觀察トハ目的物及場所ヲ定メ一定ノ調査方法ニヨリ完全ナル調査機關ニヨリ單位ニツキ全部ヲ觀察シ以テ計量ヲ爲スコトヲ言フノデアル。

第三、統計作成報告上ノ注意

統計ノ作成及報告ニ付テハ統計ノ目的ヲ稽ヘ調査報告スヘキデアル。左ニ統計家ノ十戒ヲ示ス。

統計家ノ十戒

- 一、統計ニ従事スヘキモノハ責任ヲ重シスヘキコト
- 二、勤直ニシテ素忽ニセサルコト
- 三、偏頗ノコトアルヘカラス
- 四、固ク忠實ヲ守ルコト
- 五、數字ニ屢々正誤ヲ爲ス可ラサルコト、統計ノ信用地ニ墜ツヘシ
- 六、事實ヲ主トシ一意之ニ依ルヘキコト
- 七、事實ナル數字ヲ私ニ増減スルハ大禁物ナルコト
- 八、事實ノ真相ヲ知り得ヘキ事ヲ努メ素リニ憶測スヘカラサルコト
- 九、世間ノ習慣及状態ニ注意シテ常ニ誤ラサルコト
- 十、統計ノ報告ハ須ク機敏ト正確ナルヲ要ス、拙速緩慢共ニ不可ナリ

第二章 復命書

第一節 復命書ノ意義

復命書トハ調査又ハ内査ヲ命セラレタル事項ハ勿論其他巡査駐在所巡査派出所ニ於テハ收受シタル文書ニシテ當然副中スヘキ事項ヲ復命スル文書ヲ謂フノデアル。

第二節 復命書ノ種類

- 一、營業願出ノ調査復命
- 二、事實調査復命
  - 1、許可認可願及届出ニ關スル事實調査復命
  - 2、身元調査復命
  - 3、其他ノ調査復命

第三節 復命書作成上ノ注意

第一、營業警察ニ關スルモノ

一、營業警察ノ意義

營業ニ關スル復命書作成ニ付テノ注意ヲ述フルニ先タチ營業警察ノ意義ヲ明カニスレバ營業警察トハ營業ニヨリ社會公共ニ障害ヲ及ホサ、ラシムル爲メ國家ノ一般統治權ニ基キ臣民ノ營業ノ自由ヲ制限スルモノニシテ其ノ制限ノ全体ヲ稱シテ營業警察ト言フノデアル。

營業ハ原則トシテ自由デアツテ唯特殊ノ營業ニ付テノミ制限シ其ノ開始ニ當リテハ法律、勅令、省令地方警察令ニ依リ許可、認可又ハ届出ノ義務ヲ始メ幾多ノ制限ヲ付シテ居ルノデアル。例ヘバ



- 1、警察許可ノ一種タル營業免許ヲ受ケシメ
- 2、届出ノ義務ヲ負ハシメ
- 3、營業者ノ資格ヲ限定シ
- 4、營業ノ場所ヲ制限シ
- 5、建物ノ構造、機械、器具其他設備ノ強制
- 6、帳簿ノ備付及記載ノ義務ヲ命ジ
- 7、賃金率ヲ制限シ
- 8、勧誘又ハ強制行爲ヲ禁止シ
- 9、不正ノ廣告ヲ禁スル

警察ハ之等營業ニ付キ監視ノ權ヲ有シ場合ニヨリテハ其ノ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルノ權ヲ有スルノテアル。

## 二、調査ノ重要性

以上ニヨツテ大体營業警察ノ觀念ハ明カニナツタト思フカ營業出願ニ對スル調査ハ實ニ警察發動ノ第一歩テアツテ其ノ許否ヲ決スルハ重大ナル性質ヲ有スルモノナルコトハ今更言フ要シナイノデアアル即チ其ノ許否ガ社會公共上ニ密接ノ關係ヲ有シ出願者ノ利害休戚ニ關スルコト至大ノモノニシテ其ノ調査ハ机上ニ於ケル形式的極ルマ杜撰調査ハ嚴ニ之ヲ慎ミ終始微細ノ點ニ迄慎重實地調査ヲシナクテハナラナイノデアアル。

## 三、調査ノ方法並ニ調査上ノ注意

而シテ其ノ實地調査ノ方法ハ直接調査ト間接調査トニ區分スルコトガ出來ル。

直接調査ハ出願者届出人ニ對シ直接當ルノデアアルシ間接調査トハ第三者ヨリ調査資料ヲ蒐集スルノデアアルガ、此處ニ最モ注意ヲ要スルノハ願届出人ノ社會的ノ名譽信用ニ直接影響ヲ及ホス前科、素行、資産負債並ニ生計狀態、思想關係並ニ傳染性疾患等ノ調査ハ巧妙ニ行フト共ニ絶對ニ直接調査ヲ避ケナケレバナラナイノデアアル。

從來調査巡查ノ非常識ヨリ直接前科、資産、生計狀態、負債、傳染性疾患ノ有無、交際人物等ニ付キ根堀葉堀リ調査ヲ爲シ生涯其ノ非常識ヲ笑ハレ警察威信ヲ失墜シ又物議ヲ醸シタ事例ガ少クナイノデアアル。

又直接調査ニ當リテモ態度傲慢不遜ニシテ被調査者ノ感情ヲ害シタル事例モアリ調査ニ當リテハ態度謹直ニシテ禮讓ノ中ニ威嚴ヲ保チ言語極メテ丁寧親切、決メテ傲慢不遜職權ガマシキ言動ナキ様注意シナクテハナラナイノデアアル。

尙ホ前ニモ述ヘタ如ク許可、不許可ハ願出人ノ利害休戚ニ重大ナル關係ヲ有スルモノデアアルカラ極メテ迅速ニ調査ヲ完了シナケレバナラナイノデアアル。

## 四、文書作成上ノ注意

調査復令文書ハ徒ラニ文飾ニ流レス極メテ具体的ニ適當ノ字句ヲ使用シ眞意ヲ記載スルニ努ムヘキデアアル。

尙ホ調査記載事項ニ付テハ各業態ノ性質ニヨリ同一デハナイ。各法規ニ從ヒ遺漏ナク調査スヘキデアアル。

今其ノ共通的ノ調査項目ヲ左ニ列舉ス。



調査項目

- 1、願届書記載事項ノ整否  
(法令ノ根據ヲ確メ之ト對照スルコト)
- 2、本籍、住所、職業、氏名、生年月日
- 3、性質素行來歴前科ノ有無
- 4、資格ヲ必要トスルモノニアリテハ其ノ資格  
(1) 積極的資格ヲ必要トスルモノニアリテハ其ノ有無(學校卒業、試験合格、修業履歷)  
(2) 欠格條件アルモノニアラサルヤ  
(前科又ハ素行ノ如何並ニ精神病者、未成年ノ有無)
- 5、風俗警察上ノ取締ヲ受クヘキモノニアリテハ風俗上ノ處分ノ有無
- 6、衛生警察上ノ取締ヲ受クヘキモノニアリテハ傳染性疾患ノ有無
- 7、營業禁止處分ノ有無
- 8、他人ニ名義ヲ假スノ事實ノ有無
- 9、位置並構造設備ニ付テハ各取締法規ニ抵觸ノ有無
- 10、其ノ他特ニ要求シアル點  
(1) 妻ノ營業ヲナサントスルトキ夫ノ同意ノ有無  
未成年者ニアリテハ親權者ノ同意ノ有無  
(2) 古物商ニ於ケル贓物ニ關スル前科(強盜盜詐欺共)  
(3) 營業所他人ノ所有ニ係ルトキハ其ノ承諾ノ有無等

- 11、總テ法規執行ニ關シ手續ヲ示シアルモノニ付テハ其ノ手續參照ヲ要ス
- 12、參考事項

他ヨリ故障ノ有無其ノ他許可上參考事項

第二、許可、認可願届出ニ關スル事實調査復命ニ對スルモノ

警察上各種ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ署長ガ一々其ノ願届ニ對シテ實狀ヲ調査シテ處分スルニ於テハ敢テ萬全ヲ期セラレナイ譯デハナイガ、如斯コトハ到底不可能ノコトデアツテ署長ハ只机上テ受持調査ノ調査復命ヲ唯一ノ資料トシテ許可ヲ決スルモノデアラカラ、調査巡查ニ於テハ其ノ信賴ニ背カサル様周匝緻密ナル調査ヲ爲シ公平ナル判斷ニヨリテ復命スヘキデアリ一ツトシテ忽緒ニ付スヘキテハナイノデア

ル。例ヘハ受持巡查ガ杜撰ナ調査ニヨツテ復命シタルモノヲ神ナラヌ署長ガ唯一ノ資料トシテ許可、認可シ又ハ許可、認可ノ意見ヲ附シテ縣ニ進達シ茲ニ指令ヲ發シタルニ後日其ノ許可、認可ニ對スル反對ノ輿論ヲ擧ケ抗議ヲ申込ミ遂ニハ民衆ノ團體的行動トシテ表ハレ署長ハ其ノ不明ノ責ヲ負ヒ著シク苦境ニ逢着シタ事例モ尠クナク又單ニ署長一身ニ止マラス由々シキ結果ヲ招來スル場合ガアルカラデア

ル。如斯ハ警察對民衆ノ問題デアツテ一度社會ニ報導セラル、ヤ微細ナル問題モ世相柄民衆ニ衝動ヲ與ヘ一大社會問題ヲ惹起シ而シテ一ケ所ニ如斯問題ヲ惹起スルコトニヨリ模倣性ニ敏ナル社會ニハ同様ナ運動ヲ勃發セシムル機運ヲ醸成セシムルコトナキヲ保シ難イカラデア



營業許可、認可、願届出等ノ調査ニ於テ述ベタルト同様ニ直接調査ト間接調査ノ兩方面ニ亘ルコトハ勿論デアツテ調査從事中ノ注意事項並ニ文書作成上ノ注意ハ前同様デアル。  
調査項目モ保安上、風俗上、交通上、衛生上ノ必要ニアリ又對人的警察ト對物的警察トニヨリ同一デハナイ。前節参照シテ警察上ノ目的ニ副フ如ク調査スヘキデアルガ強ヒテ示セバ

調査項目

- (1) 書類記載事項ノ正否
- (2) 對人的事項ニアリテハ本籍、住所、氏名、生年月日、性質、素行、來歴、前科ノ有無  
白痴、瘋癲其ノ他精神異狀ノ有無、粗暴過激ノ性行ノ有無、一定ノ生業ノ有無等
- (3) 對物的事項ニアリテハ場所ノ狀況、建物、設備其他ノ保安上、風俗上、交通上、衛生上ニ障害ナキヤ
- (4) 其他許可認可ニヨリ他ヨリ故障ノ有無並ニ警察上ノ參考事項
- (5) 施行手續ヲ示シタルモノニ付テハ必ズ之ヲ参照シ根據アル復命書ヲ作成スルニ努ムルコト

第三、身元調査

一、身元調査(内査)ハ或特別ノ人ニ對スル性質、素行、來歴、生活狀態等ヲ詳ニシ諸般ノ警察活動上ノ資料ニ供スルヲ以テ目的トスルモノデアツテ營業出願ニ對スル身元調査ノ項ニ於テモ述ベタノデア  
ルガ更ニ此處ニ其ノ調査心得ヲ述ベルコトニスル。  
身元調査ハ願届ニ對スル許可、認可其ノ他ノ事項ガ決定セラル、モノナレバ若シ粗漏杜撰ノ調査(内  
査)復命ヲ爲スニ於テハ唯ニ其ノ整理ヲ誤ラシムルノミナラス、延テハ公正ナル警察權ノ行使ニ關シ  
民衆ノ信望ヲ失墜スルニ至ル故ニ身元調査ハ受持巡查ノ事務中最モ重要ニシテ重大ナル使命ト内容ヲ

包藏スルモノナルコトヲ自覺シ綿密周到ナル調査ヲナスコト極メテ肝要デアル。

二、調査(内査)ノ方法並ニ心得

身元調査ハ之ヲ必要トスル事情ニヨリテ其ノ調査事項ノ内容ヲ異ニスルガ一般共通ノ調査方法並ニ心得ヲ述ブレバ

- (1) 調査ニ當リテハ直接調査ヲ爲スモ支障ナキモノト間接調査ニ依ラサル可ラサルモノトガアル故ニ是等ノ事項ヲ識別シテ適當ナ方法ヲ以テ例ヘバ戸口調査簿ヲ携帯シ恰モ戸口調査ヲ爲ス如ク裝ヒ必要事項ヲ探知スルガ如キモ一方法デアル。
- (2) 直接調査ニヨリ目的ヲ達シ得ラル、モノ

氏名、年齢

本籍、身分、職業

出生地

前住地並ニ現住地

前職業

- (3) 間接調査ニ依ルヘキモノ

性質素行

來歴

家庭ノ狀況

財産及生活狀態

公安風俗ヲ害スル虞ナキヤ



交際關係及信用ノ程度

イ、性質、素行、來歴等ハ最モ細心ノ注意ヲ拂ヒ正確ニ調査ヲ要スル而シテ報告書ニハ單ニ「良」又ハ「不良」「普通」等ト抽象的ニ記載スルガ如キコトナク具體的ニ即チ何故ニ良ナリヤ不良ナリヤヲ記載シナケレバナラナイ。

之ガ爲ニハ本人ノ知己、友人、商敵、近隣、無關係ノ者等各方面ヨリ調査ナスヘキデアアル。ロ、財産並ニ生活狀態

市役所、町村役場等ニ就キ動産、不動産別トシ各種別毎ニ調査シ又負債、納稅額ヲモ調査シ收入ノ方面迄モ調査ヲナシ生活狀態ヲ豊カナリヤ困難ナリヤヲ判斷記載スベキデアアル。

ハ、交際關係及信用ニ付イテハ平素ノ交際出入ノ人物及之等ノ人物トノ交際狀態並ニ本人ノ社會上ノ地位、信用狀態ヲ調査記載スルコト

ニ、前科ハ市町村役場ニ付キ調査スルコト

ホ、公安風俗ヲ害スルヤ否ヤ最モ警察上必要ナレバ適切ナル調査方法ニヨリ調査スヘキデアアル。第四、其他ノ調査復命

以上ノ外調査復命書ニハ種々アルモ何レモ調査ノ正確、復命書提出期日ヲ確守シナケレバナラナイノデアアル。

### 第四節 復命書作成上ノ文例

#### 第一款 營業願出ニ對スル調査復命

警察取締ニ屬スル各種營業ノ出願アリタル際ニハ當該法令及例規並ニ前述第三節第一各號ニ基キ許否ノ決

定ニ必要ナル資料ヲ精査シ復命スルヲ要ス。尙營業願出ニ對スル調査復命ノ文例ヲ示セハ左ノ如シ  
(一) 料理屋營業許可願出ニ對シ

昭和何年何月何日

第何管區受持

名 氏

何々警察署長

警部 何 某 殿

料理屋營業願出ニ對スル調査方ノ件復命

新潟縣何郡何村大字何々何番地

職業 戶主 何

生 年 月 日 某

右者願出ニ係ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニシテ許可セラル、モ何等支障無之モノト認メラレ候條此段及復命候也

記

一、本籍、住所、氏名、生年月日ノ正否

二、性質、素行、來歴ノ詳細

三、出願事項ト事實相違ノ點ナキヤ

(1) 商 號

(2) 營業所ノ地名番地並ニ其ノ周圍二町以內ニ於ケル學校、病院、感化院、監獄等ノ有無若



シアリトセバ圖面記載ノ通りナリヤ

(3) 營業ノ種別

- (4) 營業用ノ建物ノ坪數並ニ便所、井戸、調理場、階段等ノ位置ハ圖面ノ通り相違ナキヤ
  - 四、本則ニ依リ營業許可ノ取消處分ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經過セサルモノニ非サルヤ
  - 五、公安ヲ害シ風俗ヲ紊ス者ニ非サルヤ
  - 六、他人ニ名義ヲ籍スノ事實ナキヤ
  - 七、營業者ハ其ノ營業所ト同一家屋ニ於テ周旋業又ハ宿屋營業ヲ爲シ若ハ之ニ類スル行爲ヲ爲スモノニ非サルヤ
  - 八、家族其他内縁ノ夫又ハ婦ニシテ營業ニ關與シ不良行爲ヲ爲ス虞ナキヤ
  - 九、法定代理人、保佐人又ハ夫ノ同意ナキモノ若ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者ニ非サルヤ
  - 十、營業者又ハ從事者ニシテ傳染性疾患ヲ有スルモノニ非サルヤ
  - 十一、便所及下水溝ノ構造ハ
    - 市ニ在リテハ汚物掃除施行細則第十二條及第十六條ニ適合シ居ルヤ
    - 市以外ノ地ニ在リテハ下水溝、圓圍、芥溜取締規則第四條及第五條ニ適合シ居ルヤ
  - 十二、敷地又ハ建物ガ他人ノ所有ナラハ其ノ所有者ノ承諾ノ有無
  - 十三、其他警察上參考事項
- 復命上參照條文
- 一、料理屋待合茶屋取締規則

第二條 第三條 第七條 第九條

- 二、民法實施後警察ニ關スル營業願ニ付注意ノ件
- 三、汚物掃除施行細則第十二條及第十六條
- 四、下水溝、圓圍、芥溜取締規則第四條及第五條
- 五、甲種又ハ乙種煙筒ヲ設クルモノハ煙筒取締規則
- 六、特殊建築物取締規則
- 七、市街地建築物法同法施行令同施行細則同施行手續

(二) 宿屋營業許可出願ニ對スル調査事項

一、宿屋營業ハ之ヲ區別シ左ノ三種トス

- (一) 旅人宿
- (二) 下宿屋
- (三) 木質宿

二、調査復命上ニ留意スヘキ點ハ

- (一) 公安風俗又ハ衛生上支障ナキヤ
  - (二) 他人ニ名義ヲ籍スノ事實ナキヤ
  - (三) 營業所ノ位置、構造、物的設備ノ不適當ナルヤ
- 三、調査上ノ參照法令

- (一) 宿屋營業取締規則第一條 第二條 第三條 第八條 第九條 第十六條



下宿屋ニ對シテハ同則第二十二條  
 木賃宿ニ對シテハ同則第二十五條 第二十七條  
 民法實施後警察ニ關スル營業願ニ付注意ノ件  
 (三)(二) 汚物掃除法第一條 第二條 汚物掃除法施行規則第一條 第二條 第四條  
 同法施行細則第十二條 第十六條  
 市以外ノ地ニ在リテハ

(四)(五) 下水溝、廁圍、芥溜取締規則第四條 第五條  
 特殊建築物取締規則  
 市街地建築物法同法施行令同施行細則同施行手續

- 四、調査上ノ目的
- 一、構造設備ニ對スル危險防止
  - 二、盜難豫防
  - 三、火災豫防
  - 四、風俗ヲ紊ス虞ナキヤ
  - 五、衛生上危害ナキヤ
  - 六、宿泊人保護上不都合ナキヤニ留意スル事
- 昭和何年何月何日

第何管區受持  
 巡查 氏 名 〇

何々警察署長

警部 何 某殿  
 宿屋營業願ニ對スル調査方ノ件復命  
 新潟縣何郡何町何々番地  
 職業 戶主 何

右者願出ニ係ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニ有之許可上何等支障無之モノト認メ  
 ラレ候條及復命候也

- 記
- 一、本籍、住居、職業、氏名、生年月日ノ正否
  - 二、出願者ハ未成年者又ハ妻ニシテ夫又ハ親權ヲ行フモノ若ハ法定代理人又ハ保佐人ノ承諾ナ  
 キモノニ非サルヤ
  - 三、性質、素行、來歴ノ詳細
  - 四、出願事項ハ規則第二條各號ヲ具備シ且ツ事實ト相違ノ點ナキヤ
  - (1) 商 號
  - (2) 營業所ノ地名番地
  - (3) 營業ノ種別
  - (4) 建物ノ坪數、間取並ニ便所、浴室、井戸、調理場、階段等ノ位置
  - 五、構造設備ハ規則第十六條ニ適合シ居ルヤ



- 六、曾テ營業ヲ爲シ本則ニ依リ營業許可ノ取消處分ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經過セザルモノニ非サルヤ
  - 七、公安ヲ害シ風俗ヲ紊シ又ハ衛生上危害アリト認ムルモノニ非サルヤ
  - 八、他人ニ名義ヲ假スノ事實アリト認ムルモノニ非サルヤ
  - 九、營業者ト同一家屋ニ於テ周旋業又ハ料理屋、待合茶屋ノ營業ヲ爲シ又ハ爲サシムル虞アルモノニ非サルヤ
  - 十、營業者又ハ從事者ニシテ傳染性疾患ヲ有スル者ニ非サルヤ
  - 十一、便所及下水溝ハ
    - 市ニ在リテハ汚物掃除法施行細則第十二條及第十六條ニ適合シ居ルヤ
    - 町村ニ在リテハ下水溝、廁圍、芥溜取締規則第四條及第五條ニ適合ノ有無
  - 十二、借地又ハ借家ナラバ其ノ地主又ハ家主ニ於テ承諾ノ有無
  - 十三、其他警察上參考事項
- (三) 「カフェー」「バー」營業出願調査復命
- 昭和何年何月何日

第何管區受持  
巡查 氏

名 〇

何々警察署長

警部 何 某 殿

カフエー營業許可願出ニ對スル調査方ノ件復命  
新潟縣何郡何村大字何々何番地  
職業 何々戶主 何

生 年 月 日 某

右者願出ニ係ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニシテ許可上何等支障無之モノト認メ  
ラレ候條此段及復命候也

記

- 一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日ノ正否
- 二、性質素行來歴ノ詳細
- 三、出願事項ト事實相違ノ點ナキヤ
  - (1) 營業所所在地名
  - (2) 商號又ハ屋號
  - (3) 客室其他各室ノ構造設備及營業用家屋ハ圖面ノ通りナリヤ
  - (4) 營業所ノ周圍二二〇米以內ノ學校、病院、感化院、幼稚園、刑務所等ニシテ記載ナキモノ  
又ハ其ノ建造物トノ距離ハ願書記載ノ通り相違ナキヤ
- 四、誘拐、猥褻、賭博、賣淫等ノ罪ニ依リ處分ヲ受ケ尙改悛ノ見込ナシト認ムルモノニ非サルヤ
- 五、營業ニ關シ三回以上警察處分ヲ受ケ尙改悛ノ見込ナキモノニ非サルヤ
- 六、素行不良其他營業者トシテ不適任ト認ムルモノニ非サルヤ
- 七、營業者ノ配偶者又ハ法定代理人法人ニ在リテハ其ノ代表者ニシテ第四號乃至第六號ニ該當ス



ルモノニ非サルヤ

- 八、取締執行手續第四條ニ抵触シ位置不適當ノモノニ非サルヤ
- 九、他人ニ名義ヲ籍スノ虞アルモノニ非サルヤ
- 十、本令ニ依リ營業許可ノ取消處分ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經過セサルモノニ非サルヤ
- 十一、取締規則第六條ニ抵触スルモノニ非サルヤ
- 十二、營業用家屋ノ構造ハ取締規則第七條ニ適合シ居ルヤ
- 十三、營業者又ハ従事者ニシテ傳染性疫患ナキヤ
- 十四、其他公安又ハ風俗ヲ害スル虞アルモノニ非サルヤ
- 十五、便所及下水溝ニ對シテハ
  - 市ニ於テハ汚物掃除法施行細則第十二條及第十六條ニ適合シ居ルヤ
  - 市以外ノ地ニ在リテハ下水溝、廁圍、芥溜取締規則第四條及第五條ニ適合シ居ルヤ否
- 十六、借地又ハ借家ナラバ地主又ハ家主ニ於テ承諾シ居ルヤ否
- 十七、其他警察上參考事項

調査復命上参照法令

- 一、「カフェー」「バー」取締施行手續第一條、第三條、第四條、第五條、第七條
- 二、「カフェー」「バー」取締規則第一條、第二條、第三條、第四條、第五條、第六條、第七條
- 營業所ノ位置ニ付テ内規ヲ以テ「カフェー」「バー」免許地域ノ指定アリ
- 三、市ニ在リテハ汚物掃除法第一條、第二條同法施行規則第一條、第二條、第四條汚物掃除法施行細則第十二條、第十六條

市以外ノ地ニ於テハ下水溝、廁圍、芥溜取締規則第四條及第五條

四、市街地建築物法同法施行令同施行細則令施行手續

(四) 「カフェー」「バー」營業所工事落成検査復命

記

- 一、規則第七條ノ制限ニ抵触セサルヤ 即チ
  - (一) 客室ハ道路其他公衆ノ方面ニ通行シ得ル場所ヨリ見透シシ得サル構造ナルヤ否ヤ
  - (二) 客室及調理室、採光、換氣充分ナルヤ
  - (三) 客室内ノ照明ハ卓上面五燭光以上ナルヤ
  - (四) 營業所内ニ舞臺又ハ舞踏場ノ設ケアルモノニ非ラサルヤ
  - (五) 客用ノ別室又ハ之ニ類似ノ設備アルモノニ非ラサルヤ
  - (六) ボツクス、衝立等ヲ用ヒ別室類似ノ設備ヲ爲シタルモノニ在リテハ其ノ高サ一、二〇米ノ制限ヲ超ヘタルモノニ非サルヤ
  - (七) 營業所内ニ客用ノ浴槽ヲ設ケタルモノニ非ラサルヤ
  - (八) 便所ト調理場ノ距離ハ四米以上ヲ距ルヤ否ヤ
- 二、井戸ト便所ノ距離並ニ便所ノ構造ハ
  - 市部ニアリテハ汚物掃除法施行細則第十六條、郡部ニアリテハ下水溝、廁圍、芥溜取締規則第五條ニ低觸ノ有無 即チ
  - (一) 便所ト井戸トノ距離
  - (二) 尿管溜ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ上方ハ漏所狀ニ且ツ踏板迄圍ヒテ爲シアリヤ否ヤ



(三) 適當ナル換氣窓ヲ設ケ且ツ防蠅金網ヲ付シタルヤ否ヤ  
(四) 吸取口ハ密閉セルヤ否ヤ

参考

- 一、「カフェー」「バー」營業所ノ工事竣成シタルトキハ其ノ旨所轄警察署長ニ届出テ検査ヲ受クヘキモノナリ(規則第四條保第三九八頁ノイ)
- 二、「カフェー」「バー」營業用家屋ノ構造設備ニ對スル制限ハ同則第七條參照

(五) 理髮營業許可願出ニ對スル調査復命  
昭和何年何月何日

第何管區受持  
巡查 氏

名 ④

何々警察署長  
警部 何 某殿

理髮營業許可願出ニ對スル調査方ノ件復命

新瀉縣何郡何村大字何々何番地  
戶主 職業 氏

生 年 月 日 名

右者出願ニ係ル首題ノ件ニ關シ調査スルニ左記ノ通りニシテ許可セラル、モ何等支障無之モノト認メラレ候條此段及復命候也

記

- 一、本籍、住所、氏名、生年月日ノ正否
- 二、性質素行來歴ノ詳細
- 三、滿十八才以上ニシテ理髮試驗ニ合格シタル者ナルヤ
- 四、出願事項ハ規則第三條各號ヲ具備シ且ツ事實ト相違ノ點ナキヤ
- 五、營業所ノ構造設備ハ規則第四條ニ適合シ居ルヤ
- 六、精神病者、瘋癲、白痴者ニ非サルヤ
- 七、嘗テ營業ヲ受ケ營業禁止處分ヲ受ケタルコトナキヤ
- 八、他人ニ名義ヲ籍スモノニ非サルヤ
- 九、營業所ハ汚水排除ノ設備シ居ルヤ
- 十、營業所及敷地所有者ノ承諾アリヤ

調査上參照條文

- 一、理髮營業取締規則第二、第三、第四、第十二條ノ二
- 二、市ニ在リテハ汚物掃除法施行細則第十六條其他ノ地ハ下水溝、廁圍、芥溜取締規則第四條
- 三、市街地建築物法適用地域ハ同法及關係法令

(六) 結髮營業許可願ニ關スル調査

- 一、願書記載事項ノ整否
- 二、本籍、住所、氏名、生年月日



- 三、性質素行來歴
- 四、傳染性疾患ノ有無
- 五、公安風俗ヲ害スル虞ナキヤ
- 六、營業禁止處分ノ有無

参考

一、願書様式結髪營業取締規則第一條（衛第八一頁）營業所附近ノ見取圖ヲモ必要トス

(七) 鑛泉浴場營業許可願ニ關スル調査

- 一、願書記載事項ノ整否
- 二、本籍、住所、氏名、生年月日
- 三、性質、素行、來歴
- 四、家族從業者ニ傳染性疾患ノ有無
- 五、營業所ノ構造設備ハ規則第六條ニ低觸セサルヤ否ヤ  
又火熱ヲ要スル鑛泉ハ第七條各項ニ低觸ノ有無
- 六、其他警察上ノ參考事項

参考

一、願書様式ハ鑛泉浴場取締規則第四條參照（衛第八三頁）

二、浴場ノ構造設備ハ同則第六條、第七條參照ノ事

三、營業ハ許可ヲ受ケタル後施行スヘキモノニシテ工事落成シタルトキハ所轄警察署ニ届出テ検査ヲ

受クルヲ要ス

(八) 清涼飲料水營業ニ對スル調査復命

清涼飲料水トハ清涼飲料水營業取締規則第一條ニ本令ニ於テ清涼飲料水ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル左ノ物ヲ謂フ

- 一、炭酸含有ノ飲料水
- 二、リモナーデ（果實水、薄荷水及桂皮水ノ類ヲ含ム）
- 三、果實水、果實蜜及之ニ類似スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノ
- 四、牛乳又ハ乳製品ヲ原料トスル酸性飲料
- 五、内務大臣ノ指定スル飲料

清涼飲料水營業者ト稱スルハ清涼飲料水ノ製造（清涼飲料水ニ供スル鑛泉ノ採取ヲ含ム以下做之）販賣又ハ請賣ヲ營業ト爲ス者ヲ謂フト定義セラレアリ

而シテ清涼飲料水ハ其ノ性質上變販又ハ有害性物質ノ含有サレ易キヲ以テ省令ヲ以テ嚴重ニ之ガ取締規則ヲ制定シ縣令ニ於テモ之ガ細則ヲ定メ居リ營業出願ニ對シテハ左記留意ノ上調査復命スルヲ要ス

記

- 一、清涼飲料水取締規則執行手續第一條、第二條
  - 二、清涼飲料水營業取締規則第一條、第二條、第四條、第七條
  - 三、清涼飲料水營業取締規則第一條、第二條、第八條、第十五條
- 尙調査復命事項ヲ掲レハ左ノ如シ



昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 何

某

何々警察署長

警部 何 某殿

清涼飲料水製造營業ノ許可願出ニ對スル調査方ノ件復命

本籍 新潟縣何郡何町何番地

住所 新潟縣何郡何町何番地

戸主

職業何々

氏

生年月日 名

右者出願ニ係ル標記ノ件依命調査スルニ左記ノ通りニ有之候條此段及復命候也

記

- 一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日ノ正否
- 二、願書記載事項ニ整否
- 三、性質素行來歴ノ詳細
- 四、製造所ハ取締細則第二條ニ低觸ナキヤ
- 五、原料水ノ濾過装置ノ有無
- 六、會テ營業ノ禁停止處分並ニ前科ヲ受ケタルコトナキヤ
- 七、白痴、瘋癲及傳染性疾患ノ有無

九、其他衛生上危害ノ有無

(九) 氷雪營業願出ニ對スル調査

- 一、願書記載事項ノ整否
- 二、本籍、住所、氏名、生年月日、職業
- 三、性質、素行、來歴
- 四、氷雪採取場、製造所及貯藏所ノ位置、構造ハ氷雪營業取締細則第三條ニ低觸セサルヤ否ヤ 即チ
  - (一) 採取場、製造場ハ學校、病院、製造所、墓地火葬場、斃獸埋焼却場及人家其他不潔ノ場所ヲ距ルコト六十間以上道路ヲ距ルコト五間以上ナルヤ
  - (二) 貯藏所ハ汚水、塵芥、煤煙其他不潔物ニ依ル汚染ノ虞ナキ場所ニシテ且ツ融解水排除ノ構造ヲ備ヘルモノナルヤ
- 五、營業者家族、從業者ニ傳染性疾患ノ有無
- 六、其他警察上ノ參考事項

一、願書様式ハ氷雪營業取締細則第一條(衛一一七頁)

(十) 牛乳營業取締規則

本令ニ於テ牛乳ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル全乳又ハ脱脂ノ乳ヲ謂ヒ乳製品ト稱スルハ販賣ノ用ニ供スル煉乳、脱脂煉乳、粉乳又ハ脱脂粉乳ヲ謂フ牛乳營業者ト稱スルハ牛乳ノ搾取處理若ハ販賣又ハ乳製品ノ製造若ハ販賣ヲ營業ト爲スモノヲ謂フ。牛乳ノ處理ト稱スルハ牛乳ヲ濾過シ小分シ且殺菌スルノ操作



(生乳ニ在リテハ殺菌スルノ操作ヲ除キ脱脂乳ニ在リテハ脱脂スルノ操作ニ含ム)ヲ謂フ  
牛乳營業者ノ許可又ハ届出ノ區別

- 一、牛乳搾取營業ハ届出
- 二、特別牛乳搾取ハ許可
- 三、牛乳處理營業ハ許可
- 四、乳製品ノ製造販賣營業ハ許可
- 五、牛乳販賣營業ハ届出

(十) 牛乳搾取營業届出ニ關スル調査事項

- 一、届出記載事項ノ整否
- 二、營業者ノ本籍、住所、氏名、生年月日
- 三、搾取場ノ位置

牛乳營業取締規則施行細則第二十條ニ低觸ノ有無 即チ

- (一) 市街地建築物法施行區域又ハ人家稠密ノ場所ニ非ラサルヤ  
又是等ノ場所ニ該當スルモ斟酌スルヲ要スルヤ
- (二) 御用邸又ハ御陵墓ニ接近シタル場所ニ非サルヤ

四、營業者又ハ家族ノ傳染性疾患者ノ有無

五、其他警察上參考事項

參考

一、届出様式 牛乳營業取締規則施行細則第十八條(衛第一二六頁)

二、搾取場所ノ制限ハ同則第二十條(同)

三、本件處理ニ付テハ牛乳營業取締規則施行細則取扱手續第八條參照ノ事(同第一三一ノ一頁)

(十) 特別牛乳搾取營業ノ許可出願ニ對スル調査復命事項

一、本籍、住所、職業、氏名ノ正否及未成年者又ハ禁治產者ニ非ラサルヤ

二、出願事項ノ整否

三、搾取場ハ牛乳營業取締規則施行細則第二十一條ノ制限ニ低觸スルコトナキヤ

四、搾取場ノ位置ハ取締規則施行細則第二十條ニ低觸ナキヤ

五、出願者ノ性質素行來歴ノ詳細

六、本人及家族並ニ從業者ニ傳染性疾患ノ有無

七、曾テ營業ノ禁停止又ハ前科ノ有無

八、他人ニ名義ヲ籍スモノニ非サルヤ

九、衛生上、公安上不適當ト認ムルモノニ非サルヤ

十、建築物及土地ガ他人ノ所有ナラハ其ノ承諾ノ有無

十一、其他警察上參考事項

調査上ノ參照法令

一、牛乳營業取締規則施行細則取扱手續第九條

二、牛乳營業取締規則施行細則第十九條、第二十條、第二十一條、第十三條、第七條、第三條、第二條

三、牛乳營業取締規則第一條、第三條、第十七條



(十)三 牛乳處理營業許可願ニ關スル調査

- 一、願書記載事項ノ整否
- 二、營業者ノ本籍、住所、氏名、生年月日
- 三、處理場所所在ノ場所相違ノ有無
- 四、處理場ノ構造設備

牛乳營業取締規則施行細則第二十七條ノ制限ニ低觸ノ有無 即チ

(一) 牛乳取扱室器具取扱室ニ區劃シ床ハ周圍ノ地面ヨリ高クシ不滲透質ノ材料ヲ以テ築造シ適當ノ勾配アルヤ

(二) 牛舎、物置、住宅等ト同棟ナルトキハ間壁ヲ設ケタルヤ

(三) 牛乳取扱室ハ天井ヲ設ケアルモノナルヤ

(四) 採光換氣及防蠅設備ニ欠クルトコロナキヤ

(五) 良水ノ供給設備充分ナルヤ

(六) 熱湯又ハ蒸汽ノ供給設備充分ナルヤ

(七) 殺菌設備ノ適否

(八) 牛乳貯藏室ハ他ノ部分ト區劃シ冷却貯藏設備ニ欠クルトコロナキヤ

五、營業者又ハ家族ニ傳染性疾患ノ有無

六、其他警察上ノ參考事項

參考

一、出願様式牛乳營業取締規則施行細則第二十六條(衛一二八頁)

二、處理場ノ制限ハ同則第二十七條(同)

三、本件處理ニ付テハ牛乳營業取締規則施行細則取扱手續第九條參照ノ事(衛一三一ノ一頁)

(十一) 食肉營養(行商鑑札下付)許可願ニ關スル調査

一、願書記載事項ノ整否

二、本籍、住所、氏名、生年月日、營業所ハ願書記載ノ通り相違ナキヤ

三、出願人ノ性質、素行、來歴

四、食肉貯藏所構造ノ適否

食肉營業取締規則第六條ニ低觸ノ有無 即チ

(一) 天井ハ板張りトナスモノナルヤ

(二) 床ノ構造ハ不滲透質ノ材料ヲ用フルモノナリヤ

(三) 一方ハ硝子戸トナシ一方ハ金網張ト爲スモノナルヤ

(四) 天井ニ懸吊裝置ヲ爲スヤ

(五) 腐敗肉及骨類ノ容器ヲ設備スルモノナルヤ

(六) 行商者ニアリテハ以上ノ外ニ行商用ノ容器ハ内面ヲ金屬板張りトナスノ設備アリヤ

五、營業者又ハ家族ニ傳染性疾患アルモノナキヤ

六、其他警察上ノ參考事項

參考

一、出願様式ハ食肉營業取締規則第二條參照(衛一四五頁)

二、食肉貯藏所ノ構造ハ同則第六條參照(同)



(十二) 屠畜營業許可願ニ關スル調査

- 一、本籍、住所、氏名、生年月日
- 二、性質、素行、來歴
- 三、屠場法施行規則第八條ニ低觸ノ有無 即チ
  - (一) 結核、癩、梅毒又ハ傳染性皮膚病ニ罹レルモノニアラサルヤ
- 四、其他警察上參考事項

參考 一、許可願出様式屠場法施行細則第十一條參照(衛一三九頁)

(十三)

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 氏

名 ⑩

何々警察署長

警部 何 某 殿

古物商營業免許願出ニ對スル調査方ノ件復命

新鴻縣何郡何町何番地

戶主 職業 氏

生年月日 名

右者出願ニ係ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニ有之候條此段及復命候也

記

- 一、本籍、住所、氏名、生年月日ノ正否
- 二、性質、素行、來歴ノ詳細
- 三、前科及犯罪ノ有無(拘留科料共)
- 四、營業禁止處分ノ有無
- 五、未成年者又ハ白痴、瘋癲者ニ非サルヤ
- 六、營業禁止中ニ廢業シ新ニ營業免許願出タルモノニ非サルヤ
- 七、管理人又ハ後見人ニシテ古物商取締法第十五條質屋取締法第十九條ニ該當スルモノニ非サルヤ
- 八、強盜、窃盜、詐欺、取財其他贓物ニ關スル罪ヲ犯シ又ハ犯シタル者ニアリテハ處刑滿期後改悛ノ有無
- 九、家族同居者ニシテ前科ノ有無若シアラバ其ノ罪名刑期等
- 十、家族同居者ニシテ傳染性疾患ノ有無
- 十一、學力ノ程度
- 十二、其他警察上參考事項

參考法 令

- 一、古物商取締法第二條第十五條
- 一、古物商取締法施行細則第一條



一、古物商質屋營業取扱内規第一條

(十四) 浴場營業許可願ニ對スル調査

一、願書記載事項ノ整否

二、本籍、住所、氏名、生年月日

三、性質、素行、來歴

四、營業所ノ位置並ニ狀況

周圍三丁以内ノ人家其他ノ建造物、危險物、貯藏所ノ有無並ニ狀況

既設浴場トノ距離

五、浴場ノ構造設備

規則第四條ニ低觸ノ有無

(第一號乃至二十五號迄法規ト對照調査ヲ要ス)

六、營業者並ニ家族、從業者等ニ傳染性疾患アルモノ、有無

七、其他參考事項

營業開始ニ付キ他ヨリ故障ノ有無。其他許可、不許可ニ付テノ參考事項

參考

一、願書様式ハ浴場取締規則第二條(保四八九頁)

第二款 身元及事實調査復命

身元及事實調査ニ當リテモ當該關係法令ノ根據ニ基キ調査セサルベカラザルハ言テ俟タスト雖モ本章第三章第三節第二、第三ノ各號ニ對シ特ニ留意シ許否又ハ採否決定上ノ必要資料ヲ漏レナク精査シ復命スルヲ

要ス

(一) 假設興業許可願ニ關スル調査

記

一、願書記載事項ノ整否

二、假設興行ノ事由

三、興行場ノ構造設備

1、小屋掛ナルヤ又ハ既設建築物ヲ使用スルモノナルヤ其ノ構造

2、非常口、便所ノ設備ノ狀況、防火其他危險防止ノ設備

四、公安又ハ公衆衛生上支障ノ有無

1、構造設備ト危險有無ノ關係

2、上演物ト公安トノ關係、「フィルム」ノ時間ノ制限、「フィルム」檢閲ノ有無

五、場所使用ニ付管理者承諾ノ有無

六、參考事項

規則第四條第二項ノ關係

參考

一、願書様式興行物取締規則第四條(保 四〇三頁)

二、假設興行ニ付テハ興行場ノ構造ニ最モ重キヲ置キテ調査ヲ要ス

(建築物ノ階上ヲ集會ニ充用スル時注意ノ件 保三五三頁參照)



三、活動寫真映寫ニ付テハ火災防止上二層ノ留意ヲ要ス  
 (學校ニ於ケル活動寫真映寫取締方ノ件 保 四〇八ノ(頁參照))  
 四、上演物ニ付テハ興行物取締規則執行心得第三條ニ該當ノ有無調査ヲ要ス(保 四〇七頁)  
 「フィルム」ニアリテハ檢閲ノ有無並ニ「フィルム」ノ長さノ制限ノ關係調査ヲ要ス  
 五、興行場取締規則第四條第二項ニハ祝祭日其ノ他之ニ類スル時ニアラサレバ常設興行場ノ設備アル土地ニ於テハ假設興行ヲ許可セサル旨ノ原則規程ヲナシアリ。其ソ但書ニハ土地ノ狀況ニアリ演劇ニ外ノ興行ニ對シ許可スルコトヲ得ル例外規程ヲナシタル此場合ト雖其ノ日數ハ七日以上ニ涉ルコトヲ得ストシタリ。此ノ關係ニツキ調査ヲ要ス  
 昭和十三年三月二十五日

第 管區受持  
 巡查 何

某 ㊦

新潟警察署長

警視 何 某 殿

假設興行願出ニ付調査復命

新潟市白山浦一丁目三〇番地

芝 田 好 藏

當三十五年

右者別紙ノ通り假設興行許可願出ニツキ依命調査スルニ左記ノ通りニ有之御許可相成支障ナキモノト思料致候條此段及復命候也

記

- 一、願書記載事項ノ整否  
 (願書様式ハ興行場取締規則第四條參照)
- 二、假設興行ノ事由  
 四月一日ヨリ五日迄白山神社祭禮ニ付同期間中曲馬並ニ魔術ノ興行ヲ爲サムトスルモノナリ
- 三、興行場ノ構造  
 興行場ハ一時的ノモノナルヲ以テ小屋掛ナルモ材木ノ接合部ハ何レモ強靱ナル藁繩ヲ以テ結合シ又棧敷ハ特ニ添柱ヲ用ヒアリテ墜落等ノ虞ナク又周圍及天井天幕ヲ張りアリ藁萱等ノ點火シ易キモノナシ。其他別紙圖面ノ通り
- 四、非常口及防火其他危險防止ノ設備  
 非常口ハ二ヶ所ニ設ケテ該場所ヲ表示シアリ非常準備上遺憾ノ點ナク又防火設備トシテハ公園ノ水溜ハ小屋脇ニアリテ萬一ノ際使用シ得ラレ、尙便所ハ二ヶ所ニ設ケアリテ觀覽者ノ使用ニ支障ナシ
- 五、公安上又ハ公衆衛生上支障ノ有無  
 構造設備前記ノ通りニシテ支障ナキヲ認メラレ上演物ニ於テモ公安上支障ナキヲ認メラル  
 (上演物ニ對シテハ執行心得第三條ニ低觸ノ有無ニ注意スルコト、尤モ本件ハ署長ニ於テ考慮スルモノナリ又臨檢ニ於テモ取締ルヘキハ勿論ナリ)
- 六、場所使用ニ付管理者承諾ノ有無  
 公園管理者市長ノ承諾アルモノニシテ別紙承諾ノ事實相違ナキモノナリ



七、參考事項

白山神社ノ祭禮ハ毎年ノ定例ニシテ其ノ期間中興行ヲ爲サムトスルモノニシテ御許可相成支障ナキヲ認メラル

(規則第四條二項參照ノ事)

(二) 山野火入許可願ニ關スル調査

- 一、火入ヲ爲サムトスル土地ノ狀況  
裸地、蒼生地、林地ノ別(林地ナラバ樹令及疎密等)土地傾斜方向度數
- 二、火入地周圍ノ狀況  
周圍ハ裸地ナルヤ蒼生地ナルヤ林地ナルヤ並ニ建造物ノ距離等
- 三、防火設備ノ適否  
上方ハ幅何間、左右各何間、下方ハ何間土砂ヲ掘返シ防火設備トシテ完全ナリ等記載ヲ要ス
- 四、警夫配置數  
何人ノ警夫ヲ適當ニ配置シ警戒セシムルモノ等ト記載ノコト

參考

- 一、火入許可申請書へ森林法施行規程第二十七條參照(保七二九頁)
  - 二、防火線ヲ設クル際ハ同規程第二十八條參照ノ事
  - 三、警夫配置數ハ第二十九條ノ標準ニヨルコト
- (三) 遊技場開設認可願ニ對スル調査

記

- 一、本籍、住所、氏名、年齢
- 二、性質、素行、來歴
- 三、前科並ニ營業禁停止處分ノ有無
- 四、遊技場開設ニ付キ他ヨリ故障ノ有無
- 五、遊技ハ風俗ヲ紊シ又ハ危險ノ虞アルモノニアラサルヤ
- 六、遊技ノ其ノ内容詐欺行爲ニ類スルモノニアラサルヤ

參考

- 一、願書様式ハ遊技場取締規則第二條參照(保四一一頁)
  - 二、開設土地建物他人ノ所有ナルトキハ其ノ承諾書添付ヲ要ス
- (四) 煙筒建設許可願ニ關スル調査

記

- 一、願書記載事項ノ整否
- 二、煙筒ノ構造設備
- 三、煙筒建設地ヨリ百二十間以内ニ亘ル兵營、學校、病院、危險物ノ製造所若ハ貯藏所ノ有無及之  
ニ對スル障害ノ有無
- 四、煙筒ノ高さ一倍半ニ均シキ距離内ニ特別高壓線又ハ高壓電線路ノ有無
- 五、其ノ他公安衛生並ニ風致上支障ノ有無並ニ他ヨリ故障ノ有無



- 六、他ノ法令ニヨリ許可ヲ要スルモノニアリテハ許可ノ有無
- 七、其他警察上ノ参考事項

参考

- 一、願書様式ニ煙筒取締規則第一條参照
- 二、構造ハ同則第二條ノ制限ニ適合スルヤ否ヤ

(五) 労働者災害扶助法適用届ニ關スル調査

記

- 一、事業ノ請負直營ノ別
- 二、使用労働者豫定ノ延人員
- 三、男女別賃金ノ最高最低平均額
- 四、其他参考事項

参考

- 一、労働者災害扶助法第一條ノ適用ヲ受クヘキ事由ヲ生シタルトキハ工業主ハ知事ニ届出ヲ要ス
- 二、労働者災害扶助法取扱手續第二條参照(保 三〇六ノ八頁)

(六) 景品提供届出ニ關スル調査

- 一、願書記載事項ノ整否
- 二、本籍、住所、氏名、生年月日
- 三、性質、経歴

四、願書記載事項ハ事實相違ナキヤ

五、投票募集又ハ懸賞其他射倂行爲取締ニ關スル件第四條ニ低觸ノ有無 即チ

- (一) 景品ノ最高價格、取引價格ノ二十倍ヲ超過シ又ハ三十圓ヲ超過スルモノニアラサルヤ
- (二) 廣告、宣傳ノ方法虚偽又ハ誇大ニ渉ルモノニ非ラサルヤ
- (三) 景品ニ現金ヲ用フルモノニ非ラサルヤ
- (四) 空籤アルモノニアラサルヤ
- (五) 景品提供ノ方法詐欺ニ類シ又ハ不正確ナルモノニアラサルヤ
- (六) 景品ノ届出價格時價ニ相違スヘキモノニアラサルヤ
- (七) 露店又ハ行商ニ於テ行フモノニアラサルヤ
- (八) 其他公安又ハ風俗ヲ害スル虚アルモノニアラサルヤ

参考

- 一、届出様式投票募集又ハ懸賞其ノ他射倂行爲届出規則第一條参照(保 九八一頁)
- 二、本件取扱ニ付テハ投票募集又ハ懸賞其他射倂行爲取締ニ關スル件参照ノコト

(七) 射撃物設置願ニ關スル調査

記

- 一、願書記載事項ノ正否
- 二、射撃場附近ノ狀況
  - (一) 三百米以内ニ(一) 御獵場、禁獵區、銃獵禁止區域、獵區、共同狩獵地 (二) 社寺境内、公園、鐵道、軌道、官公署、學校、病院、工場等 (三) 火藥類貯藏所、製造所其ノ他危險ノ虞アル場所ナ



- キヤ)
- 三、射撃場ノ構造並ニ規則第五條但書ノ危險ヲ防止スルニ足ル自然ノ地物ノ狀況及之ガ適否
- 四、射撃場經營者ノ本籍住所、職業、氏名、年齢、性質、素行、來歴並ニ精神異狀者酒癖及粗暴過激ノ言動ノ有無
- 五、其他警察上参考事項

参考

- 一、願書様式 射撃場取締規則第三條參照(保 二五七頁)
- 二、構造ニ付テハ同則第五條參照
- 三、本件處理ニ付テハ射撃場取締規則取扱手續第一條參照ノ事(保 二五八ノ一頁)

(八) 飲用井泉新設届出ニ對スル調査

- 一、井泉ノ位置ハ飲用井泉取締規則第三條ニ抵觸セサルヤ 即チ
- (一) 火葬場汚泥排棄場ヲ距ル百二十間以内ノケ所ニ非サルヤ
- (二) 墓地、屠畜場、斃獸埋焼却場、傳染病院等ヲ距ル六十間以内ニ非サルヤ
- (三) 厩芥焼却場ヲ距ル三十間以上ナルヤ
- (四) 獸畜飼養場、胞衣産汚穢物、埋焼却場ヲ距ル十間以内ニ非サルヤ
- (五) 厠園、芥溜場、下水溝等不潔ノ場所ヲ距ル三間以内ニ非サルヤ
- 二、井泉ノ構造ハ規則ニ抵觸セサルヤ
- (一) 簡易水道ハ規則第四條ニ

- (二) 鑽井ニ非サハ井泉ハ石材煉瓦又ハ木材ヲ以ツテ構造シ罅隙ノ部分ハ「コンクリート」ノ類又ハ楡皮ヲ填充シ汚水ノ滲透ヲ防ギ且ツ井底ニハ一尺以上小石ヲ布置スルモノナルヤ否ヤ(規則五條)
- (三) 井泉ノ周圍地表三尺ハ石材煉瓦「コンクリート」等ヲ敷詰メ汚水ノ滲透ヲ防ギ且ツ不滲透質ノ材料ヲ以テ三間以上ノ排水溝ヲ設クルモノナルヤ否ヤ (規則六條)
- (四) 井戸ニハ井桁ヲ設ケ且ツ覆蓋ヲ設クルモノナルヤ否ヤ

参考

- 一、井泉新設届ハ飲用井泉取締規則第二條ニヨル(衛第九五頁)
- 二、前項届出アリタル際ハ其ノ位置構造等規則ニ適合スル様指導スルヲ要ス
- 三、ツルベ井戸ヨリポンプ井戸タラシムル様指導スヘシ

(九) 自家用屠殺届出ニ關スル調査

- 一、届書記載事項ノ整否
- 二、届出人ノ本籍、住所、氏名、生年月日
- 三、屠殺ノ場所日時、獸畜ノ種類、牝牡ノ別、年齢相違ナキヤ
- 四、屠殺者ハ屠場法施行規則第三條第一號ニ抵觸スルモノニアラサルヤ 即チ
- (一) 獸肉販賣業者、旅店、飲食店又ハ料理店ニアラサルヤ
- (二) 牛ニアリテハ犢ナルヤ否ヤ
- 五、屠殺シタル場所ニ對シテハ衛生無害ノ處置ヲ爲シタルヤ
- 六、其他警察上参考事項



参考

- 一、届出様式屠場法施行細則第四條参照（衛一三七頁）
  - 二、本件處理ニ際シテハ屠場法令施行手續第三條参照ノ事（衛一四〇頁）
- 切迫屠殺届出ニ關スル調査

- 一、届書記載事項ノ正否
  - 二、届出人ノ本籍、住所、氏名、生年月日
  - 三、屠殺ヲ要シタル事由ハ屠場法施行規則第三條第二號ニ該當スルモノナルヤ詳細
  - 四、屠殺場所ニ付テハ衛生上無害ノ措置ヲ爲シタルヤ否ヤ
  - 五、其他警察上參考事項
- 参考

(十一)

- 一、届出様式屠場法施行細則第五條参照（衛一三七頁）
  - 二、本件處理ニ付テハ屠場法令施行手續第三條参照ノ事（衛一四〇頁）
- 診療所開設届出ニ關スル調査事項

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 何

何々警察署長殿

診療所開設届出ニ關スル調査方ノ件復命

届出人住所 新潟市古町八番町五八番地

某 ㊦

右者届出ノ標記ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニ有之候條此段及復命候也

醫師 横 田 當 四 十 五 年 作

左 記

五						四	三	二	一	調 査 事 項	復 命	欄
備 設 造 構 ノ 室 病												
6、直接外氣ニ面スル室毎ノ面積	5、病室各面積	4、天井ノ高さ	3、床下ノ構造其他	2、室數、收容定員	1、建物ノ構造							



六	電氣光線熱又放射線ノ設備ノ有無危險防止狀況
七	診療ニ従事スル醫師名
八	診療日
藥劑師ノ勤務ノ有無	
其他參考事項	

診療所開設届出ニ對スル調査復命上ノ参照條文

- 1、届出人醫師又ハ公共團體ナルトキ
  - 一、診療所取締規則施行手續第一條
  - 二、診療所取締規則施行細則第八條、第十三條
  - 三、診療所取締規則第一條、第三條、第六條、第八條、第十五條、第二十條、第二十一條
- 2、病院ノ開設許可願出ナルトキ
  - 一、診療所取締規則施行手續第一條
  - 二、診療所取締規則施行細則第八條、第十三條
  - 三、診療所取締規則第二條、第十條、第十一條、第十六條、第二十條、第二十一條、第二十二條、第二十五條

(十二) 傳染病豫防消毒

一、傳染病豫防法

傳染病豫防法ハ明治三十年四月一日法律第三十六號ヲ以テ公布サレタモノデアリ。急性傳染病ノ一般

的ノ豫防防疫ニ關スル法律デアル。本法ヲ施行規則及施行細則施行手續等ノ規定ガアル。

- 傳染病豫防法ノ要旨ハ左ノ四點ニアルノデアル。
- (一) 傳染病毒ノ存在ヲ迅速ニ發見スルコト
  - (二) 病毒ノ存在ヲ發見シタルトキハ消毒其他ノ方法ニ依リ迅速ニ之ヲ根絶スルコト
  - (三) 患者病原体保有者又ハ病毒感染ノ疑アル者等ヲ療養シ又ハ一般ヨリ交通ヲ遮斷シ且ツ物件ニ固ツテ病毒ノ傳播ヲ絶無ニスルコト
  - (四) 個人ノ義務トシテ以上ノ如キコトヲ命スルノ外當該官憲ヨリ進ンデ豫防防疫ニ當ルコトデアアル

二、傳染病ノ觀念

傳染病豫防法ヲ適用スル傳染病ハ三種類ガアル

- (一) ハ所謂十種傳染病デアツテ  
「コレラ」赤痢(疫痢ヲ含ム)「腸チフス」「パラチブス」痘瘡發疹「チフス」猩紅熱「チフテリヤ」流行性腦背體膜炎及「ペスト」ヲ謂フノデアアル (同法第一條第一項)  
右ハ法定傳染病ナリ
- (二) ハ主務大臣ノ指定スル傳染病デアツテ右ニ掲クル十病ノ外傳染病豫防法ニ依リテ豫防方法ヲ施行スルコトヲ必要トスル傳染病ガアルトキハ厚生大臣ガ指定スルコトニナツテ居ル。而シテ此ノ指定シタ傳染病ニ對シテハ特別ノ事由アルトキハ傳染病豫防法ノ一部ヲ限り適用シ又ハ地域ヲ限ツテ豫防法ヲ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得ルノデアアル。(法第一條第二項)
- (三) ハ十種傳染病ノ疑似症デアアル「コレラ」及ビ「ペスト」ノ疑似症ニハ傳染病豫防法ヲ適用スルシ。「コレラ」「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコト



ヲ得ルノテアル。(法第二條施行規則第六條及七條)

傳染病豫防法ハ傳染病ト確定シタルモノニミ適用スルヲ原則トスベキデアルガ直チニ其ノ診斷ガ確定シナイ場合ガ實際ニ多ク、傳染病ノ疑ハアルガ未ダ其ノ診斷確定シナイ間傳染病豫防法上ノ豫防措置ヲ何等講シ得ナイトスルコトハ豫防防疫ノ適宜ヲ失フコトガアルノデ疑似症ニ對シテ傳染病豫防法ヲ適用シ得ルコト、シタノデアアル。

### 三、傳染病患者ノ届出

傳染病ノ存在ヲ發見スルコトハ傳染病ノ豫防又ハ防疫ニ最モ必要ナコトデアアル。故ヲ以テ傳染病患者ヲ届出シムルコトハ本法ニ於テ重要視スルコロデアアル。

傳染病患者ヲ届出ツルニ二ノ場合ガアル。

(一) ハ醫師ノ届出義務デアツテ醫師ガ傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死体ヲ檢案シタルトキニハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且ツ直ニ患者若ハ死体所在ノ警察官吏、市町村長、區長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ十二時間以内ニ届出テネバナラヌノデアアル。(法第三條)

(二) ハ患者ノ届出義務デアツテ傳染病又ハ其ノ疑アル患者者ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速カニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏若ハ其ノ他醫師ノ届出ノ場合ト同様ノ者ニモ届出ネバナラヌノデアアル。患者ノ届出義務者ハ一般民家ニ在ツテハ戸主若ハ之ニ代ルベキ者、社寺、公私立ノ學校、病院、製造所又ハ艦船、會社、各種事務所、貸席、興業場其ノ他集會ノ場所ニ在ツテハ其ノ首長、管理人又ハ代理人テアル。(法第四條) 此ノ患者ノ届出ハ絕對ノ義務デハ無ク患者テハ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケルカ又ハ届出ツルカ、何レカ一ヲ爲セバ足ルノデアツテ換言スレバ醫師ノ診斷又ハ檢案ヲ受ケナイ場合ニ發生スル義務デアアル。

右ノ醫師ノ届出又ハ患者ノ届出ハ書面デモ口頭デモ爲シ得ルノデアアル。(法施行規則第三條)

傳染病患者ノ發見ノ方法トシテハ右届出ノ外ニ地方長官ガ傳染病豫防上行フ健康診斷又ハ死体檢案ノ方法デアアル。(法第十九條第一號)

又船舶、汽車、電車、檢疫ノ方法モアル。(法第十八條)

傳染病ノ發生ヲ右ノ如キ方法デ知ツタ場合ニハ直チニ適當ナル豫防方法ヲ以テ其ノ病ノ根絶ヲ計リ以テ病毒ノ蔓延ヲ防止セネバナラヌ。之レガ爲ニハスベテノ豫防防疫機關ガ一致協力之ニ當ラネバナラヌ。故ニ

(1) 地方長官ニ於テ傳染病流行ノ兆ガアルト認ムルトキハ厚生大臣ニ報告シ交通密接ナル地方長官其他特ニ必要ト認ムル者ニ通知シナケレバナラヌ。(施行規則第一條)

(2) 警察官吏、市町村長、檢疫委員、豫防委員ガ傳染病發生ノ届出ヲ受ケ或ハ傳染病患者死者其他傳染病毒汚染シ若ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知ツタトキハ互ニ通知シナケレバナラヌ。而シテ更ニ地方長官ニ通知スルヲ要スルコト、ナツテ居ルノデアアル。(施行規則第五條)

### 四、傳染病患者ニ對スル處置

傳染病豫防上爲スベキ傳染病患者ニ對スル處置ハ左ノ如シ

(一) 施行規則第二十八條

(二) 法第八條ノ二施行規則第三十一條

(三) 法第九條

### 五、傳染病患者死体ニ對スル處置

(一) 法第九條



(五)(四)(三)(二)

法第十一條

法第十二條第一項

法第十二條第二項

法第十三條

六、患者以外ノ人ニ對スル處置

法第八條施行規則第二十九條、法第十九條第二號、施行規則第二十九條第一項第一號、第二號及第四號

七、物件ニ關スル制限

法第十條施行規則第三十二條、法第十九條第四號、第五號

八、消毒方法及清潔方法ノ施行及鼠族昆蟲等ノ驅除、傳染病ノ發生シタ場合ニ於テ有効適切ナル方法ヲ以テ其ノ病毒ヲ根絶シ之カ傳播ヲ防止スルコトハ肝要テアル。其ノ方法ハ即チ消毒方法テアル。

傳染病毒ハ不潔ノ場所ニ發生シ易ク傳播シ易イノデアル。故テ以テ清潔方法ヲ施行シ傳染病ノ發生ヲ豫防スル必要ガアル。又傳染病中ニハ鼠又ハ虱若ハ蚤等ノ昆蟲ニ依ツテ媒介セラルモノデアルノデ之等ヲ驅除スルノ要ガアル。消毒方法、清潔方法ノ施行及ビ鼠族昆蟲ノ驅除ハ傳染病ノ豫防上必須ノ條件テアルノテ傳染病豫防法ニ於テハ之等ノ施行又ハ驅除ノ義務ヲ定メ且ツ之カ強制方法ヲ定メテ居ルノテアル。消毒方法、清潔方法竝ニ鼠族昆蟲等ノ驅除ノ施行ニ就テ傳染病豫防法ニ規定シテ居ルノハ左ノ四ノ場合デアル。

(一) 法第五條法第三條施行規則第十四條  
(二) 法第十一條施行規則第十五條

(四)(三) 法第十六條及十六條ノ二

法第十五條第七號及第九號、法第六條、施行規則第四章、第五章施行規則第十八條、施行規則第二十一條、法第十九條ノ二、施行規則第九章

九、病原体保有者ニ對スル注意

施行規則第十條、第十一條、第十二條、第九條  
十、猶傳染病患者消毒上注意スヘキ點左ノ如シ

傳染病患者ニ對スル復命事項

一、死 休

傳染病豫防法施行規則第二十六條第二號ニヨリ處置スルコト

二、尿尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物並ニ其ノ處置ニ用ヒタルモノ

同第三號ニヨリ處置スルコト

三、病毒ニ接觸シタル者

同第四號

四、衣類、寢具、敷物、布片等

同第五號又ハ施行シ難キモノハ同第二十七條ニヨリ日光消毒

五、患者、死休、病毒汚染物件ノ運搬器具

同第六號

六、圖書、書類

同第七號又ハ第二十七條ハアリ日光消毒ヲナスコト



七、硝子器、陶器、磁器、鑲製品、竹木品  
同第八號

八、革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護謨製品「セルロイド」製品、護謨附品、糊附品、膠附品、紙製品、毛皮、象牙、鼈甲、角等

同第九號又ハ施行シ難キモノハ日光消毒スルコト

九、室内各部

同第十號又ハシ難キモノニアリテハ同第二十七條ニヨリ日光消毒ヲ行フコト

一〇、便所、芥溜、溝渠

同第十一號(便地ハ容量ノ三十分ノ一以上ノ生石灰末又ハクロール石灰水ヲ注加スルコト)

一一、井戸、水槽、汚水

同第十二號(水量ノ五十分ノ一ノ生石灰又ハ五百分ノ一ノクロール石灰水)

参考

一、傳染病豫防法第二十六條各號參照

消毒上遺憾ナキヲ期スルコト

二、各病態ニヨリ消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ、概要ヲ規則第二十五條ニ示シタリ

三、藥物消毒ニ用フベキ藥品並ニ其ノ製法ハ同第二十四條ニ示セリ

(一) 石炭酸 水

石炭酸三分 水九十七分

(二) 昇 汞 水

昇汞一分 食鹽一分 水千分

(三) クレゾール水

クレゾール石鹼液三分 水九十七分

(四) 煨製石灰末(生石灰)

水ヲ加ヘ崩壊粉末ト爲シタルモノ

(五) 「クロール」石灰水

クロール石灰五分 水九十五分

四、患者治療シタルトキハ其ノ消毒ハ規則第二十六條第一號ニヨル

(本様式ハ一例ニ過キス各署毎ニ異ナルモ調査事項ハ大体ニ於テ異ナルサルモノナリ)

(一) 傳染病患者消毒狀況報告

昭和何年何月何日

第何管區

巡查何

某

患者ノ住所、戸主ト ノ續柄、職業、氏名 年齢及也帶主ノ職業 及 氏 名	新鴻市學校町二丁目三五番地 戸主 豆腐製造業 留吉二男 今 井 三 郎 當 二 十 年	患者職業戸主ト同シ	家族同居者數及 其ノ健康狀態 及豫防注射 又ハ服藥ノ有無	家族ハ戸主留吉、留吉妻ハ ナ、長男太一、三男三郎ノ 五人ニシテ患者以外ノ四名 ハ何レモ目下健康狀態ニア リ	家族一同ニ對シテハ 日豫防注射ヲ終了セリ
--	--	-----------	---------------------------------------	---	-------------------------



發病當時ノ住所	現住所地ニ同シ	消毒施行者氏名	市吏員 何 某
病名	腸チブス	患者ノ處置	月 日 午前一時 傳染病院ニ收容セリ
系統	發病十日程前ニ患者ニ卷町今井五郎方ニ泊シ居リ同家ニ患者アリシ爲感染セルモノト認ム	家族同居者中同病ニ罹リタル者	家族同居者中且ツテ同病ニ罹リタルモノナシ
診斷醫師氏名	學校町二丁目 醫師 上林 八郎	無	
發病後同家ニ出入シタル者ノ住所氏名	本町六丁目今井貞治ハ本月 日右患者ニ見舞ニ行キタル事實アリ	飲用水種別	水道使用
發病月日	何 月 何 日 初診月日 何 月 何 日 決定月日 何 月 何 日 全治又ハ死亡月日 何 月 何 日		
一	尿又ハ吐瀉物及其ノ處置ニ用ヒタル器具、布片等ノ處置		
二	患者及死体ノ用ニ供シタル衣類並ニ寢具運搬器具ノ處置		
三	看護人及病者ニ接觸シタルモノ使シタル衣類、寢具其他ノ處置		
四	患者ノ用ニ供シタル飲食物器具其他圖書、玩具等ノ處置		
五	病室其他疊、敷物、側壁、床下等ノ消毒方法		
六	隣室其他ノ消毒方法		
七	便池、便所、手洗鉢等消毒狀況		
八	臺所器具及流水溝等ノ消毒方法		

九	井水ノ消毒方法	(水量ノ五百分ノ一ノ「クロー」石灰水ヲ投入シ充分攪拌シテ二時間以上放置セシムルコト)
一〇	芥溜下水溝消毒方法	煨製石灰乳ヲ以テ消毒セリ
一一	屍体ノ處置	(石炭酸水ニ浸セル布片被服ヲ以テ全身ヲ包ミ棺内ニ石灰ヲ充填納棺セリ)
一二	鼻汁、唾痰、濃汁痂皮及落屑其他ノ處置ニ用ヒタル用具布片處置	燒却セシメタリ
其	室内外ノ塵埃ハ蒐集セシメ燒却ナサシメタリ	
他		

参考 消毒方法ニ關シテハ大正十一年九月内務省令第二十四號傳染病豫防法施行規則第二十一條乃至二十七條參照ノコト

(二) 昭和何年何月何日

第何管區受持 巡查 何

某 ㊦

何々警察署長

警部 何 某 殿

傳染病系統其他調査方ノ件報告

一、世帯主ノ職業及本人ノ職業

(一) 世帯主ノ住居、氏名、年齢及職業

(二) 患者ノ氏名、年齢及職業及世帯主トノ續柄



二、傳染系統

(一) 初發患者ノ系統

(二) 續發患者ノ系統狀況

(三) 既往ニ於ケル患者發生狀況

(四) 今後ニ於ケル患者ノ發生見込

三、患者發病ノ場所

(一) 發病當時ノ場所

(二) 確定當時ノ場所

(三) 發病ヨリ確定ニ至ル迄ノ間ニ於テ移動セル場所

四、飲料水關係

(一) 發病當時ニ於ケル飲料水ノ種別

(二) 發病後確定迄ニ至ル同人使用飲料水關係

五、家族使用人等同居者ノ數

(一) 家族ノ職業、氏名、年齡

(二) 使用人ノ本籍、氏名、年齡

六、家族同居者中既往及現在同病患者ノ有無

(一) 家族中

(二) 同居者中

七、豫防注射又ハ種痘ノ有無

一 家族中

二 同居人中

三 使用人中

八、發生地附近ノ一般狀況

一 位置

二 地勢

三 產業

四 交通關係

五 戶數人口

九、發生地附近住家ノ健康視察ヲ施行セル戶數並人口及其ノ健康狀態

十、其他參考事項

右ハ傳染病豫防法施行手續第二條ニ基キ調査復命ヲ要ス

注意 本調査ハ傳染病豫防法施行手續第二條ニ根據アルモノニシテ同條ニ依レバ、警察署長及市町村長

ハ傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケタルトキハ速ニ左記事項ヲ調査シ豫防上必要アリト認ムル事

項ハ其ノ關係地ノ所轄官公所ニ通報スヘシトアリ、左記ノ調査項目ハ前記各號ナルニ付キ受持巡

査ハ其ノ區内ヨリ傳染病發生ノ際ハ命令ヲ待タズ速ニ調査シ報告ヲ爲スヲ要ス

(三) 傳染病患者宅治療願出ニ對スル調査事項

一、自宅治療出願人ト患者トノ續柄

二、自宅治療出願ノ事由



(患者ノ願出、患者重症ノ爲其他ノ事由ヲ簡明ニ記載ノ事)  
三、患者専用ノ居室アリヤ

(病室ノ位置、光線ノ射入、通風、換氣ノ適否並ニ交通及消毒施行上完璧ヲ期シ得ラル、ヤ)  
四、主治醫ノ住居、氏名

五、專從看護婦ノ住所(看護婦會所屬名)氏名  
(看護婦免狀査閱セルヤ否ヤ)

六、消毒用ノ器具、藥品ノ整否並消毒方法ノ適否

七、業態上傳播ノ虞ナキヤ  
八、傳染病豫防法施行細則第六條ノ各號嚴守シ得ルモノナルヤ  
九、其他參考事項

注意 本願出ハ細則第五條ニ依リ出願ノ場合  
(十三) 精神病者監置願出ニ關シ

精神病者トハ心神耗弱者心身喪失者ハ勿論精神狀態ノ健全ナラザル者一切ヲ謂フ。而シテ精神病者ハ極メテ危險兇暴ノ性質ヲ有シ往々人ヲ殺傷シ又ハ被害妄想若クハ誇大妄想等ノ爲メ上書、建白等不敬ニ涉ル行爲ヲ爲シ公安ヲ害スル一方自殺ヲ企テ其ノ他危險ノ場所ニ接近スル等ノ虞アルガ故ニ此等ノ危害ヲ豫防排除シ以テ安寧ヲ保持セザルベカラス。又精神病者ノ多クハ不治ノ疾患ナルガ故ニ多年ニ亘ツテ監護義務者ニ經濟的精神的肉體的二多大ノ苦痛迷惑ヲ與フル關係上自然監護義務者其ノ他ノ者ニ疎ラゼラテハ精神病者ノ行爲ヨリ生ズル危害ヲ排除セントスルノ目的ノ外ニ精神病者ニ對スル不法行爲或ハ病者

ノ衛生上病者ヨリ生スル保安上ノ障害防遏ヲ目的トシテ調査ニ當ラサルベカラス。而シテ調査上ノ參照條文ヲ示セバ左ノ如シ

一、精神病者監護法執行手續

第一條 第二條 第五條

二、精神病者監置届出ニ關シ注意ノ件

三、精神病者監置室構造標準ノ件

四、精神病者監護法施行規則

第一條 第二條 第三條 第四條 第五條 第七條 第八條

五、精神病者監護法

第一條 第二條 第三條 第六條 第八條 第九條 第十六條 第十八條

精神病者私宅監置許可願

本籍 何縣何郡市何町村字何々第何番地

住所 何縣何郡市何町村大字何番地

(何某方) 精神病者

何

生年月日 某

本籍 何縣何郡市何町村大字何番地  
住所 何縣何郡市何町村大字何番地



戸主 (弟) (姉) 後見人 願出人 何

生年月日 某

右者昭和何年頃ヨリ精神ニ異状ヲ呈シ物品ヲ投棄シ家人ニ暴行シ傷害セントシ又ハ放火(火氣ヲ弄シ)セントシタルヲ以テ何々病院ニ入院(約何ヶ月間)加療セシモ未治ノ儘退院シ爾後漸次病勢昂進シ以前同様(當時ノ患者ノ様子)如何ニ制止スルモ反抗シ再度入院治療ヲ爲サントスルモ現下ノ時局ニテ生計學カラス(又ハ到底制止スルヲ得ス)患者保護及社會ノ安寧上別紙ノ場所ニ私宅監置致シ療養致サセ候間御許可相成度戸籍謄本、醫師診斷書並ニ監置室圖面及構造仕様書其他關係書類相添此段及御願候也

年 月 日

右

願出人 氏

名 〇

新瀉縣知事 何 某殿

監 護 場 所

一、監護人及監護願出人

何縣何郡何市町村字何番地

氏

生年月日 名

二、願出人ト精神病患者トノ關係

精神病患者ハ何某願出人ノ實子又ハ弟、兄、妹、姉

三、監置ノ場所

何郡何市町村何番地願出人ノ住宅内ニ監置ス

監 護 方 法

- 一、寢具ハ綿布夜具一枚、布團二枚ニシテ時々取換日光消毒等ヲ爲シ清潔ナルモノヲ使用ス
- 二、洗面ハ毎朝一回トス
- 三、食事時間ハ朝食午前七時、中食正午、夕食午後七時ノ三回ニナサシム
- 四、被服ハ綿布ニシテ時々洗濯及日光消毒等ヲ爲シ極メテ清潔ナルモノヲ用ユ
- 五、入浴ハ毎週二回宛トシ夏季七・八月ハ監置室内上敷ヲ取りタル上ニテ行水セシメ其他ハ監護及家族又ハ親類立合ノ上逃走出來得ザル様充分ニ監視注意ヲ爲シ屋外浴槽ニテ入浴セシム
- 六、散髪ハ毎月一回トス
- 七、夏季ハ監置室圖面及構造仕様書ノ通り通風充分ナレバ出蚊ノ期節ハ蚊張ヲ使用シ、冬季ハ寢具及衣類ヲ適度ニ増シ寒氣ヲ防シム

精神病患者私宅監置室構造仕様書

- 一、監置室北方ハ三十七尺ニシテ住宅アリ。東北ハ三尺九寸ニシテ隣家何々何宅アリ。東南ハ出願人住宅ニ覆ハシテ六十一尺ニシテ國道幅員廿四尺ノ道路アリ。道路ヲ隔テ、九十二尺五寸ノ所ニ何々ノ家アリ。南西ハ出願人宅ニ覆ハレテ十四尺ニシテ何々方ノ住宅アリ。西北ハ出願人土藏アリテ土藏ノ先六十二尺ニシテ何々方ノ住宅アリ。監置室ハ出願人宅ノ何々ノ方向ニ於テ設置ス。但シ住宅ヨリ何尺何

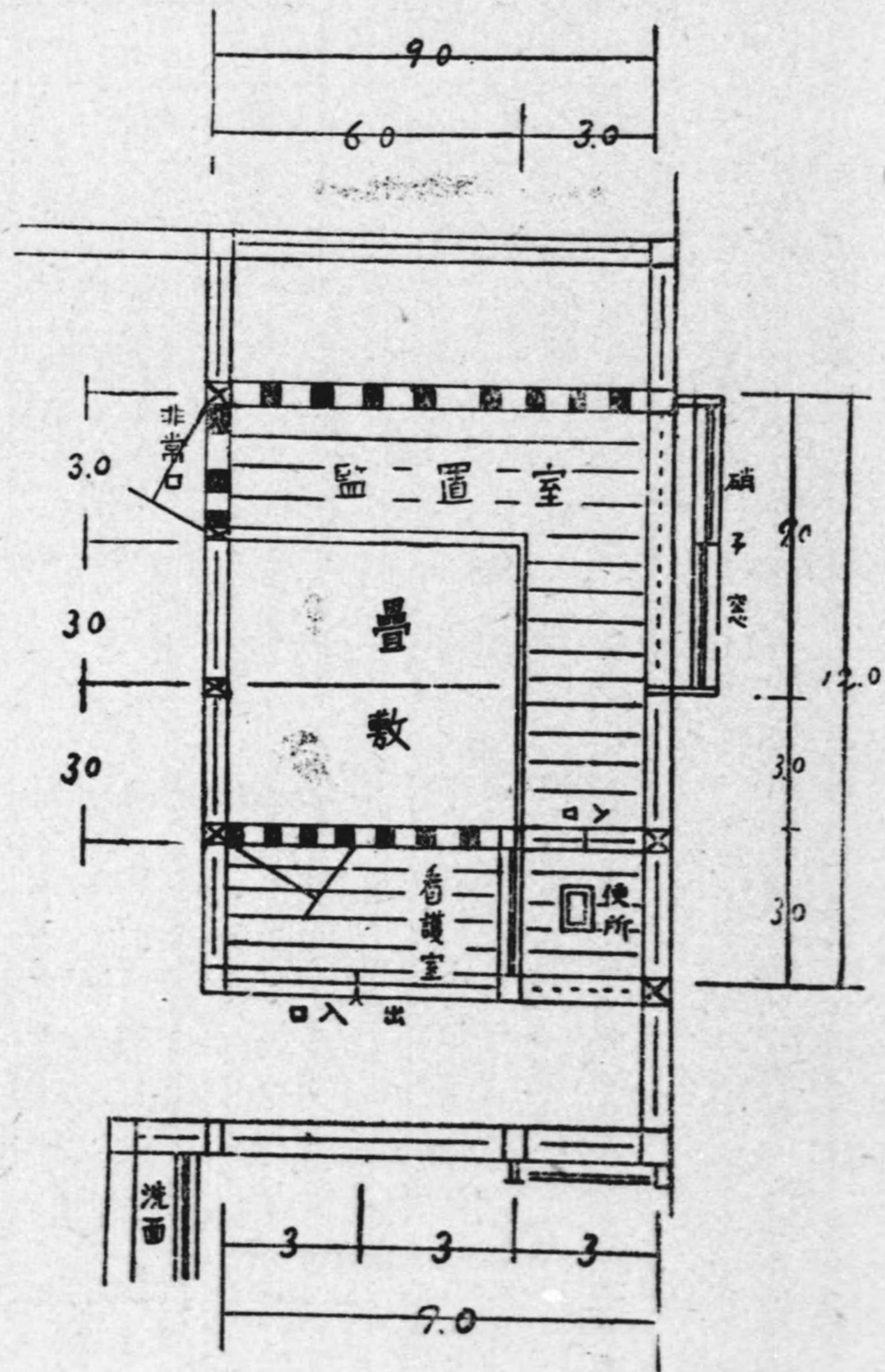


寸ヲ距ル。

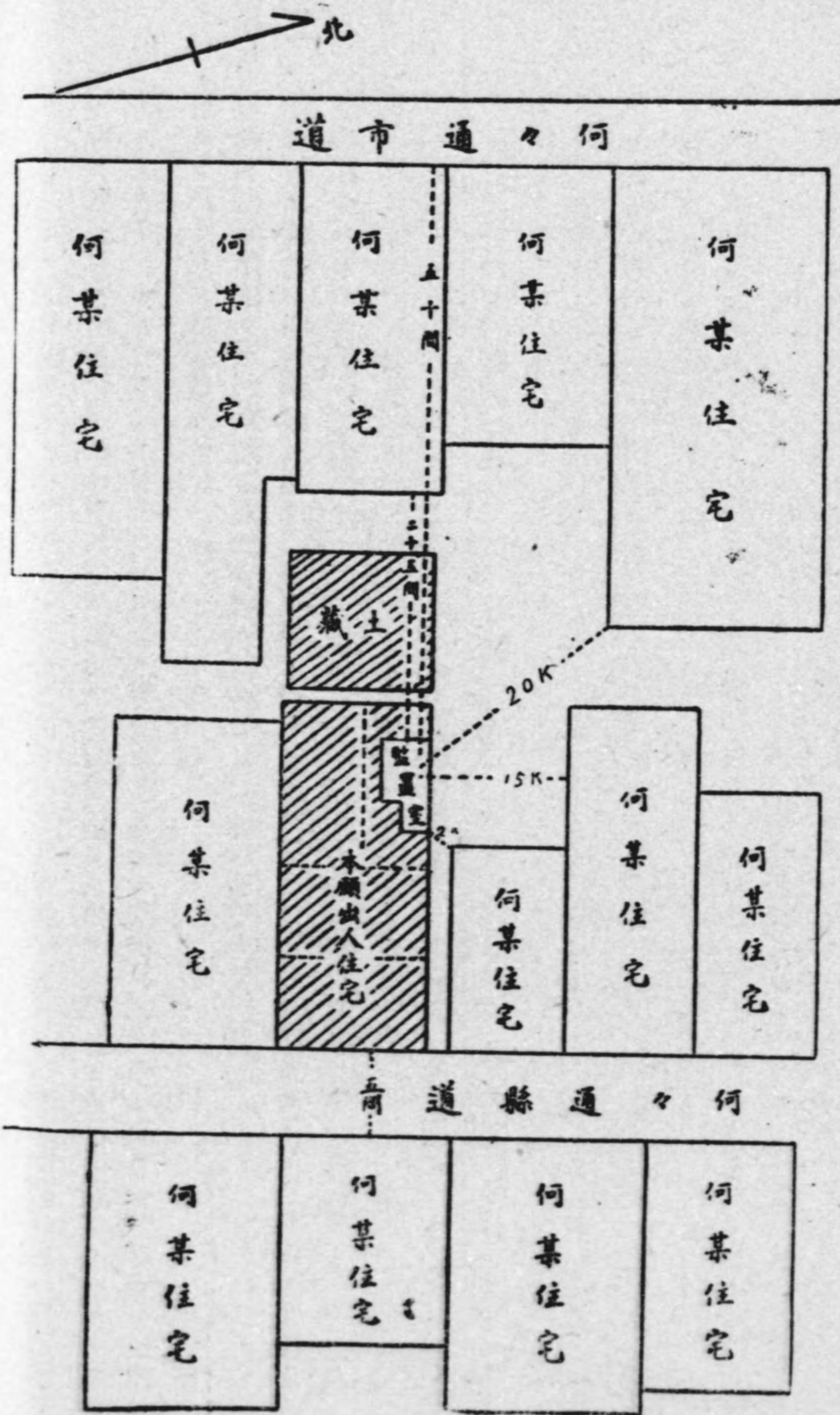
- 二、本監置室ハ在來住宅ノ一部ヲ圖示ノ通り改造シテ設置スルモノニシテ其ノ廣サハ九尺角ニシテ面積二坪二五、屋內床ハ八分板ヲ以テ釘打張リトシ其內一坪分圖面ノ通り、疊表ノ薄縁ヲ上敷ス。
- 三、室內天井ノ高サハ床板上ヨリ天井板下迄七尺トシ床ニ地盤面ヨリ一尺五寸ノ高サニ張ルモノトス。但シ天井板ハ八分板張トス。
- 四、室ハ東南及西南ノ一部ハ圖示ノ通り格子造リトシ西北及西南東北ノ一部及便所內ハ壁体ノ上ニ八分板ヲ以テ横板張リトス。而シテ東北及東南ハ圖示通り建具ヲ箵メ込ミテ保温ナシ夏季ハ開放シテ通風ニ便ナラシムルコト。
- 五、格子ハ三寸角ヲ使用シ間隔ハ三寸五分乃至四寸トシ中棧ハ三寸六分ノ六分角ヲ中通シ割間ニ取り付ケ何レモ仕口ニ拵ヘヲナシ上部柱繫、下部ハ土臺建込ミ楔又ハ大釘止メトシ要所「ボールド」及鍊ニテ補強シ東北圖示ノ位置ハ床板上ヨリ五尺ノ高サニ、内法五尺六寸五分、高サ一尺二寸ノ窓ヲ設ケ窓ニハ徑八分「ボールド」(金棒)十九本ヲ窓臺ニ差シ込ミ窓臺ハ柱へ外部ヨリ斜胴着キトシ送り込ミトシ鍊ニテ補強シ金棒ノ外部ニ患者ノ手指ノ達セザル所ニ硝子張り建具ヲ建込ミ採光、換氣ノ用ニ供ス。其他板張等堅固ニナスヲ以テ風雨雪害ニ對シテハ絶對ニ安全ナリ。
- 六、出入口ハ巾二尺六寸五分、高サ五尺五寸トシ堅棧ハ三寸角、上棧ハ三寸角、下敷三寸ノ四寸中ノ堅格子ハ三寸角三本、中棧ハ三寸六分ノ六分角中ニ通シ割間ニ組合セ下部食物出入口ヲ拵ヘ堅固ナル軸釣ニテ外開キトシ、内部ヨリ開扉ナシ得ザル様南京錠及門締ヲナス。
- 七、非常口ハ西南圖示ノ位置ニ巾二尺六寸五分、高サ五尺五寸前記出入口出様ニ拵ヘ釣込ミ錠締リ共前同様トシ有事ニ際シ避難ヲ容易ナラシムルコト

- 八、便所ハ圖示ノ位置ニ三尺角ノモノ室ノ外ニ區劃シテ設ケ床ヨリ四尺五寸ノ高サニ巾二尺六寸五分、高サ一尺二寸ノ窓ヲ設ケ窓ニハ徑八分ノ「ボールド」ヲ九本前記監置室內窓ト同様ニ拵ヘ採光換氣ノ用ニ供シ落シ口ハ巾五寸、長サ一尺トシ患者ノ休軀ノ潛入シ得ザル様ニシ危險ノ虞アルニ付蓋ヲ設ケズ
- 九、便池ハ踏板上ヨリ二尺二寸下リトシ患者ノ手指ノ達セザル様ニシ且ツ隨時引出シテ掃除ナシ得ル様八分板ヲ以テ抽斗式裝置トス
- 一〇、室内ニ浴場ヲ設ケズ別紙監置方法ニ依リ入浴セシム
- 一一、監置室ノ構造ハ別紙圖面及本仕様書記載ノ通り通風、採光、換氣ニ注意ヲナシ且ツ室内ノ視察便ナル様設計セルモノナリ

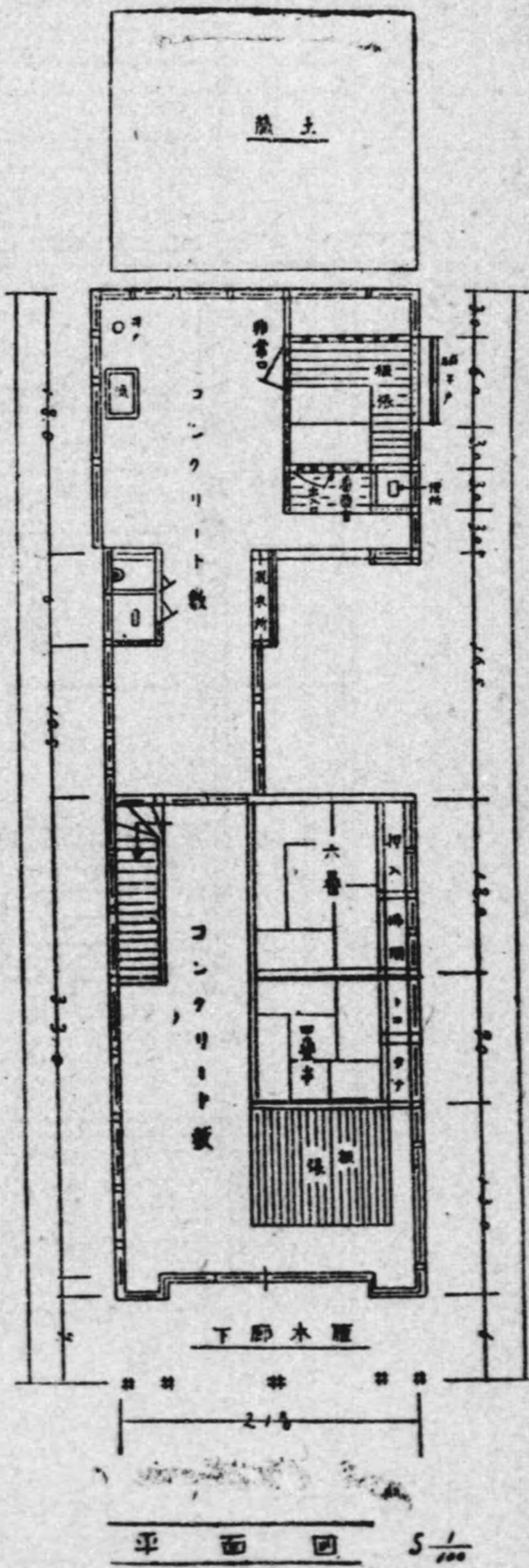




精神病者私宅監室詳細圖 (5/50)







診 断 書  
 ○○郡何々町大字何々何番地

何

當 何 年 某

一、病名 早發性痴呆

一、既往症 十六歳頃ヨリ祖母ニ反抗シ物品ヲ投ケ付ケ負傷セシメタルコトアリ。爾來懶惰トナリ無爲徒食ス。二十歳頃ヨリ徒ラニ物品ヲ投棄スル癖アリ時ニ家人ニ對シ暴行負傷ヲ與ヒ依ツテ新潟脳病院ニ入院半歳ノ後未治ノ儘退院ス。然ルニ漸次惡化スルヲ以テ再ビ十二年一月同病院ニ入院シ四月下旬退院ス。爾來雨中ニ外出シ物品ヲ放棄シ、獨語、獨笑、亂書ヲ好

ミ煙草ヲ愛喫シ、自分ヲ尊大視シ如何ナル制止ニモ反抗シ、衝動性ニ暴行ヲナル時ニ火ヲ弄スルコトアリ。依テ昭和十二年七月二拾三日何々脳病院ニ入院シ目下治療中ナリ。

一、現 症 病識ヲ缺キ睡眠不良、顔貌ニ表情ニ乏シク周圍ニ對シテ不感性ナルモ常ニ勝負事ヲ好ミ、碁、將棋ヲ爲シ樂シメリ。又妄想ヲ有シ意志ノ亢進ハ著明ニシテ感情ハ激シ易ク直チニ怒リノ相貌ヲ發シ一朝興奮スルトキハ自他ノ區別ナク暴行ヲ演シ危險甚大ナリ。身体的ニハ臆反射ノ他著變ナシ。

一、監置ノ要 退院後社會的、家庭的ノ刺戟ヲ受ケルトキハ直チニ憤怒暴行ヲ爲スヲ以テ反社會的行爲多ク危險大ナリ依テ隔離セシメ靜養スル必要ヲ認ム。

右 及 診 断 候 也

昭和何年何月何日

何町何丁目

何々病院長 何

某 ㊦

戸籍謄本 一通

精神病者ハ看護義務者ノ續柄ヲ明瞭ナラシムル爲戸籍謄本ノ添付ヲ要ス

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 何

某 ㊦

何々警察署長

警部 何 某殿



精神病者私宅監置許可願出ニ關スル調査復命

本籍 何郡何町何番地  
住所 同上 戸主何某母

監護義務者 何

生年月日 某

右者ヨリ別紙ノ通り精神病者何某私宅監置許可願出ニ付キ依命調査スルモ左記ノ通りニシテ事實監置ノ必要有之モノト被認候條此段及復命候也

記

一、發病ノ原因

病者ハ生來精神上多少ノ變質性ナリシガ昭和二年四月二十一日實父文作ノ死去ニ依リ相當悲觀憂鬱トナリ加フルニ其後家庭内常ニ圓滿ナラサルガ原因シ十六歳ノ八月頃祖母ニ反抗シ祖母ニ傷害ヲ與ヘ其後精神異狀ノ兆次第ニ濃厚トナリ爾來徒食シ居リ、二十一歳ノ頃ヨリ濫リニ物品ヲ投ゲ付クルノ習癖ト變シ家人ニ對シ暴行傷害ヲ與ヘントスル事數回ニ止マラス、遂ニ何年月何日新潟瀉腦病院ニ入院加療セシメクル事アルモ全治スルニ至ラハルモノナリ

二、發病年月日

昭和何年何月何日頃

三、發作中ノ舉動

發作中ハ直チニ興奮シ自他ノ區別ナク暴行ヲ爲シ且ツ火氣ヲ弄シ公安上危険ニシテ放置ヲ許サザルモノナリ

四、病者ト家族及親族トノ關係

監置許可願出ノ人ハ病者ノ實母ノ關係ニアリ、弟何々、何々及病者ノ何名暮シニシテ實母マサハ自宅ニ於テ酒小賣商ヲ營ミ弟何々ハ目下何郡何町ニ何々見習トシテ出稼シ、弟何々ハ何郡何町何某方ニ奉公中ナリ。而シテ親族トシテハ遠縁(何親等)ニ當ル何町何番地何某及何某ノ名アルモ何レモ親密ナル交際無キノ狀況ナリ

五、家族及親族ノ病者ニ對スル待遇

看護義務者ナル實母マサハ非常ニ吝嗇ニシテ附近ノ風評惡シキモ病者ニ對シテハ特別虐待スル如キコトナキモノト認ム、亦親族ニ於テハ深く交際スルモノナク單ニ同情シ居ルノ程度ニアリ

六、診斷醫師ト看護義務者トノ關係

診斷醫師何某ト看護義務者トハ親族、知友其他何等ノ關係ナク單ニ病者ガ治療ヲ受ケタル關係ニアルニ止マルモノナリ

七、病者及看護義務者ノ資産

- 1、病者ノ資産
  - 不動産 宅地 何坪 住家 一棟 見積價格 何圓
  - 動産約 何圓
- 2、看護義務者ノ資産
  - 不動産 宅地 何坪 住家 一棟 見積價格 何圓
  - 動産約 何圓

八、監置ノ方法

監置ノ方法願書添附ノ看護方法ニ記載ノ通り監護義務者、責任者トナリ、同人ハ看護室ニ起居シ病者ノ監護ニ當ルト共ニ監護方、方法書記載ノ通り之ヲ實行スルモノト認メラレ不都合ナキ



モノト認ム

九、監置室ノ構造設備ニ付テ

監置室ノ構造設備ハ別紙添附仕様書並ニ添附略圖ノ通ニシテ精神病名、監置室、構造標準ニ低  
觸セス。衛生上、保安上不都合ナキモノト認メラル。

十、其他参考事項

ナシ

(十四) 代用精神病院入院許可申請ニ對スル調査事項

一、出願人ノ本籍、住居、職業、氏名

(市町村長ナラバ其ノ旨)

二、精神病者ノ本籍、住居、氏名、職業、生年月日

三、出願者ト精神病者トノ續柄

四、發病ノ年月日

五、入院ヲ必要トスル事由

六、精神病者並ニ出願人ト醫師ト關係

七、精神病者及監護義務者ノ資産ノ詳細

八、精神病者及家族ノ職業並ニ年令及收入金額

九、精神病者並ニ監護義務者方ノ生活狀態

十、入院費負擔能力ノ有無及納稅額

十一、其他参考事項

調査上参照條文

一、精神病院法施行細則第一條、第二條

二、精神病院法施行規則第二條、第三條、第四條

尙ホ調査上左記ニ注意スル事

記

精神病者入院ニ對スル資産並家計狀態調査方ノ件

標記ノ件ニ關シテハ大正十年訓第二二三號精神病院法施行細則執行手續第一條第一項第四號ニ依リ調査復  
命スベキノ處往々其ノ大要ニテ處理上支障有之ニ付キ左記ニヨリ査精ノ上復命セラレベシ

記

一、資力調査ハ病者及義務者ノ所有ヲ區別スルコト

一、義務者ハ病者トノ續柄ヲ明記スルコト

(義務者トハ精神病者監護法第一條第一項ノ範圍ニ止メ置カルベシ)

調査事項

一、不動産 (不動産ノ内土地ハ種別(山林、田畑)面積及地價ヲ明記シ其ノ他ハ各種別ニ其ノ見込額

ヲ記載ノコト)

但住家ハ自家、借家ノ別ヲ明記シ建坪時價ヲ記スコト

二、動産 (各種別ニ見込額ヲ記入ノコト)

三、貯金及公債其ノ他ノ所有額



- 四、負債額
- 五、稼業ニヨリ年(又ハ月)収入額  
(収入ハ各種別ニナシ病者以外ノ金賤ヲ各人×ニ詳細調査記入ノコト)
- 六、其ノ他雜收見込額
- 七、無資力者ハ其ノ生計狀態ノ實況詳細備考

- 一、義務者ハ同一家ニアラサルモノト雖モ調査シ又籍ヲ別ニスルモノト雖モ本調査ニヨルモノトス  
(四親等内)
- 二、義務者ノ現住セザル場合ハ現住所正確調査報告スル事
- 三、私宅ニ於テ監置室ヲ作り監護スルノ能力ノ有無、参考事項トシテ報告ノコト

(十五) 狩 獵 免 狀

狩獵トハ法令ノ規定ニ基キ免狀ノ下附ヲ受ケ銃器、網、竊繩、釣具等ヲ使用シ法律ニ依リ捕獲ヲ許サレタル野生ノ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂ヒ、銃器ヲ用フル狩獵ヲ乙種ト稱シ、其レ以外ノ器具ヲ用フルヲ甲種ト稱ス、  
狩獵免許ノ出願在リタル際ハ狩獵法施行規則第五條ノ事項ヲ具備シテ出願スベク猶一等免狀ヲ受ケントスル者ヲ除クノ外狩獵法第八條第一項ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ添附スルコトヲ要ス。

- (1) 狩獵免狀下附願ニ對スル記載事項ハ  
一、出願者ノ身分、職業、氏名、本籍及住所、戸主トノ續柄及生年月日

- 二、免許ノ種類及等級
- 三、狩獵法又ハ本則ノ規定ニ依リ罰金ニ處セラレタコトノ有無、若シ處分セラレタコトアル者ハ其ノ年月日

四、出願者本籍及住所ヲ異ニスル場合ニ於テハ其ノ兩所ノ市町村長ノ稅額ノ證明書ノ添付ヲ要ス  
右願書ハ地方長官宛ナルモ所轄警察署ヘ提出シ免狀ヲ受クヘキモノトス

- (2) 本出願ニ對シ調査上ノ參照法令  
一、狩獵法取扱心得第一條ノ規定ニ依リ  
イ、狩獵法施行規則第五條  
ロ、狩獵法第六條、第七條第一項、第八條、第三十一條  
ハ、狩獵法施行規則第六條  
猶狩獵免狀ノ下附ヲ受ケタルモノ、火藥類ノ取締ニ關シテハ銃砲、火藥類取締法令執行規則第二十九條ヲ參照スベシ  
昭和何年何月何日

第何管區受持  
巡查 氏 名

何々警察署長  
警部 何 某 殿  
狩獵免狀下附願ニ對スル調査方ノ件復命  
本籍 北蒲原郡中條町大字中條五十二番地



住所 同上

戸主 久太郎長男

尾

野 久 一

明治三十五年一月十日生

右者願出ニ係ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通ニ有之免狀下附セラル、モ何等支障無之モノト認メラレ候條此段及復命候也

記

一、願出人ノ本籍、住所、職業、氏名、生年月日ノ正否

肩書記載ノ通ニ相違ナシ

二、納税額ノ正否

戸主ノ納税額ハ所得税金三十圓ニシテ出願人ノ納税額(所得税)ハ願書添付ノ證明書ノ通金

四十五圓ナルモ二百圓以下ナルガ故ニ二等税額ニ相違ナシ

三、狩獵法又ハ同法ニ基キ發スル命令ニ違反シ處罰セラレタルコトナキヤ

右該當事實ナシ

四、未成年者白痴者又ハ瘋癲者ニ非サルヤ

未成年者ニ非ス且ツ身神共ニ健全ニシテ白痴瘋癲者ノ系統ニ非ス

五、性質素行來歴ノ詳細

性質活潑ニシテ果斷ニ富ミ品性廉潔ナリ

素行酒色ニ耽ラス不良行爲ヲナスノ虞ナキモノト認ム

來歴高等小學校卒業後生家ニ於テ農業ニ從事シ昭和七年中ヨリ農ノ傍ラ免許ヲ受ケ年々狩獵

ニ從事シ今日ニ及ビタルモノナリ

六、公安ヲ害スルノ虞ナキヤ

出願者ハ火藥取扱ニハ特ニ留意シ鎖鑰アル箱中ニ納メ土藏内ニ保管シ置クヲ常トシ且ツ家族

中危險思想其他公安ヲ害スルガ如キ者ナク免許セラル、モ何等支障ナキモノト認メラル

(十六)

銃 砲 火 藥 類

火藥類讓受許可ハ施行規則第十六條第七條第十八條ニ依リ申請スルモノニシテ其ノ申請書ノ具備事項ハ銃砲火藥類施行細則第十四條及同法令執行規則第二條ノ規定ヲ具備スルコトヲ要シ其ノ願書様式ハ左ノ通り

火藥類讓受許可申請

本籍 新潟縣 何郡 何町 何番地

住所 新潟縣 何郡 何町 何番地

戸主

土木負請業

何

生 年 月 日 某

一、火藥類ノ種類及數量

1、「ダイナマイト」 五十貫匁

3、工業用雷管 五千個

二、讓受ノ事由 工事由

三、用 途 岩石破碎

2、有煙火藥 五十貫匁

4、導火線 五千尺



四、消費ノ日時 自昭和 年 月 日 每日 自午前 何時 至午後 何時  
 五、消費ノ場所 郡 村 何番地ヨリ何番地迄ノ間  
 右ノ通り火藥類讓受度候ニ付御許可相成度奉願候也  
 昭和何年何月何日 氏 名

新潟縣知事 何 某 殿  
 尚ホ銃砲火藥類取締法施行規則第十七條及十八條ノ火藥類ノ讓受ケニ付テハ警察署長宛申請書ヲ提出スヘキモノトス但シ火藥類ノ貯藏ニ關シテハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條、第三十條同法施行細則第二十八條等ノ規定ヲ遵守スルヲ要ス

文例(一)

昭和何年何月何日 第何管區受持 巡查 氏 名

何々警察署長 警部 何 某 殿

火藥類讓受許可申請ニ對スル調査方ノ件復命  
 新潟縣北魚沼郡廣瀬村大字並柳五十三番地

右者出願ニ係ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニシテ許可セラル、モ何等支障無之モ

ノト認メラレ候條此段及復命候也 記

- 一、本籍、住所、氏名、職業、生年月日ノ正否  
 本籍、住所、職業、氏名、生年月日共願書記載ノ通り相違ナシ
- 二、讓受ク可キ火藥類ノ種類數量  
 願書記載ノ通り相違ナキモノト認ム
- 三、讓受ノ事由並用途  
 小出只見線鐵道工事第〇區ヲ請負シ其ノ工事中〇〇墜道及其ノ他ニ於ケル岩石破碎ニ使用ノ目的ヲ以テ出願セルモノナリ
- 四、消費ノ場所及日時  
 場所ハ北魚沼郡〇〇村大字〇〇何番地ヨリ〇〇村地内大字〇〇何番地ニ至ルノ間小出只見線ノ鐵道工事ノ何々墜道及鐵道線路工事場  
 日時 自昭和何年何月何日 每日 自午前何時 至昭和何年何月何日 至午後何時 時間トス
- 五、性行經驗及前科ノ有無  
 本人ハ職業柄稀ニ見ル濃厚直質ニシテ而モ淡泊任俠心ニ篤ク素行モ職業ニ勉勵スルノ外不良行爲ヲ爲シタル事ナシ  
 本人ハ肩書地ニ出生シ小學校卒業後ハ農事ハ從事シ祖父ノ業ヲ營ミ來リタルモ昭和五年頃ヨリ農ノ傍ラ土木請負ヲ始メ昨今ニ於テハ相當本縣土木關係ニ信用ヲ得、道路、堤防、橋梁其他各



種ノ土木工事ヲ請負フニ至リタルモノナリ

六、白痴、瘋癲其他瘋癲ニ異狀ノ有無

右該當者ニ非ス

七、粗暴過激ノ性行ノ有無

前記載ノ通り濃厚直實且ツ酒癖ナク粗暴過激ノ性行ナシ

八、公安上障害ノ有無

前記載ノ通りニシテ許可セラル、モ之レヲ悪用シ公安ヲ害スルガ如キコトナキモノト認メラル

九、讓受ケ火藥ノ貯藏ニ關シ

讓受クル火藥類ハ本年何月何日附ヲ以テ許可セラレ設置ノ上竣工検査ヲ受ケタル假貯藏所内ニ

銃砲火藥類施行細則第二十八條各號ノ區別ニ依リ貯藏スルモノニシテ不都合ナシ

十、工事用トシテ讓受クル火藥類ハ消費許可アリタルモノナルヤ

右火藥類ノ消費ニ關シテハ何年何月何日附保第何號ヲ以テ消費許可セラレタルモノナリ

十一、讓受申請者ハ事業ヲ行フモノ、代理人ニ非サルヤ

申請者ハ事業ヲ行フ本人ニシテ代理人ニ非ス

十二、讓受ニ付キ許可ヲ要スルモノヨリ讓受クルモノニ非サルヤ

讓受先ハ何縣何町ノ火藥商ニシテ許可ヲ要スルモノニ非ス

以上ノ通りニシテ許可セラル、モ何等支障無之モノト思料ス

火藥類讓受願出ニ對シ調査復命上參照法令

一、銃砲火藥類取締法令取扱心得第十五條。第十六條

一、銃砲火藥類取締法施行規則第十六條、第十七條、第十八條

一、銃砲火藥類取締法施行細則第十四條第一項

一、銃砲火藥類取締法令執行規則第二條

一、銃砲火藥類取締法令取扱心得第二條第三號乃至第八號

火藥類ノ貯藏ニ關シ

一、銃砲火藥類取締法令執行規則第二十九條ノ二

一、銃砲火藥類取締法施行細則第二十八條

一、銃砲火藥類取締法施行規則第二十七條、第三十一條

火藥類消費ニ關シ

一、銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條及第三十八條

一、銃砲火藥類取締法施行細則第十六條

注意事項

(1) 火藥類ハ讓受ノ許可ヲ受ケタリト雖モ消費許可ヲ受ケルニ非サレバ之ヲ使用スルコトヲ得ス

但シ施行規則第三十八條ニ依リ使用地警察官署ノ許可ヲ受ケタルモノハ之ノ限りニ非ス

火藥類使用ニ就テ

火藥類ノ使用及消費ノ兩者ノ字義ハ通常ノ觀念ニ於テハ大ナル相違アリト雖モ火藥類取締法令上ニ於テハ兩者共同様ノ意義ト解スベキモノナルモ火藥類ノ消費許可申請ハ地方長官ニ願出ベキモノナルモ火藥類ノ使用(施行規則第三十八條)ノ場合ハ警察官署ノ許可ヲ受クベキモノトス

施行規則第三十八條ノ規定ニ依リ火藥類ノ使用許可願書提出ニハ銃砲火藥類取締法令執行規則第十一條ニ



依ルコト

(二) 火藥類使用許可申請

(施行規則第三十八條)  
(執行規則第十一條)

- 一、出願者ノ本籍、住所、職業、氏名、生年月日
  - 二、使用火藥類ノ種類數量
  - 三、使用期間並使用ノ方法
  - 四、使用ノ場所
  - 五、危険豫防ノ方法
  - 六、周圍二町以內ノ地物ヲ表示シタル地形圖(別紙トスルコト)
- 右何年何月何日付讓受許可ヲ受ケタル火藥類ヲ使用致シ度候間御許可相成度此段及奉願候也
- 昭和何年何月何日

何々警察署長

警部 何 某殿

右願人

氏

名 ㊟

右火藥類使用許可申請書ヲ受理爲シタル際ニハ銃砲火藥類取締法令取扱心得第十三條各號ヲ調査復命スル

(三) 有害鳥獸驅除願

耕作物等ノ被害ヲ防止スルタメ實彈ヲ用キサル銃砲ヲ用ヒ有害鳥獸ヲ驅除セントスルモノ、願出ニ關シテハ明治三十四年八月三十日縣令第六十五號有害鳥獸驅除者届出ノ件並ニ明治三十四年十一月二十八日保發九九七號有害鳥獸驅除申告ノ場合取扱方ノ件ノ規定アリテ別紙口頭願出受理箋ニ依リ受理ノ上署長

ニ進達ノ手續ヲ爲スノ外願出人ヨリ銃砲火藥類取締法令施行規則第十八條及細則第十四條並ニ縣令銃砲火藥類取締法令執行規則第二條等ニ基キ火藥類讓受許可申請ヲ提出セシメ速ニ進達スルト共ニ右申請ニ對シ調査復命スベキデアル。

第 號		昭和 年 月 日	願 出 日 時 分	取 扱 何 々 駐 在 所
領 要 ノ 件 事		午後 時 進 達	午前 何 時 何 分	巡 査 何 某 ㊟
有害鳥獸驅除願出ノ件		住 所 三島郡西越村大字大間十番地	收 受 月 日	捺 印
右者ヨリ左記鳥ハ稻作ニ有害ナリトテ威銃ヲ使用シ驅除方願出タリ		農 杉 本 左 平	收 受 番 號	
記		生 日 年 月 日 明治三十五年一月十日		
一、有害鳥 名稱 雀				
二、驅除區域 西越村大字大門字上流地域				
三、驅除期間 自昭和 年 月 日 至同 年 月 日				
項 事 申 副				
有害鳥驅除願出ニ對スル調査復命上欄願出ニ對シ實地ニ望ミ調査スルニ願出ノ通り稻田ニ於ケル有害鳥タル雀驅除ノ爲威銃ヲ使用スルモノニ相違ナク危険ノ虞レナキモノト認メラル				

右威銃使用ノ火藥類讓受ニ關スル調査復命ハ文例一ニ記載ト同様ニシテ銃砲火藥類取締法令取扱心得第十六條ニ依リ調査復命スベキモ其ノ文例ヲ示セバ左ノ通りナリ。



文例(四)

昭和何年何月何日

第何管區何々駐在所

巡查 何

某 ㊦

出雲崎警察署長  
警部補 何

某 殿

火藥類讓受許可申請ニ對スル調査方ノ件復命

新潟縣三島郡西越村大字大門十番地

戸主

農業

杉

本

左

平

明治三十五年一月十日生

右火藥類讓受許可申請ニ對シ依命調査スルニ左記ノ通りニシテ許可セラル、モ何等支障無之モノト認  
メラレ候條此段及復命候也

記

一、願出人ノ本籍、住所、職業、氏名、生年月日ノ正否

肩書記載ノ通り相違ナシ

二、火藥類ノ種類數量

願書記載ノ通り相違ナシ

三、讓受ノ事由及用途

稻作有害鳥雀驅除ノ爲威銃用ノ空砲ニ使用スルモノナリ

四、消費ノ時及場所

願書記載ノ通り

五、願出人ノ性行、經歷及前科ノ有無

性質溫順寡言ニシテ實直品性ハ清廉潔白酒色ニ耽ルガ如キ事ナク且ツ思想上其他不都合ノ事ナシ  
經歷ハ尋常高等小學校卒業後農業ニ從事シ今日ニ至リタルモノナリ

前科ナシ

六、白痴、瘋癲其他精神ニ異狀ノ有無

右該當者ニ非ス

七、讓受クル火藥ノ貯藏ニ關シ

火藥ハ施行規則第十八條ニ依ル小量火藥ニシテ貯藏方法ハ鎖鑰ヲ設ケタル木箱中ニ各別ニ納メ土藏中  
ニ保管シ置クモノニシテ貯藏上不都合ナシ

八、公安上障害ノ有無

右之通りニシテ許可セラル、モ何等支障ナキモノト思科ス

以上

(十七) 煙火打揚許可願ニ關スル調査

記

一、願書記載事項ノ整否

二、本籍、住所、職業、氏名、生年月日



- 三、白痴、瘋癲其他精神ニ異狀ノ有無
- 四、粗暴過激ノ有無
- 五、煙火ノ種類並ニ打揚ノ事由、日時、場所ノ相違ノ有無
- 六、打揚場所附近ノ狀況
- 七、危險豫防ノ方法並ニ其ノ適否
- 八、公共危險ノ有無並ニ他ヨリ故障ノ有無
- 九、其他警察上參考事項

打揚從事者經驗ノ有無、火藥類關係營業者ナルヤ等

參考

- 一、願書様式、煙火緩燃導火線取締規則第六條參照（保一八七頁）
- 二、申請者ト打揚從事者異ナルトキハ從事者ニ付キ二項乃至四項ノ調査ヲ要ス
- 三、危險豫防ノ方法ハ打揚場所ニハ柵ヲ爲シ一般人ノ出入ヲ禁シ且ツ警夫ヲ配置シ警戒セシムル等ノ方法ヲ探ラシムルヲ可トス

玩具用普通大工品販賣許可願ニ關スル調査

記

- 一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日
- 二、性質、素行、來歴
- 三、白痴、瘋癲、精神異狀ノ有無

四、未成年者ニ有リテハ法定代理人ノ同意ノ有無

參考

- 一、出願書式玩具用普通火工品取締規則第三條參照（保一九七頁）

昭和十三年三月二十五日

第何管區受持

巡查 何

某 ㊦

新潟警察署長

警視 何 某殿

煙火打揚許可願出ニ付調査復命

新潟市白山浦一丁目三〇番地

芝 田 好 藏

當 三十五年

右者別紙ノ通り煙火打揚許可願出ニ付依命調査スルニ左記ノ通りニ有之御許可相成候様致度此段及復命候也

記

一、願書記載事項

(規則第六條參照)

二、打上事由

曲馬興行開演合圖ノタメ打揚ケムトスルモノナリ



三、煙火ノ種類、數量

別紙願書ノ通り相違ナシ

四、打揚場所及時刻

打揚場所ハ白山公園グラント西端信濃川端ニシテ人家其他ノ建造物鐵道公道ヲ距ルヲ二百間以上ノケ所ニシテ打揚時刻ハ四月一日ヨリ五日ニ至ル毎日午前十時曲馬開演ノ時刻ニ打揚クルモノナリ

五、打揚従事者ノ住所、氏名、年齢

打揚従事者ハ別紙願書記載ノ通り

新潟市本町通何番町

煙火製造業者

何

當 何 年 某

ニシテ煙火打揚ニ經驗ヲ有シ煙火製造ノ許可ヲ受ケ居ルモ打揚従事者トシテ何等支障アルモノニアラス

六、危険豫防ノ方法

打揚場所ハ前記ノ通りニシテ又打揚ノ際ハ警戒夫三名ヲ付シ打揚場所ヘハ他人ノ出入ヲ禁シ警戒スルモノナリ

(十八)

工場設置願ニ對スル調査事項

一、工場主ノ性質、素行、經歷、前科資産信用ノ程度

法人ノ場合ニ於テハ其ノ代表者ニ付調査シ更ニ資産ハ法人ノ分ヲモ調査スルコト

二、工場取締規則第六號第一項各號ニ掲クル場所トノ距離公害ノ有無並同條但書ノ處分命令ノ要否  
公害有無ノ判定ハ工場ノ有スル原動機、汽罐、諸機械其ノ他ノ施設ニ依リ騒音震動ヲ生シ又ハ塵埃有害瓦斯ヲ發散シ若ハ汚水汚物ヲ排出スル等ノ事實ニ依ツテ多數人ノ業務ヲ妨ゲ又ハ財産上若ハ衛生上公共ノ危害ヲ生スルノ虞ナキヤ否ヲ以テ標準トスルコト

三、他ノ法令ノ許可ヲ要スルモノニアリテハ其ノ許可ノ有無

例クバ臨時資金調整法、鐵鋼工作物築許可規則、市街地建築物法、土木工事取締規則、電氣關係法令其ノ他工場ノ設置ニ關シ許可認可届出ヲ必要トスルモノ

四、敷地所有者並附近住居者又ハ地主故障ノ有無

五、原動機又ハ汽罐ヲ使用スルモノニ在リテハ取扱主任者ノ適否

六、其他參考事項

七、許否ニ關スル意見

工場設置許可願ニ關スル調査

一、願書記載事項ノ整否

二、工場主ノ本籍、住所、職業、氏名、年齢

三、工場主ノ性質、素行、經歷、前科資産ノ有無

四、工場取締規則第六條ニ低觸ノ有無 即チ

(一) 學校、病院、官公署、公園、社寺其ノ他公共ノ建築物ト近接スルモノニ非ラサルヤ



(二) 火藥其ノ他危險性物品ヲ貯藏シ若ハ取扱フ場所又ハ水道水源地、貯水池等ト近接スルモノニ非サルヤ

(三) 危險有害工場又ハ騒音、震動ヲ發シ若ハ有害物ヲ排出スル工場ニシテ人家稠密ノ場所ニ位置スルモノニ非サルヤ

五、他ノ法令ノ許可ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ許可ノ有無(汽罐ヲ設置スルモノニアリテハ其許可ノ有無等)

六、敷地所有者並ニ附近住民又ハ附近地主故障ノ有無

七、原動機ヲ使用スルモノニ在リテハ取扱主者任ノ適否 即チ

原動機ニアリテハ

一) 履歴ノ正否

(二) 白痴、瘋癲、精神異狀ノ有無

(三) 酒癖ノ有無

八、其他警察上參考事項

九、許可ニ關スル意見

參考

一、願書様式ハ昭和八年八月縣令第四五號工場取締規則第二條參照(保二七〇ノイ頁)

二、本件取扱ニ付テハ工場取締規則取扱手續第一條第二條參照ノ事(保二七〇ノホ)

三、工場ニシテ原動機ヲ有スルモノガ工場設置ノ許可ヲ受ケタルトキハ原動機ノ設置許可ヲ合併セテ爲サレタルモノト看做シ原動機取締規則ニ依ル手續ヲ要セス

(昭和八年八月訓示第十號工場取締規則ノ施行ニ關スル件參照)

四、汽罐ヲ工場内ニ設置スルモノニアリテハ共ニ許可ヲ受クヘキモノトス

工場増築改築移轉等ノ願ニ對スル調査事項

工場設置願ノ場合ト同様ナルモ工場主ノ性質、素行、經歷、前科、資産、信用ノ程度ハ調査ニ及ハズ  
工場繼承願ニ對スル調査事項

一、讓受人又ハ相續人ノ性質、素行、經歷、前科、資産、信用ノ程度

二、讓渡ニ關スル契約ノ内容

三、繼承人、被繼承人連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ノ適否

四、敷地所有者ノ諾否

五、許可ニ關スル意見

(十九) 原動機設置許可願ニ關スル調査

記

一、規則ニヨル具備事項ノ整否

二、設置場所ノ狀況

周圍二百米以内ノ人家其他ノ建造物、危險物貯藏所、鐵道、公道等ノ有無並ニ其ノ距離

三、四隣人家其他ニ對スル公害ノ有無

四、取扱主任者ノ適否



- (一) 履歴ノ正否
- (二) 白痴、瘋癲、精神異狀ノ有無
- (三) 酒癖ノ有無等
- 五、他ノ法令ニヨリ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ有無

(工場設置許可等)

- 六、其他参考事項
- 他ヨリ故障ノ有無
- 七、許可ニ關スル意見

参考

- 一、出願様式ハ原動機取締規則様式第一號
- 二、本件處理ニ付テハ原動機取締規則執行手續第一條、第二條參照(保二二四頁ノム)

(二十) 汽罐設置許可願ニ關スル調査

記

- 一、願書具備事項ノ整否
- 二、設置場所ノ狀況
  - 周圍二百米以内ノ人家其他ノ建造物、危險物貯藏所、鐵道、公道ノ有無並ニ其ノ距離又煙筒ニ對シテハ右ノ前附近ニ高壓電線ノ有無
  - 三、四隣人家其他ニ對スル公害ノ有無

四、取扱主任者ノ適否

即チ

- (一) 汽罐ノ種別ニヨリ一級又ハ二級汽罐士免許ヲ有スルモノナリヤ
- (二) 白痴、瘋癲、精神異狀ノ有無
- (三) 其他酒癖暴行癖ノ有無
- 五、他ノ法令ノ許可ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ許可ノ有無

(工場設置、牛乳處理營業等)

六、其他警察上ノ参考事項

他ヨリ故障ノ有無

七、許可ニ關スル意見

参考

- 一、願書様式ハ汽罐取締令別記様式參照
- 二、四隣人家其他ニ對スル公害ノ有無ノ判定ハ汽罐及使用機械ノ使用ニヨリ騒音、震動ヲ生シ又ハ塵埃有害瓦斯ヲ發散シ若ハ汚水汚物ヲ排出スル等ノ事實ニヨリ多數人ノ業務ヲ妨ケ又ハ財産上若ハ衛生上公共ノ危害ヲ生スルノ虞ナキヤ否ヤヲ以テ標準トスヘシ
- (汽罐取締規則執行手續第二條參照)

三、本件ニ關シテハ汽罐取締規則執行手續參照ノ事

- 四、煙筒ニ付テハ煙筒取締規則執行心得第二條第四號ニヨリ煙筒ノ高サノ一倍半ニ均シキ距離内ニ特別高壓又ハ高壓電線ノ有無調査ノ事(保二四五頁)



(二十一) 市街地建築物法

市街地建築物法適用地域内ニ於テハ建築物ハ特別ノ場合(行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合)ヲ除クノ外其ノ敷地ガ命令ノ定ムル所ニ依リ道路敷地ニ接スルニ非サレバ建築スルコトヲ得スト法第八條ニ規定アリ。更ニ法第七條ニハ道路幅ノ境界線ヲ以テ建築線トス旨規定アリテ建築線ナキ場所ニ建築物ヲ建築スラレサルヲ原則トシ、但シ特別ノ事甲アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得ル旨規定セラレ居リ、本條ニ基キ市街地建築物法施行細則第十五條ニ依リ建築線ノ指定申請書ヲ受理セル場合ハ同法施行手續第二條ニ基キ左記各號調査復命スベシ。

(一) 建築線指定申請願出ニ對スル調査復命事項

- 一、申請者ノ本籍、住居、氏名、職業、年齢ノ正否
- 二、出願事項ト事實相違ノ點ナキヤ
- 三、申請事由ノ適否
- 四、關係土地並建築物所有者及關係土地使用權者同意ノ有無
- 五、申請建築線周圍ノ狀況
- 六、其他參考トナルベキ事項
- 七、指定可否ニ關スル意見

注意 一、申請建築線周圍ノ狀況欄ニハ周圍道路トノ連絡ノ適否、交通繁閑ノ狀況等ヲ記載スルコト

二、圖面ハ施行細則第十六條各號ニ適合シ居ルヤ否ヤヲ調査スル事

(二) 建築届出ニ對スル調査項目

市街地建築物法施行細則第二十二條ノ建築届ニ對スル調査ヲ命セラレタル場合ノ調査事項  
建築届出ニ對スル調査方ノ件復命

- 一、建築主ノ氏名、住所及職業
- 二、届書記載事項ノ整否
- 三、届書記載事項ト事實ハ相違ナキヤ
- 四、建築物ノ棟數、戸數並ニ種類
- 五、敷地所有者トノ貸借關係
- 六、申請者ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者及妻ニ非サルヤ
- 七、敷地周圍ト道路ノ配置並ニ幅員(必ス方位ヲ記載スル事)
- 八、交通繁閑ノ狀況
- 九、指定建築線ニ接スルトキハ指定年月日、申請者住所氏名
- 十、取締營業者ナルトキハ取締法令ニ低觸ノ有無
- 十一、其他參考事項

(二十二) 營利職業紹介事業許可願ニ對スル調査

記

- 一、願書記載事項ノ整否並ニ適否
- 二、性質、素行、來歴
- 三、資産及信用ノ程度



四、營利職業紹介事業取締規則及同施行細則取扱心得第二條ニ低觸ノ有無 即チ

- (一) 禁治産者又ハ準禁治産者ニ非ラサルヤ
- (二) 家資分産又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復権ヲ得サルモノニ非サルヤ
- (三) 前科ノ有無
- (四) 密賣淫又ハ其ノ媒合若ハ容止ノ罪ヲ犯シタルモノニ非ラサルヤ
- (五) 紹介又ハ周旋ノ營業取締ニ關スル法規ニ依ル營業許可ノ取消處分ヲ受ケタルモノニ非サルヤ
- (六) 勞務者募集従事者ニ非ラサルヤ
- (七) 規則第三條ノ規定ニ低觸スルモノニ非ラサルヤ 即チ

紹介業者及其ノ同居ノ戸主、家族ハ宿屋、料理屋、飲食店、貸座敷、待合、藝妓屋、遊戯場、藝娼妓、酌婦若ハ之ニ類スルモノ、周旋業、勞務供給事業、質屋、古物商、金錢貸付業者又ハ従事者ニアラサルヤ

代書人、同補助員ニ非ラサルヤ

(八) 其他紹介事業ヲ營ムニ適セスト認メラル、モノニ非ラサルヤ

(九) 申請者未成年者ナルトキ又ハ法人ナルトキ其ノ代理人又ハ代表者前各號ニ低觸スルモノニ非サルヤ

五、參考事項

手数料ハ制限ヲ超過スルモノニアラサルヤ

一、願書様式ハ營利職業紹介事業規則第二條參照

參考

尚本願書ニハ縣令營利職業紹介事業取締規則施行細則第一條ニヨリ同居ノ家族氏名、職業表ヲ添付スルヲ要ス(保四七三頁)

二、本件取扱ニ付テハ營利職業紹介事業取締規則及同施行細則取扱心得第二條、第四條參照ノ事

(保四七七頁)

三、手数料ハ制限ヲ超過スルモノニアラサルヤ(細則第四條別表參照)

(二十三) 遊藝鑑札下附願ニ關スル調査

記

一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日

二、性質、素行、來歴

三、前科並ニ風俗上ノ處分ノ有無

四、公安風俗ヲ害スル虞ナキヤ

(二十四) 代書人願出ニ關スル調査

一、願書記載事項ノ整否

二、本籍、住所、氏名、生年月日

三、性質、素行、來歴

四、曾ツテ營業ヲ爲シ取消處分ヲ受ケ又ハ不許可處分ヲ受ケタルコトナキヤ

五、公安ヲ害スル虞アルモノニアラサルヤ



參考

一、願書樣式代書人規則第二條參照

(二十五) 寄附金募集許可願ニ關スル調査

- 一、願書記載事項ノ整否
- 二、本籍、住所、氏名、年齢
- 三、申請者ノ資産、性行、經歷、信用並ニ生活ノ程度及前科ノ有無
- 四、募集ノ目的、方法、金額、期間、區域並ニ其ノ適否
- 五、募集ニ關シ不正行爲ヲ爲ス虞ノ有無
- 六、其他參考事項

參考

一、寄附金募集許可願樣式ハ寄附金募集取締規則第三條參照(保五〇一頁)

二、本件取扱ニ付テハ寄附金募集取締規則取扱手續第一條參照(保五〇七頁)

(二十六) 慈善行商許可願ニ關スル調査

- 一、願書記載事項ノ正否
- 二、性質、素行、來歴
- 三、行商ノ目的及事由ハ相違ナキヤ
- 四、公安ヲ害スル虞ナキヤ
- 五、其他參考事項

參考

一、願書樣式慈善行商取締規則第三條參照

(二十七) 印判職願出ニ關スル調査

- 一、願書記載事項ノ整否
- 二、本籍、住所、氏名、生年月日
- 三、營業ノ種類  
印判調刻、鑄造、販賣ノ別
- 四、前科並ニ營業禁止處分ノ有無
- 五、其他警察上ノ參考事項

參考

一、願書樣式印判職取締規則第二條(保四九七頁)

(二十八) 醫業類似行爲届出ニ關スル調査

- 一、届書記載事項ノ正否
- 二、本籍、住所、氏名、生年月日
- 三、性質、素行、來歴及信用程度
- 四、前科ノ有無
- 五、規則第三條ニ低觸ノ有無 即チ



(一) 未成年者ニ非ラサルヤ  
 (二) 精神病者又ハ傳染性疾患アル者ニアラサルヤ  
 (三) 六年ノ徵役又ハ禁錮上以ノ刑ニ處セラレタルモノニアラサルヤ  
 六、施術所ノ構造ノ適否

(一) 施術室採光換氣充分ナルヤ、又天井ノ有無  
 (二) 電氣其他ノ設備アルモノニ付テハ危險ノ有無  
 (三) 二階ニ施術室アル場合ニ於テハ階段危險ノ有無  
 (四) 施術室ニハ各其用途ヲ標示シアリヤ、又秘密室、特別室等ヲ設ケタルモノナキヤ

七、他人ニ名義ヲ籍シ又他人ノ名義ヲ利用スルモノニ非ラサルヤ  
 八、其他警察上參考事項

一、届出様式ハ醫業類似行爲取締規則第二條參照(衛二〇〇頁ノ一)  
 二、本件處理ニ付テハ醫業類似行爲取締規則施行手續第一條參照ノ事(衛二〇〇頁ノ四)

(二十九)

昭和何年何月何日

第何管區  
巡查何

某

新潟警察署長  
警視 何 某殿

鍼術試験出願ニ關スル調査復命

本籍 新潟市西堀通五番町一二〇番地  
住所 同上

平民 戸主 一郎 長男  
山 井 五 郎

明治四十五年一月十日生

右者別紙ノ通り鍼術試験願出ニツキ依命調査スルニ左記ノ通りニ有之受験支障ナキモノト思料致候條此段及復命候也

記

- 一、本籍、住所、氏名、生年月日
- 肩書ノ通り相違ナシ
- 二、願書記載事項ノ整否
- 整備スルヲ認ム
- 三、修業履歴

本人ハ昭和五年新潟市山ノ下何々工場ニ職工トシテ被雇中失明シ徒食シ居ルモノナルガ、昭和八年一月ヨリ同市東堀通一番町五三番地鍼術營業者小野五作方ニ入り鍼術ヲ修業シ居タル



モノナリ

参考

- 一、願書様式ハ鍼術灸術營業取締規則第二條參照ノ事（衛二一四頁）
- 二、試験ハ四ケ年以上ノ修業履歴アルモノニ非ラサレバ得クルヲ得ス（規則第四條）
- 三、本件處理ニ付テハ鍼術灸術按摩術營業取締規則施行手續第二條參照ノコト

(三十)

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 氏

名 ㊦

何々警察署長

警部 何 某 殿

産婆試験願出ニ對スル調査方ノ件復命

新潟縣何郡何町何番地

戸主 職業 何某 何女

何

生年月日 某

右者産婆試験願出ニ對シ依命調査スルニ左記ノ通りニシテ受験セシムルモ何等支障無之モノト認メラレ候條此段及復命候也

記

一、本籍、住所、氏名、生年月日ノ正否、

二、性質、素行、來歴ノ詳細

三、産婆試験規則第五條ヲ具備シ且ツ出願事項ト事實相違ナキヤ

(1) 卒業證書其他資格證書又ハ修業履歴書

(2) 實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ學說試験合格ノ證明書ヲ添付セシムルコト

四、産婆規則第三條ニ低觸セサルヤ（一箇年以上産婆ノ學術修業ノ有無）

五、産婆規則第十三條ニ低觸セサルヤ

(1) 試験前墮胎ノ罪其他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルベキ罪ヲ犯シタルモノ又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタルモノニ非サルヤ

六、瘋癲又ハ白痴、不具廢疾者ニ非サルヤ

七、傳染性疾患者ニ非サルヤ

八、其他警察上參考事項

調査上參照條文産婆規則第二條、第三條、第十三條、第十四條、産婆試験規則第五條、産婆

試験規則施行細則第二條

(三十一)

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 氏

名 ㊦



何々警察署長

警部 何 某殿

醫師免許證下附申請ニ對スル調査方ノ件復命

新潟縣何郡何町何々番地

戸主 何業 何

生年月日 某 ㊦

右者申請ニ係ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニシテ免許證下附セラル、モ何等支障無之モノト認メラレ候條此段及復命候也

記

一、本籍、住所、氏名、生年月日ノ正否

二、性質、素行、來歴ノ詳細

三、資格證書ハ醫師法第一條又ハ第十三條ノ規定ニ基キ本人ガ下付セラレタルモノニ相違ナキヤ

戸籍謄本、事實ニ相違ノ點ナキヤ

四、醫師法第二條ニ低觸スル者ニ非サルヤ

(1) 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

(2) 未成年者、禁治産者、準禁治産者、精神病者、聾者、啞者及盲者ニ非サルヤ

五、法第三條ニ該當シ免許ヲ與フベカラサルモノニ非サルヤ

(1) 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者

(2) 又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタルモノニ非サルヤ

六、其他警察上參考事項

參照法令 一、醫師法第一條、第二條、第三條、第十條

二、醫師法施行細則第一條、第二條

(三十一)

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 氏

名 ㊦

何々警察署長

警部 何 某殿

按摩術免許鑑札下附願ニ對スル調査方ノ件復命

新潟縣何郡何町何々番地

戸主 何業 何

生年月日 某

右者願出ニ係ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニシテ免許鑑札下付セラル、モ何等支障無之モノト認メラレ候條此段及復命候也

記

一、原籍、住所、生年月日ノ正否



- 二、性質、素行、來歴ノ詳細
- 三、按摩術營業取締規則第二條低觸ノ有無
  - (1) 精神病者ニ非サルヤ
  - (2) 傳染性疾患アル者ニ非サルヤ
  - (3) 素行不良ノ者ニ非サルヤ
  - (4) 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ非サルヤ
- 四、資格ノ有無
  - (1) 晴眼者ニアリテハ試驗合格ノ有無
  - (2) 盲人ニアリテハ修業履歷相違ノ有無
- 五、曾テ按摩術營業ノ免許鑑札ヲ受ケ其ノ取消處分ヲ受ケ又ハ免許鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲナシ處分ヲ受ケタル事ナキヤ
- 六、其他警察上參考事項
  - 調査上參照條文按摩術營業取締規則第一條、第二條、同取締規則第一條、鍼術、灸術、按摩術營業取締規則施行手續第一條

(三十三)

昭和何年何月何日

第何管區受持  
巡查 氏

名 〇

何々警察署長

何 某 殿

看護婦免許申請ニ對スル調査方ノ件復命

新潟縣何郡何町何番地

戸主 何某 何女

何

生 年 月 日 某

右者申請ニ依ル首題ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニシテ免許セラル、ガ何等支障無之モノニ思料候條此段及復命候也

記

- 一、本籍、住居、氏名、生年月日ノ正否
- 二、性質、素行、來歴ノ詳細
- 三、看護婦規則第二條ニ定ムル資格證書ハ事實ト相違ナキヤ
- 四、規則第三條該當者ニ非サルヤ
  - (1) 精 神 病 者
  - (2) 傳染性疾患アルモノ
  - (3) 素行不良ト認ムルモノ
- 五、前科並ニ業務上犯罪ノ有無



六、其他警察上参考事項  
調査上参照條文

看護婦規則第一條、第二條第三條及附則  
看護婦規則施行細則第一條及附則  
看護婦規則施行手續第一條、第四條

看護婦免許願出ニ關スル調査復命

本籍 新潟市西堀通六番町一六一番地  
住所 同上

平民 戸主 仙太郎 三女  
榎 本 ツ ヤ 子

大正四年八月二十一日生

右ハ標記ノ件願出ニ付依命調査スルニ左記ノ通りニ有之免許支障ナキモノト思料致候條此段及復命候也

記

一、願書記載事項ノ整否

(細則第一條参照、資格證書寫ヲ要ス)

二、本籍、住所、氏名、生年月日  
肩書ノ通り相違ナシ

三、性質、素行、來歴

性質柔順、理性ニ強ク、思慮緻密ナリ。素行ハ實直ニシテ別ニ惡評ヲ聞カス善良ト認ム  
來歴トシテハ肩書本籍地ニ出生、新潟高等女學校卒業後昭和十一年三月新潟市學校町二番町醫師小山醫院方ニ看護婦見習トシテ雇ハレ爾來看護婦ノ修業、同十二年四月本縣施行ノ看護婦試験ニ合格、引續キ同院ニ從事中ノモノナリ

四、看護婦タル資格ノ有無

昭和十二年四月本縣施行ノ看護婦試験ニ合格シタルコト相違ナク願書添付ノ合証格書寫ハ本証ニ對照スルニ相違ナキモノナリ

五、看護婦規則第三條ニ低觸ノ有無

低觸スルモノニアラス 即チ

(1) 本人ハ生來心身共ニ壯健ニシテ精神ニ障害アルモノニアラス

(2) 傳染性疾患ヲ有セス

(3) 素行、前記ノ通り善良ナリ

六、十八歳未満ノ者ニアラス

七、前科ノ有無

ナシ

八、營業免許ノ取消又ハ禁停止處分ノ有無

本人ハ會テ看護婦タリシコトナク始メテノ出願ニシテ該當者ニアラス

九、参考事項



ナシ

(三十四) 消防組員ノ身元調査

記

- 一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日
- 二、性質、素行、來歴
- 三、消防組規則施行細則第十一條ニ低觸ノ有無 即チ
  - (1) 區域内ハ定住スル者ナルヤ否ヤ
  - (2) 品行方正ニシテ身体強壯ナル者ナルヤ
  - (3) 滿十八歳以上ナルヤ否ヤ
- 四、消防組規則施行細則第十條ニ低觸ノ有無 即チ
  - (1) 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ非サルヤ
  - (2) 禁治産者ニ非ラサルヤ
  - (3) 公費ヲ以テ恤救ヲ受クルモノニ非ラサルヤ
  - (4) 曾テ消防組員タリシコトアルモノニシテ懲戒處分ニヨリ其職ヲ免セラレ滿二年ヲ經過セサルモノニ非ラサルヤ
  - (5) 暴行又ハ酒亂ノ癖アルモノニ非ラサルヤ
- 五、其他參考事項

消防組幹部ノ身元調査

記

- 一、本籍、住所、氏名、生年月日、職業
- 二、性質、素行、來歴
- 三、消防組規則施行細則第九條ニ低觸ノ有無 即チ
  - (1) 區域内ニ定住スル者ナルヤ
  - (2) 品行方正ニシテ身体強壯ナル者ナルヤ
  - (3) 成年者ナルヤ否ヤ
  - (4) 消防ノ事務ニ經驗アル者ナルヤ
  - (5) 資産及名望アル者ナルヤ否ヤ
- 四、消防組規則施行細則第十二條ニ低觸ノ有無 即チ
  - (1) 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトノ有無
  - (2) 禁治産者ニ非ラサルヤ
  - (3) 公費ヲ以テ恤救ヲ受クルモノニ非ラサルヤ
  - (4) 曾テ消防組員タリシコトアルモノニシテ懲戒處分ニヨリ其職ヲ免セラレタルコトノ有無
  - (5) 暴行又ハ酒癖ノ有無
- 五、消防組員統御上ノ能否
- 六、其他參考事項



參考

- 一、消防組規則施行細則九條、十條、十二條參照
- 二、消防組規則執行手續二條參照（保九四頁）

(三十五)

昭年何年何月何日

第何管區受持

巡查 氏

名 ㊦

何々警察署長

警部 何 某殿

理髮試驗願出ニ對スル調査方ノ件復命

新潟縣新潟市學校町一丁目十五番地

戸主 猶藏 長男

理髮業徒弟

今

井

太

郎

大正八年五月二日生

右者願出ニ係ル標記ノ件ニ關シ依命調査スルニ左記ノ通りニ有之候條此段及復命候也

記

- 一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日ノ正否
- 二、性質、素行、來歴ノ詳細

- 三、理髮試驗規則第五條各號ヲ具備シ居リ事實ト相違ナキヤ
- 四、三ヶ年以上理髮ニ關スル修業ヲナシタルコト相違ナキヤ
- 五、其他警察上參考事項

- 一、理髮試驗規則第三條及第五條
- 一、理髮試驗手数料徵收規則第一條及第二條

三十六

昭和何年何月何日

第何管區受持

巡查 氏

名 ㊦

何々警察署長

警部 何 某殿

理髮従事者届出ニ對スル身元調査方ノ件復命

新潟縣西蒲原郡内野町五十番地

戸主 農 佐太郎 二男

近

藤

二

郎

昭和二年一月十日生

右者新潟市學校町二丁目理髮職五十嵐直藏方従事者トシテノ届出ニ對シ依命其ノ身元調査スルニ



左記ノ通りニ有之候條此段及復命候也

記

- 一、本籍、住所、職業、氏名、生年月日ノ正否
  - 二、性質、素行、來歴ノ詳細
  - 三、精神病者、白痴、瘋癲又ハ傳染性疾患ニ罹リ或ハ其ノ系統者ニ非サルヤ
  - 四、公安ヲ害シ風俗ヲ紊ス虞アル者ニ非サルヤ
  - 五、親權者ノ承諾ノ有無
  - 六、其他警察上參考事項
- 調査上ノ参照法令
- 一、理髮營業取締規則第三條、第八條、第九條、第十條、十二條ノ二

### 第三章 口頭受理

人民ノ願出ニシテ其ノ簡易ナルモノハ明治三十三年八月二十四日縣告示第二三七號ニヨリ口頭ヲ以テ受理スルコトヲ得ルモノナリ。而シテ派出所又ハ駐在所ニ於テモ同年九月七日同告示第二百四十四號警察署ヘ差出スヘキ願届ヲ口頭ニテ派出所又ハ駐在所ニ申告スルコトヲ得ベキ件ニ列擧ノモノハ派出所、駐在所ニ於テモ受理スベキモノデアル。其ノ口頭願届ハ警察署ニアリテハ件名簿ニ記載スルノデアルガ、派出所、駐在所ニアリテハ日誌及口頭願届件名簿ニ記入シテ且ツ口頭受理箋ニ錄取シ調査復命ヲ要スルモノハ命令ヲ特ダスシテ調査シ下欄ノ副申事項欄ヘ記入シテ署長ヘ進達スルノデアル。

(口頭願届取扱規程明治三十三年八月二十五日 訓示第四七號)

第 號		願届 新湯市學校町二番町一三番地		取扱 第何管區受持	
昭和何年何月何日	時進達	人 姓名	住所	願届月日時	何月何日何時
昭和三十三年八月二十五日		鮮魚商	今井三造	月 日	日
		當	五十年	收 受 月 日	巡 査 署 名
				收 受 番 號	號 捺 印
事 件		遺失物届出ノ件		上欄届出ニ對シ拾得者ノ有無調査スルニ未タ該	
領 要		右者本 月 日午前 時頃市内學校町三番町北村五郎方前ヨリ自宅前迄ノ間ノ街路ニ於テ左記金品遺失セル旨届出タリ		當拾得届出者無之或ハ拾得シ之ヲ不正ニ横領シ居ルモノナキヤニ付キ引續キ捜査中ナリ	
領 要		一、長サ二寸、巾一寸位ノ黒色製蓋口壹個在中 五圓五拾錢 但シ内譯			
領 要		一、五圓紙幣 一枚			
領 要		一、五拾銀貨 一個			
領 要		計 五圓五拾錢也			
項 事 申					



第 號		昭 和 何 年 何 月 何 日		時 進 達	
領 要		事 件		記	
中蒲原郡石山村字山二ッ地内百二十番地原野		右者飼養ニ係ル畜牛牝一頭ハ本日斃死セリトテ 左記日時場所ニ埋却處分致シ度旨別紙斃野ノ檢 案書相添ヘ願出タリ		斃野埋却認可願出ノ件	
一、斃野ノ種類及頭數		牝牛壹頭		斃野埋却認可願ニ對スル調査復命上欄願出ニ對 シ現場ニ出張シ實地調査スルニ斃野ノ檢案書記 載ノ通り傳染性斃野ニ罹リ斃死シタルノ疑ナク 猶埋却セシトスル場所ハ斃野取締規則第五條第 一號及第二號ニ抵觸セズ、且ツ該場所ニ埋却ス ルモ衛生上何等支障ナキモノト認メラル	
二、處分方法		埋却處分		收 受 月 日	
三、埋却場所		中蒲原郡石山村字山二ッ地内百二十番地原野		何 月 何 日 何 時	
項 事 申 副		斃野埋却認可願ニ對スル調査復命上欄願出ニ對 シ現場ニ出張シ實地調査スルニ斃野ノ檢案書記 載ノ通り傳染性斃野ニ罹リ斃死シタルノ疑ナク 猶埋却セシトスル場所ハ斃野取締規則第五條第 一號及第二號ニ抵觸セズ、且ツ該場所ニ埋却ス ルモ衛生上何等支障ナキモノト認メラル		收 受 番 號	
				號 日	
				取 扱 第 何 管 區 受 持	
				巡 査 署 名	
				巡 査 何 某 〇	
				號 捺 印	

昭和何年何月何日

旭町派出所 巡查 何

某 〇

新潟警察署長

警視 何

某 殿

斃野埋却ニ關スル件復命

本日旭第五〇號ヲ以テ及進達置候區内松並町何番地何某斃野埋却ノ件依命現場へ出張埋却ノ狀況ヲ見分スルニ斃野ノ運搬ニハ汚物ヲ脱漏セサル様装置シテ埋却場ニ運ビ、埋却ニ當リテハ規則第十二條ニ定ムルガ如ク斃野投入後三尺ノ盆地アル深サ五尺ノ抗穴ヲ穿テ斃野ニハ人糞尿一荷ヲ掛ケ完全ニ埋却致候條此段及復命候也

### 第四章 電話取扱

復雜多岐ナル警察事務ノ迅速敏活ヲ圖ル爲メニ警察電話ヲ唯一ノ通信機關トシテ居ルノデアルガ、此ノ事務ノ正鵠ヲ期センニハ其ノ設備ト之ガ取扱ニ熟練シタル人ヲ要スルハ論ヲ俟タナイ處デアル。故ニ各自ハ警察用語ノ研究ハ勿論、警察電話使用ノ方法ヲ會得シテ置ク必要ガアルノデアル。本縣ニ於テハ明治四十一年十月訓第四七九號電話通信及保守規程アリ

一、電話取扱上ノ注意

- 一 電話案ハ簡明ヲ旨トスルコト
- 二 通話中ノ電話ヲ盜聽セサルコト
- 三 電話取扱係ハ濫リニ席ヲ離ル、可ラス



- 四 濫リニ警察官署以外ノモノヲシテ通話セシメ又ハ警察官署ノモノト言ヘ共私事通話ヲ爲ス可ラス
- 五 通信ノ際ハ發着主任ノ氏名ヲ  
(此ノ際自己ノ氏名ヲ先ニ述ブルヲ禮トス)
- 六 通話ノ際ハ對手人ノ何人タルヲ問ハス野卑又ハ無禮ノ言ヲ用フ可ラス  
(電話ハ相手ノ顔が見エサルモノナルニ付時々感情ニ支配セラレ又ハ言語ノ行違ヒヨリ口論ヲ爲シ戲弄侮蔑ノ言動ヲ爲スカ如キ事例ヤ、高位高官ニ對シ無禮ヲ爲スカ如キ場合往々アリ深ク慎マザル可ラス)
- 七 通信ヲ命セラレタル際ハ電話件名簿發信ノ部へ番號、件名、宛名、月日付取扱者名ヲ記入シ速カニ發信ノ上何號發信ノ旨ヲ餘白ニ記入認印シ主任者ニ返付スヘシ
- 八 着信ノ場合ハ一定ノ用紙ニ前項同様必要事項ヲ記載シ通信ヲ錄取シテ且ツ件名簿受信ノ部へ記入シ主務者へ提出スヘシ
- 九 中繼ノ通信ハ通信紙ニ錄取シ中繼簿ニ記載シ直チニ中繼通信ヲ爲スベシ
- 一〇 電話室ハ常ニ清潔整頓ニ注意シ他人ヲシテ濫リニ立入ラシムルコトナキ様注意シ秘密ノ漏洩ヲ防キ且ツ不整頓ヨリ通信文書ノ發信ヲ遺忘シ又通信書面ヲ勝手ニスルガ如キコトナキ様注意ヲ要ス
- 二 退廳ノ場合未決文書アルトキハ引繼ヲ嚴ニシ責任區域ヲ明カニ引繼キ不確實ニヨル通信ノ遺忘、通信文ノ紛失ナキ様注意ヲ要ス
- 三 退署後ニ於テ受ケタル着信ハ直チニ當直員ニ交付シ電話受信件名簿ニ捺印ヲ受クベシ
- 三 電話機ニ故障アルトキハ直チニ會計係ニ通知シ修理ノ手續ヲ爲スヘシ
- 四 雷鳴激シキ時又ハ電燈線ト混線ノ際ハ危險ナキ様之ニ接近セサルト共ニ一面電話機ノ破損ナキ様

電話取扱上参照法令

- 一、警察電話使用上準據スヘキ件 明治三十六年九月部長訓示第二六號
- 二、警察電話使用上注意ノ件 明治四十年十二月訓示七七號
- 三、電話取扱ニ關スル件 明治四十年四月二十日部長訓示第二十三號
- 四、電話報告取扱ニ關スル件 大正十五年六月警發第七十八號

措置スヘシ

受信者名 何々警察署長		發信者名 新潟縣知事	
發信所	番號 第〇〇號	受信所	番號 第〇〇號
取扱者		月日時	昭和何年何月何日何時何分
昭和何年何月何日 東京市ニ於テ發行ノ何々新聞朝刊第何々號第一面何々ト題スル記事アルモノハ安寧秩序ヲ紊スモノト認メ新聞紙法第二十三條ニヨリ本日內務大臣ニ於テ發賣領布禁止並ニ差押處分ヲ爲シタルニ付キ其ノ執行ヲ本縣警察官吏ニ命令ス		受信者	
昭和何年何月何日		取扱者	

新潟縣知事



受信月日時 何月何日午後何時何分

發信者	新潟署長	番	何	號	何	者	氏	氏
受信者	何々署長	號	何	號	何	者	氏	氏
				者		氏		
				名		名		

窃盜犯人手配方ノ件

被害者

新潟市學校町二丁目三十五番地

戸主 雜貨商 北村

當 三 五 十 年 郎

昭和十三年十一月二十日午後十一時三十分頃右者方家人ノ就寢中、同家裏手勝手口ノ板戸ノ施錠ヲ外シテ賊忍ビ込ミ同家座敷ノ算笥中ヨリ金品ヲ窃取中家人ニ發見セラレテ逃走セシ事件發生セルモ、犯人ノ氏名不詳ナルニ就テハ左記ニ依リ嚴重御手配ノ上犯人發見ノ節ハ至急御回報相煩度此段及善託候也

一、北村三都方被害品

(1) 巾一寸、長サ二寸五分位ノ黒色縲ノ皮製中古褌口 壹個代金五十錢位

在中 金貳百五十圓

内譯 拾圓紙幣 貳拾枚

五圓紙幣 拾枚

(2) 大島緋ノ綿入及同羽織 各壹枚

但シ男物ニシテ 代金參拾圓位

二、犯人ノ人相、着衣

(1) 人相丈五尺二寸位肥タル方色黒クシテ鼻下ニ鬚込髯ヲ貯ヒ黒色縲ノロイド様眼鏡ヲ用フ

(2) 着衣黒色縲ノ詰襟ノ洋服 同洋袴ヲ着シ茶色縲ノ烏打帽ヲ冠ル 以上

### 第五章 管區事務

#### 第一節 管區日誌ノ記載方

管區受持巡查ハ警察署處務規程第九十一條ノ一ヨリ明治四十四年八月一日訓示第二十七號様式ノ管區日誌ヲ備ヘ服務中ノ事項ハ細大トナク記載シ、署内勤務者ニアリテハ毎朝派出所、駐在所勤務者ニアリテハ監督巡視ノ際ノ檢閲ヲ受クヘキモノナリ。

一、而シテ其ノ記載事項ハ様式備考ニ示シタルトコロニヨリ其ノ行ヒタル警邏、戸口調査、營業臨檢、視察人視察、調査復命報告、違犯ニ對スル措置等勤務ニ關スル一切ヲ記載シ日々其ノ日計ヲ明記シ毎月末作成セル管區執行事務統計表ノ材料ニ供スヘキモノナリ。

二、日誌ト管區執行事務統計表ハ前述ノ如クニシテ日誌ノ記載方綿密且ツ一目瞭然タルニ於テハ月報作成ハ極メテ容易デアル。

故ニ各自ノ勤務成績ヲ報告スヘキ管區執行事務統計ノ材料ヲ豊富ナラシメンニハ不斷ノ心掛ケガ肝要デアル。今其ノ注意スベキ要點ヲ掲クレバ勤務ニ出發スルトキハ必ス出發前其ノ旨記載シ、歸着シタルトキハ直チニ其旨記載シ且ツ勤務中取扱ヒタル事項ヲ細大トナク記載スルコトニ努メ、殊ニ違反事件等ニ對シテハ單ニ説諭、注意等ト記載スルコトナク法規ノ根據ヲ確メ「道路取締令違反」「警察犯」等ト明確ニ記載スヘキデアル。

又戸口調査ノ如ク數字ヲ記載スルモノ或ハ臨檢、視察、口頭願届受理ノ如キ他ノ簿冊ト連絡ヲ要スルモノハ必ズ即時整理シ未決ノ儘トナシ置カザル様心掛ケナケレバナラナイ。然ルニ往々關係簿冊ハ勿論、











- 三、拾得者ニ於テ届出拾得品ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ且ツ義務ヲ免シムルコトヲ希望スルモノニ對シテハ送付書裏面ノ該當欄ニ署名捺印セシメ領收証ハ交付ノ必要ハナイ。
- 四、漂流物ハ水難救護法ニヨリ市町村長ニ於テ取扱ヲ爲スモノナルヲ以テ市町村長ヘ届出セシムヘキモノデアル。
- 五、假領置簿ハ豫メ番號ヲ記入シ署名印ヲ捺シ派出所、駐在所ヘ交付アルモノナルヲ以テ其ノ取扱ヲ嚴密ニシ書損毀損ナキ様注意シ、若シ書損等ノ場合ハ其儘保存シ收支ヲ明カニシ置クヘキモノデアル。
- 六、拾得物受理ノ際ハ物品ト金錢トヲ混記セサルコトニ注意ヲ要ス。所屬署ニ於テハ物品ト金錢ハ各別ニ記帳スルモノデアル。其ノ點ニ思ヒヲ致シ過誤ナキヲ要ス。

例

- 一、赤革製小型婦人用墓口 一個 價格三十錢
- 一、黒水牛<sup>㊦</sup>ト湖シタル認印 壹個 三十錢
- 計 二點 見積代價 六十錢
- 一、金七圓五拾錢
- 内 譯
- 五圓兌換券 一枚
- 五拾錢銀貨 一個

### 第三節 管區執行事務成績表

管區執行事務成績表トハ管區巡查ニ於テ毎月執行シタル事項ヲ管區日誌其他ニヨリ取纏メテ之ヲ記載シ登

月頭初署長ヘ報告スルモノヲ言フノデアル。  
 成績表作成ニ付テハ先日誌ハ重要ナル資料ナルヲ以テ成績表ニ登録スルニ便ナル如ク留意記載シ、且ツ材料ヲ豊富ニスルコトニ努メ又前述統計ノ部ニ於テ述ヘタル如ク統計ノ重要性ニ鑑ミ慎重作表シ提出期限ヲ嚴ニ遵守スヘキデアル。  
 尙執行事務成績表文例ハ附録ノ部ニ記載ノ通りナルモ、執行事務成績表ノ作成方式ハ各署ニ依リ夫々異ナル點アルニ付キ所定ノ管區事務成績表ニ合致スル如ク平素材料ノ集蒐ニ努ムルヲ要ス。

## 第三編 司法文書

### 第一章 司法警察文書ノ意義

司法警察文書トハ司法警察事務ニ關シ警察官吏ノ作成スベキ文書ヲ謂フ。  
 普通ノ稱呼ニ於テ司法事務ノ範圍中ニハ形式上行政事務タル違警罪即決ニ關シテモ同様司法事務ト謂ヒ或ハ行政警察官吏ノ地位ニ於テ司法事務ニ關係アル文書ヲ作成スル場合、例ヘバ各種營業中反則者ヲ發見報告スル場合ノ如キモ普通之モ司法事務ト云フ。純然タル司法警察官吏トシテ作成スル文書ハ刑事訴訟法、司法警察職務規範及司法警察執務細則ノ規定ニ依ルベキテアル。次ニ前述ノ如ク行政警察官吏ノ地位ニ於テ司法事務ニ關係アル文書ヲ作成スル場合ハ司法警察官吏ノ作成スル方式ニ準シテ作成スベキデアル。又違警罪即決處分ニ關スル文書ハ違警罪即決例ノ規定及所屬長官ノ定ムル例ニ據ルベキテアリ、以下司法警



察ニ關スル書類作成上共通ナル要件ヲ述ブルハ左ノ如シ

### 第一節 司法警察文書ノ一般的要件

司法警察事務ニ關スル文書ハ事實認定ノ資料トシテ確實ナル信憑力ヲ具ヘサルベカラザルガ故ニ其ノ司法警察官吏トシテ作成スル文書ナルト又違警罪即決處分ニ關スル文書ナルトヲ問ハス、最モ嚴格ナル形式ノ下ニ作成セラレサルベカラズ。故ニ茲ニ述ブル處ノ司法警察文書ノ一般的要件ハ苟モ司法警察關係書類ノ作成ニハ必ス具備セサルベカラサルモノナリ。

#### 一、司法警察文書ノ基本的形式

司法警察文書ハ文飾ヲ用ヒズ平易ニシテ眞實ヲ得ルコトニ注意シ、且書類ハ特別ノ規定アル場合ノ外之ヲ作成シタル年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印シ其ノ所屬官公署ニ表示、若シ書類數葉ニ涉ルトキハ每葉ニ契印スベキモノナリ。而シテ文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ容サズ若シ誤記又ハ脱字贅字等アリテ挿入削除又ハ欄外記入ヲナシタルトキハ之ニ認印シ且ツ其ノ字數ヲ上欄ニ記載シ、其ノ削除シタル部分ハ之ヲ讀ミ得ベキ爲字体ヲ存スベキコトハ刑事訴訟法第七十一條、第七十二條司法警察職務規範第十五條ニ規定シアル處ナリ。

#### (一) 年月日及文書作成ノ場所

書類ヲ作成シタル年月日ハ其ノ文書ノ時ニ於ケル位置ヲ定ムルモノナルヲ以テ之ヲ缺クトキハ文書作成ノ時ト、事實發生又ハ事實ガ認メラズ、或ハ取扱ハレタル時トノ關係全ク不明トナリ、文書ノ確實性ヲ失フヲ以テ文書ノ司法的效果ヲ生セザルハ明カナリ。

尙搜查關係書類ニ於テハ文書ノ作成セラレタル場所ノ記載ヲ要ス。此點ハ搜查關係以外ノ書類ニハ之ヲ要スルコト稀ナリ。蓋シ搜查關係書類ニ執リテハ其ノ作成ノ場所ガ手續上重大ナル要件タルガ故ニ必ス之ガ記載ヲ要ス。從ツテ之ヲ缺クトキハ當ニ其ノ信憑力ヲ失フノミナラズ文書トシテ效果ヲモ失フニ至ル場合アリ。

#### (二) 署名捺印

署名トハ作成者自ラガ自己ノ氏名ヲ所定ノ場所ニ筆記スルヲ謂フ。故ニ他人ヲシテ代筆セシメタル場合ハ勿論署名ト云フヲ得ズ、又捺印トハ印影ヲ捺スルヲ謂ヒ、職印ヲ捺スベキ場合ハ職印ヲ指シ其ノ他ノ場合ハ通常認印ヲ用フ。但シ職印ヲ用フルハ職印ノ制アルハ警部補以上ノ警察官ニ限り其他ハ總テ認印ヲ用フルモノトス。

#### (三) 所屬官署ノ表示

文書作成者ガ或テ官署ノ一員トシテ作成セル文書ニハ自己ガ何レノ官署ニ屬スルカヲ其ノ文書ノ署名ノ肩書ニ明記スベキモノナリ。之ヲ所屬官署ノ表示ト云フ。

#### (四) 契印

契印トハ文書ノ二葉以上ヨリ成ル場合ニ於テ之ヲ一体ト認メ得ベキ方法ナキトキハ文書ノ統一及信憑力ヲ失フ虞アルヲ以テ作成者ガ聯絡アル二葉ノ間ニ割印ヲ施シ以テ事後ニ文書ノ葉數ヲ加除シ若ハ變更スルヲ得ザラシムルト共ニ數葉ノ記事ヲ綴合シテ一体タラシムルノ方法ナリ。此ノ契印ハ作成者ガ署名捺印ニ職印ヲ用フル場合ハ職印ヲ以テシ然ラザル場合ハ認印ヲ以テスベキモノナリ。



(五) 文書記載事項ノ部分的變更

司法警察文書ニハ誤記ヲ生スルコトアルモ之ヲ改竄スルコトヲ容ザス。改竄トハ文字ヲ抹消シテ其上ニ新ナル記載ヲ爲スヲ意味ス。若シ斯ル變更法ヲ用フルトキハ文書ノ安定性ヲ失ヒ、信憑力ヲ缺クニ至ルヲ以テ文書ノ部分的變更ハ規定上次ノ如ク嚴格ナル手續ニ依ルベキモノトセリ。

1、挿入

挿入トハ新ニ文字ヲ加入スベキ必要アル場合若ハ誤記ヲ爲シタル際誤リタル文字ヲ加ヘ新タナル語句ヲ附加スベキトキニ行ハル、モノニシテ、其ノ方法ハ文書ノ挿入ヲ要スル箇所ノ行ノ右側ノ行間ニ之ヲ記入シ、鈎線ヲ以テ加入ノ部位ヲ示シタル上其ノ行ノ上方欄外ニ何字挿入ト加入、文字ノ數ヲ表示シ且ツ文字ヲ加入シタル箇所カ若ハ欄外記載ノ箇所カノ孰レカノ一ニ作成者ガ捺印スベキモノトス。

2、削除

削除ハ贅字即チ不用文字ヲ生シタル場合又ハ誤記シタル場合等ニ行フモノナリ。其方法ハ削除ヲ要スベキ字句ノ上ニ線ヲ引キ、削除ヲ表示スルモノニシテ此ノ施線方法ニ付キ特ニ注意スベキハ施線後ト雖モ必ず削除シタル文字ガ讀ミ得ベキ状態ニ在ルヲ要スルコトナリ。是ノ除カシタル文字ガ如何ナル字句ナリシヤヲ明カナラシメ、文書ノ信憑力ヲ確保セントスルニ在リ。而シテ削除ノ場合モ挿入ノトキト同様ニ其ノ旨ヲ行ノ上部欄外ニ記載シ且ツ認印ヲ其ノ削除箇所ニ押捺スベシ。

3、欄外記入

欄外記入トハ書類作成ノ都合上欄外ニ特別ナル説明其ノ他ノ必要事項ヲ記載スル場合ヲ謂フ。此ノ

欄外記入ハ挿入削除ヲ表示スル場合ノモノトハ、全然其ノ趣ヲ異ニスル獨立シタルモノナルヲ以テ捺印ハ必ス欄外記入ノ箇所ニ對シテ行ハルベキモノナリ。

二、捜査事務ニ關スル文書ノ形式

一般捜査ニ共通スル要件ハ次ニ示スガ如シ

(一) 文書ノ表示

文書ノ表示トハ其ノ書類ノ標題ヲ謂フ。例ヘバ告發書、告訴狀、訊問調書、聽取書ト云フカ如ク文書ノ總括的内容ヲ表示スル記載ナリ。從ツテ總テノ捜査文書ハ其ノ内容ヲ速知シ類別スル方法トシ文書ノ表示ヲ爲スベキコトヲ規定セラル、モノデアル。

(二) 行爲ノ時

行爲ノ時トハ例ヘバ犯罪ノ犯サレタル日時又ハ物ノ買取買取或ハ用談等種々ナル行爲ノ行ハレタル時及或ル現象ノ發生シタル時等ヲ云フモノナリ。凡ソ一切ノ事柄ハ時ヲ離シテ生ズルコト無ク時ヲ離レタル記載ハ架空ノ事實ト殆ト擇ブナキ結果ニ生ズ。故ニ一定ノ出來事又ハ行爲アリタルヲ表ス場合其ノ日時ガ何時ナリシヤノ記載ヲ缺クトキハ、事實其ノモノノ根據ヲ失フト同一ノ結果ヲ生ズルヲ以テ法ハ是等ノ記述ニハ時ノ記載ヲ缺クベカラザルモノトセリ。

(三) 行爲ノ場所

行爲ノ場所トハ例ヘバ犯罪ノ行ハレタル地點、賣買取引或ハ其ノ他用談ガ行ハレ又ハ一定ノ事件ノ生ジタル特定ノ地點ヲ謂フ。一切ノ事柄ガ時ヲ離レテ在在セザルト同時ニ場所ニ關係ナクシテ發生セサルハ明カナルヲ以テ此ノ記載モ時ト同一ノ意味ニ於テ缺クベカラザルモノト認メラル、ハ言ヲ俟タ